奈良教育大学 国際交流留学センター
活 動 報 告 書

国立大学法人 奈良国立大学機構
奈良教育大学

2023年３月

巻頭言：新たな局面へ

国際交流留学センター
センター長　吉　村　雅　仁

学生の派遣と受入を基盤にしながら、教員養成大学としての国際交流を促進し、言語や文化の多様性にふれることのできる教育環境を醸成する目的で2014年４月に創設された本学国際交流留学センターは本年度末をもって閉じることになりました。これまで我々が行ってきた国際交流・連携にかかわる多くの活動・業務は、同じく本年度末に閉じる奈良女子大学国際交流センターとともに、奈良国立大学機構の下に新たに設置される国際戦略センターに引き継がれ、両大学の人的物的資源の利用でさらに拡大・発展することが期待されています。

本学の国際交流・連携が新たな局面を迎えようとしている今、国際交流留学センターはこれまでの活動の報告書を刊行することにいたしました。本センターが創設から現在まで何をどのようにどの程度行ってきたのかを振り返ることは、教員養成大学そして奈良における国際交流・連携の在り方を考える上で一つの指針を示すことにもつながるでしょう。規模的には日本で最も小さな国立大学の一つであるにもかかわらず、学生交流に関する協定は６か国10大学、センター設置から2022年度までの受入留学生数は297名、派遣留学生数は36名に上り、かなり積極的な活動を行ってきたと自負しています。今後も、培ってきたノウハウを活かしながら、新センターの一部局として新たなスタートを切りたいと思います。

これまでご協力ご支援をいただいた教職員をはじめとする関係者のみなさまには心よりお礼を申し上げるとともに、本報告書をこれまでの成果を示すものとしてご高覧いただければ幸いに存じます。

2023年３月

目　次

Ⅰ．国際交流留学センターについて

１．基本方針・基本戦略 …… 1

２．国際交流留学センター概要 …… 2

３．協定大学リスト …… 2

４．受入留学生人数・派遣留学生人数 …… 3

５．受入留学生プログラム …… 4

Ⅱ．活動報告（2014年度～2022年度）

１．年次報告 …… 10

1.1 教育研究支援機構発行ニューズレターより抜粋

1.2 国際交流留学生センターホームページ記事より抜粋

1.3 日本語・日本文化研修留学生/協定校交換留学生/教員研修留学生プログラム

2014年度報告 …… 10

2015年度報告 …… 14

2016年度報告 …… 29

2017年度報告 …… 43

2018年度報告 …… 59

2019年度報告 …… 77

2020年度報告 …… 100

2021年度報告 …… 114

2022年度報告 …… 130

２．教育研究活動 …… 139

2.1 2015～2019年度学長裁量経費プロジェクト …… 139

2.2 2020～2022年度シンポジウム・ミニレクチャー …… 142

Ⅲ．運営委員会・センター教員 …… 143

Ⅳ．資料 …… 144

Ⅰ. 国際交流留学センターについて

1．基本方針・基本戦略

1.1 奈良教育大学国際交流に関する基本方針

（平成16年12月22日規則第151号）

改正　平成25年３月６日規則第６号　令和４年４月１日教育大要項等

1　奈良教育大学は、諸外国の大学及び研究機関との交流をとおして、相互の国際理解、国際親善並びに国際的視野に立った教員の養成に資することを目的に国際交流事業を展開する。

2　国際交流の内容は、次の通りとする。

(1)　職員の交流

(2)　学生の交流

(3)　共同研究

(4)　教育、研究に関する情報の交換

(5)　その他、本学にとって有益な交流

3　国際交流の推進にあたっては、本学の目的、規模等を考慮しつつ、広い視野に立ち、計画的に行う。

4　国際交流は、原則として対等、互恵の立場で行う。

5　国際交流の推進を図るため、必要な条件整備に努めなければならない。

6　国際交流のための協定を締結しようとする場合には、交流の内容、意義、方法等について国際交流推進室で検討の上、協定書案を作成し、教育研究評議会に諮る。

7　国際交流事業に関し必要な事項は別に定める。

附　則

この規則は、平成16年12月22日から施行する。

附　則（平成25年３月６日規則第６号）

この規則は、平成25年３月６日から施行する。

附　則（令和4年4月1日教育大要項等）

この方針は、令和４年４月１日から施行する。

1.2 奈良教育大学 国際交流に関する戦略

奈良教育大学は、〈奈良教育大学国際交流に関する基本方針〉に基づき諸外国の大学及び研究機関との交流をとおして、相互の国際理解、国際親善並びに国際的視野に立った教員の養成に資することを目的に国際交流事業を展開する。その為の基本戦略は次のとおりとする。

≪基本戦略≫

1　留学生を受け入れ、学内における異文化交流を促すことで、グローバルな視野を備えた教員を養成する。

2　学生を海外に派遣し、高度にグローバルな視野をもった教員を養成する。

3　研究者・大学院生の国際交流をはかり、研究の国際的推進や教育を通した国際貢献をはかる。

２．国際交流留学センター概要

国際交流留学センターは、持続発展・文化遺産教育研究センターの文化多様性教育研究部門が独立し、学生の派遣と受入を基盤に、教員養成大学としての国際交流を促進し、文化の多様性に目配り可能な教育環境を醸成する目的で2014年４月に創設されました。

その業務内容は国際的視野を持った教員養成に関連するもので、(1) 協定大学に関わる派遣・受入留学の業務、(2) 学内の国際交流活性化、(3) 学内外部署との連携及び情報共有、の三点に集約して進めています。具体的には、今後の予定を含め次のようになります。

(1) 協定大学に関わる派遣・受入留学の業務

派遣留学：面接、事前指導、壮行会、帰国報告会、帰国報告書、超短期プログラム創設の検討など

受入留学：プリキット・来日前学習教材送付、プレイスメントテスト、各種プログラムへの履修指導、文化体験・学習旅行事前指導、修了レポート指導など

(2) 学内の国際交流活性化

なっきょん's cafe、国語教科書を読む会、協定校紹介イベント、新入生への留学生紹介イベント、新規交流イベントの企画運営、特色プログラム創設の検討

(3) 学内外部署との連携及び情報共有

講演会の企画運営、附属校との連携、県内小中高との協力、ホームページ作成

また、日本語・日本文化研修留学生プログラムと教員研修留学生プログラムなど各種の留学生教育プログラムの更新や改良も、留学生と日本人学生との授業内交流を視野に入れて試行しながら進めています。

３．協定大学リスト

本学が国際交流協定を結んでいるのは次の７カ国12大学である。

①ロック・ヘイブン大学（アメリカ）：1986年協定締結。★
②ハイデルベルク大学（ドイツ）：1993年協定締結。★
③セントラルミシガン大学（アメリカ）：1996年協定締結。★
④嶺南大学（韓国）：1999年協定締結。★
⑤ブカレスト大学（ルーマニア）：1999年協定締結。★
⑥リヨン第三大学（フランス）：2004年協定締結。★
⑦西安外国語大学（中国）：2005年協定締結。★
⑧インドネシア教育大学（インドネシア）：2005年協定締結。
⑨公州大学校（韓国）：2009年協定締結。★
⑩華東師範大学（中国）：2009年協定締結。★
⑪光州教育大学校（韓国）：2010年協定締結。
⑫香港教育大学（中国）：2016年協定締結。★

うち★は2022年現在、１年以内の研究者及び（又は）学生交流が可能な大学

4. 受入留学生人数・派遣留学生人数

2014年度～ 2022年度　受入留学生数

		学部レベル			大学院レベル		合　計
		学部学生	研究生	科目等履修生等	大学院学生	研究生	
国費	学部留学生						0
	日本語・日本文化研修留学生			31			31
	研究留学生				2	2	4
	教員研修留学生					31	31
私費	私費留学生	7	79	90	54	1	231
合　計		7	79	121	56	34	297

※研究生のうち、2名は2013年入学2015年3月卒業がいたため、含めている。

協定大学からの受入学生数

（2014年度～ 2022年度、日本語・日本文化研修留学生を含む）

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
アメリカ	セントラルミシガン大学	1	2	3	3	1	4			2	16
	ロック・ヘイブン大学		1	3							4
ドイツ	ハイデルベルク大学	3	2	2	1	2	1		2	2	15
フランス	リヨン第三大学	2	2	1	2	2	2		2	1	14
ルーマニア	ブカレスト大学	1	1	1	4	3	2	1			13
インドネシア	インドネシア	1									1
中国	西安外国語大学	2	2	2	4	6	5	2	4	3	30
	華東師範大学	2		2	2	2	2			2	12
韓国	嶺南大学	1	1	1		1				3	7
	公州大学校								1		1
合　計		13	11	15	16	17	16	3	9	13	113

協定大学への派遣人数（2014年度～ 2022年度）

※2020年度派遣留学生については、コロナ禍の特例としてオンライン留学を認めた。

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
アメリカ	セントラルミシガン大学	2	2	2	1	2	1		1	2	13
	ロック・ヘイブン大学	2	3	2		2	1				10
ドイツ	ハイデルベルク大学	1		1	1		1				4
フランス	リヨン第三大学		3		2				1	1	7
ルーマニア	ブカレスト大学										0
中国	華東師範大学							1			1
韓国	嶺南大学	1									1
合　計		6	8	5	4	4	3	1	2	3	36

5．受入留学生プログラム

国際交流留学センターの受入留学生プログラムは下記の通りである。

- 正規課程
  - 教育学部
  - 大学院教育学研究科

- 文部科学省国費外国人留学生用プログラム
  - 教員研修留学生プログラム
  - 日本語・日本文化研修留学生プログラム

- 交換留学生用プログラム
  - 協定校交換留学生プログラム（米国の協定校、香港教育大学対象）
  - 協定校交換留学生プログラム（その他の協定校対象）

(1) 留学生向けの開講科目

授業科目名		後期 （留学前期）	前期 （留学後期）
日本語科目	日本語Ⅰ	1	1
	日本語Ⅱ	1	1
	日本語コミュニケーション	2	
	日本語演習Ⅰ（読解）		1
	日本語演習Ⅰ（作文）		1
	日本語演習Ⅱ（読解）	1	
	日本語演習Ⅱ（作文）	1	
	日本語文献講読（言語）		2
日本文化・教育科目	日本文化史	2	
	現代日本論		2
	日本人の宗教観	2	
	比較言語文化論Ⅱ	2	
	比較文化論		2
	日本語文献講読（文化）		2
	比較言語文化論Ⅰ		2
	国際文化論		2
	日本語教育論	2	
	日本語教授法特講		2

(2) 留学生教育プログラム等

①教員研修留学生プログラム

a．プログラムの目的

①専門分野に関してより深い知識を身につけること

②日本語・日本文化について理解を深めること

b．プログラムの期間

４月～翌年３月

c．修了要件

①受け入れ教員の指示した科目を履修すること

②プログラム修了時に修了レポートを作成すること

③プログラムで決められた文化体験行事に参加すること

d．科目の履修について

日本語科目

＜春学期・秋学期＞

日本語（週２コマ）

日本事情

e．文化・社会体験

学習旅行（日帰り／ １泊）

伝統芸能の鑑賞（文楽、歌舞伎、相撲など）ほか

②日本語・日本文化研修留学生プログラム

a．プログラムの目的

①日本体験や科目履修を通して、これまで学んできた日本語の能力をさらに向上させる日本文化に対する理解を深める

②帰国後の日本語学習や日本語・日本文化研究に役立つ知識やストラテジーを獲得する

b．プログラムの期間

10月～翌年８月

c．修了要件

①１年間で14科目以上の科目を履修すること（2022年度より）

②プログラム修了時に修了レポートを作成すること

③プログラムで決められた文化体験行事に参加すること

d．科目の履修について

●日本語

＜秋学期＞

	科目名
JLPT-1級（N1以上）	「日本語I」 「日本語II」
JLPT-2級（N2）程度	「日本語I」 「日本語II」 「日本語演習（読解）」 「日本語演習（作文）」
JLPT-N3程度	「日本語コミュニケーション 「日本語演習（読解）」 「日本語演習（作文）」
初級修了程度	「日本語中級①」 「日本語中級②」 「日本語コミュニケーション」

＜春学期＞

	科目名
JLPT-1級（N1以上）	「日本語I」 「日本語II」
JLPT-2級（N2）程度	「日本語I」 ※「日本語演習（読解）」 ※「日本語演習（作文）」 「日本語II」 「日本語文献講読」
JLPT-N3程度	「日本語演習（読解）」 「日本語演習（作文）」 「日本語文献講読（言語）」

●日本文化

＜秋学期＞

- 日本文化史
- 比較言語文化論II
- 日本人の宗教観

＜春学期＞

- 比較文化論
- 現代日本論
- 国際文化論
- 比較言語文化論

◦　日本語文献講読（文化）

e．文化・社会体験

学習旅行（日帰り／１泊）

伝統芸能の鑑賞（文楽、歌舞伎、相撲など）ほか

③交換留学生用プログラム

○協定校交換留学生プログラム（米国の協定校、香港教育大学対象）

a．プログラムの目的

①日本体験や科目履修を通して基礎的な日本語力を習得する日本文化に対する理解を深める

②帰国後の日本語学習や日本語・日本文化理解に役立つ知識やストラテジーを獲得する

b．プログラムの期間

＜１学期＞　９月～12月

＜２学期（１年）＞　９月～翌年８月

c．修了要件

①プログラムで定められた科目を履修すること

②プログラム修了時に修了レポートを作成すること

③プログラムで決められた文化体験行事に参加すること

d．科目の履修について

・基礎日本語会話

・基礎日本語文法

・日本文化史

・現代日本論

e．文化・社会体験

・学習旅行（日帰り／１泊）

・伝統芸能の鑑賞（文楽、歌舞伎、相撲など）　ほか

○協定校交換留学生プログラム（その他の協定校対象）

a．プログラムの目的

①日本体験や科目履修を通して、これまで学んできた日本語の能力をさらに向上させる。日本文化に対する理解を深める

②帰国後の日本語学習や日本語・日本文化理解に役立つ知識やストラテジーを獲得する

b．プログラムの期間

10月～翌年８月

c．修了要件

①１年間で14科目以上の科目を履修すること

②プログラム修了時に修了レポートを作成すること

③プログラムで決められた文化体験行事に参加すること

d．科目の履修について

●日本語

＜秋学期＞

	科目名
JLPT-1級（N1以上）	「日本語I」 「日本語II」
JLPT-2級（N2）程度	「日本語I」 「日本語II」 「日本語演習（読解）」 「日本語演習（作文）」
JLPT-N3程度	「日本語コミュニケーション」 「日本語演習（読解）」 「日本語演習（作文）」
初級修了程度	「日本語中級①」 「日本語中級②」 「日本語コミュニケーション」

＜春学期＞

	科目名
JLPT-1級（N1以上）	「日本語I」 「日本語II」
JLPT-2級（N2）程度	「日本語I」 ※「日本語演習（読解）」 ※「日本語演習（作文）」 「日本語II」 「日本語文献講読」
JLPT-N3程度	「日本語演習（読解）」 「日本語演習（作文）」 「日本語文献講読（言語）」

●日本文化

＜秋学期＞

- 日本文化史
- 比較言語文化論II
- 日本人の宗教観

＜春学期＞

- 比較文化論
- 現代日本論
- 国際文化論

◦　比較言語文化論

◦　日本語文献講読（文化）

ｅ．学習旅行（日帰り／1泊）

・伝統芸能の鑑賞（文楽、歌舞伎、相撲など）　　ほか

④大学院教育学研究科

留学生向け開講科目

日本語補習Ⅰ～Ⅳ

（2022年度～）日本語補講Ⅴ～Ⅷ

Ⅱ．活動報告（2014年度～2022年度）

1．年次報告

2014年度

1.1 教育研究支援機構発行ニューズレターより抜粋

本センターは、持続発展・文化遺産教育研究センターの発展的解消に伴い、その文化多様性教育研究部門の業務を引き継ぐと共に、国際的視野を持った教員養成の基盤としての業務内容を担う目的で、新たに創設されたセンターです。従って、その初年度に当たる今年は、これまでの業務内容を整理した上で、(1) 派遣・受入留学に関わる業務を核として、(2) 学内の国際交流活性化に取り組み、(3) 学内外部署との連携及び情報共有を試行することで、来年度以降の継続及び新規業務への基礎作りをしてきました。

(1) 派遣・受入留学に関わる業務

派遣留学：面接、事前指導、壮行会、帰国報告会、帰国報告書（予定）、超短期プログラム創設検討（予定）など

受入留学：プリキット・来日前学習教材送付、プレイスメントテスト、各種プログラムへの履修指導、文化体験・学習旅行事前指導、修了レポート指導など

(2) 学内の国際交流活性化

なっきょん's cafe、国語教科書を読む会、協定校紹介イベント、新入生への留学生紹介イベント、新規交流イベントの企画運営（予定）、特色プログラム創設（予定）

(3) 学内外部署との連携及び情報共有

講演会の企画運営、附属校との連携、県内小中高との協力、ホームページ作成

また、日本語・日本文化研修留学生プログラムと教員研修留学生プログラムの更新や海外留学支援制度への申請（今年度は派遣・受入ともに追加採択されました）なども、派遣・受入に関わる間接的な業務として行っています。

一方、これまでの留学生と日本人学生の交流は、クラブ活動など授業外交流（out-of class activity）が主なものでした。しかし、より有意義な交流は授業内交流（in-class activity）を通じて活発になるとの観点から、センターではその実現に向けて検討していくつもりです。

＊今年度の主な業務としては以下の通りです。

1．2013年度協定校・日研生の学習結果発表会、修了懇談会、及びレポート集発行
2．センター主催ワークショップ「話し合いのススメ―自律型対話の理念と実践」
3．2014年度協定校・日研生へのプリキット送付と新留学生のオリエンテーション
4．斑鳩中の法隆寺現地案内学習への協力及び
5．附小の外国語活動及び附中の校外学習への留学生派遣
6．絵本のひろばプレイベントにおける国語教育専攻学生との留学生の協働
7.異文化理解教育への協力として、佐保台小、山添中、飛鳥幼稚園、耳成西小、椿井小、帯解小への留学生の派遣
8．教員研修留学生プログラムの改善に向けて、山添村の国際交流事業への協力としてホームステイを実施
9．27年度に向けての日本語・日本文化研修留学生プログラムと教員研修留学生プログラムの更新と海外留学支援制度（JASSO）への申請
10．授業内交流実現に向けた各種取り組み

1.2 国際交流留学生センターホームページ記事より抜粋

本学の学生と留学生が附属中学校で異文化理解の授業を行いました。（2015年1月28日）

学部科目「日本語教育論」の受講生が授業での学びの実践として、本学附属中学校１年生の異文化理解活動に協力しました。

参加者は、日本人学生１名+留学生４ ～ ５人のグループになり、各組で文化紹介の活動を担当しました。50分間の活動内容はすべてグループで相談して決めます。グループで何ヶ月もかけて教案を作成し、大学教員、附属中学校教員の指導を受けながら当日に臨みました。

活動後は、中学生のみなさんが日本の文化を紹介する活動でした。書道や茶道、剣玉や羽子板など、日本伝統の文化を一緒に楽しみました。最初は緊張でガチガチの様子でしたが、生徒や担任の先生たちの協力のおかげで、すばらしい教育実践を体験することができました。またお互いの文化を紹介しあうことで、相互理解を深めることもできました。

留学生科目「日本語コミュニケーション」の発表会を行いました。（2015年２月４日）

2015年２月４日（水）に留学生用科目「日本語コミュニケーション」の発表会を行いました。この授業では、後半８回の授業の中で「奈良の伝統と現代の人々の生活」と題したプロジェクトワークを行いました。各グループで決めたテーマについて、文献を調べたり、奈教大学生や地域の方たちにインタビューやアンケートを行ったりして、奈良の伝統と今について理解を深めました。

グループ発表のタイトルは以下のとおりです。

１．観光地としての奈良公園の魅力　　＜ライスカン＞グループ
２．奈良の鹿の生存現状についての考察　　＜ナラナラシカシカイナイ＞グループ
３．長谷寺 － 霊場と観光地　　＜奈良市以外の魅力的な場所ー長谷寺＞グループ
４．四季の中で眺めを楽しむ文化　　＜魂憂自観＞グループ
５．奈良市における「映画生活」　　＜映画生活研究会@なら＞グループ
６．奈良ーのイメージ。。。？＜パナク＞グループ
７．現代奈良における伝統 ―商店街の伝統的な観光資源―　　＜袢纏＞グループ

留学生が喜光寺で日本文化（写経・茶道・茶がゆ）を体験しました。（2015年２月12日）

２月12日（木）、本学の留学生たちが、奈良市にある喜光寺で日本文化体験を実施しました。
喜光寺は行基によって建立され、東大寺のモデルにもなった由緒あるお寺です。
留学生たちは「いろは写経」を願い事とともに納めた後、茶の湯を体験し、日本人の心の原点に触れました。
　また、昼食には、奈良の伝統料理「茶がゆ」をいただき、五感で奈良の文化を学ぶことができました。

本学留学生（日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生）が相撲を楽しみました。（2015年３月９日）

2015年３月９日（月）に大阪大学日本語教育関係共同利用拠点日本語・日本文化教育研修共同利用拠点事業の一環として、本学留学生（日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生）が大阪大学の留学生とともに相撲を楽しみました。
まず奈良国立博物館の特別陳列「お水取り（修二会しゅにえ）」の展示で奈良の伝統行事について学んだあと、奈良県葛城市にある「けはや座」に向かいました。「けはや座」は相撲の開祖『當麻蹶速』を顕彰する目的でオープンした施設で、誰でも土俵にあがる経験をすることができます。その後、大阪BODYMAKERコロシアムに移動し、大相撲を観戦しました。力士たちの体当たりの取り組みと観客の熱気を目の当たりにし、日本古来の文化を学びました。

H26年度教員研修留学生プログラムの修了式が行われました。（2015年３月18日）

2015年３月18日（水）にH26年度教員研修留学生のTOKIRD Kanokratchさん（タイ）、ENRIQUEZ RANGEL Jorge Albertoさん（メキシコ）、AHMED Ijlal Eltahirさん（スーダン）が１年半（うち半年は大阪大学での日本語集中研修）を修了しました。修了式に先立って、修了生による日本での経験については発表会が行われました。会にはプログラムでお世話になった教職員、地域のみなさんも出席し、奈良で生まれた絆がこれからも続くことを祈りつつ、名残を惜しみました。

1.3 日本語・日本文化研修留学生/協定校交換留学生/教員研修留学生プログラム

●2013年度受入　日本語・日本文化研修留学生･交換留学生

大使館推薦 日本語・日本文化研修留学生	12名	インド共和国共和国、ブラジル連邦共和国、アゼルバイジャン共和国、ウクライナ、エストニア共和国、スロベニア共和国、ハンガリー、ベトナム社会主義共和国、インドネシア共和国、ポーランド共和国
大学推薦 日本語・日本文化研修留学生	4名	Ⅱ－４ 協定大学からの受入留学生数参照
国際交流協定に基づく特別聴講学生	14名	

修了レポートタイトル一覧

「日本髪に関する一考察－江戸時代の女性の髪形を中心に－」

「日本の大学における弁当文化の研究
　－奈良教育大学附属中学校における実地調査の結果から－」

「日本において本音と建て前の曖昧さに関する分析」

「広島・長崎の原爆投下に関する研究」

「日本のゲームと日本の歴史と日本の文化の関係」

「「小倉百人一首」と現代日本の若者－和歌は今の日本若者の心を表すか－」

「平安時代女流日記文学についての考察」

「日本の小学校英語教育」

「タトゥーと入れ墨」

「日本の城の特徴－日本の城郭とハンガリーの城郭の比較－」

「武士道の理念が社会・文化に与える影響に関する一考察：明治時代から現代まで」

「ヤクザ－日本社会の裏－」

「漫画の中のBL」

「ベトナム人に対する漢字の教え方についての一考察」

「小林一茶の俳句における慈悲の心の一考察」

「日本語の学習経験」

「私の日本での経験」

“An American International Student in Nara: Journalism, Anthropology and Life working together to create a unique experience”

●2014.4-2015.3 教員研修留学生

３名	スーダン共和国共和国、タイ王国、メキシコ合衆国

研究報告書

“CONSIDERING OF AGE EFFECT ON YOUNG ENGLISH LEARNER: JAPANESE ELEMENTARY”

“MORAL EDUCATION AND IDENTITY: HELPING ELEMENTARY SCHOOL STUDENTS TO DISCOVER THEMSELVES”

“LEARNING, TEACHING MATHEMATICS MODELLING IN EDUCATION USING TECHNOLOGY IN JAPANESE CLASSROOM”

2015年度

1.1 教育研究支援機構発行ニューズレターより抜粋

受け入れ・派遣留学生の学内外の活動を通じての交流を主眼に、既設プログラムの充実を図りながら、地域との交流を活発化させ、国際的視野を持った教員養成の一端を担うべく設立された当センターの、設立２年目の活動は以下の通りであった。

(1) 受入留学生プログラムに関して

このプログラムは、(A) 日本語による授業が受講可能な学部留学生、日本語日本文化研修留学生、そして日本語専攻がある協定校からの留学生に提供されるもの、(B) 日本が未習、または初級レベルの協定校からの留学生に提供されるもの、そして (C) 海外の現職教員が文部科学省の奨学金を得て、日本の教育事情を研修する留学生に提供されるものの三つがあり、今年度は初年度に引き続き、その改善点を視野に入れて活動した。

(A) **成果**：プログラムの成果発信の場として、前期と後期に発表会を開催し、学内に広く公開した。

改善点：日本語能力が中上級から上級以上の幅広い留学生を受け入れているので、レベル別科目の新設への暫定的措置として後期に補講１コマを儲け対応した。

(B) **成果**：このプログラムの前期に当たる12月に「日本とアメリカの大学生活」と題した英語と日本語による口頭発表を、また後期に当たる７月に日・英語でのポスター発表を学内に広く公開して行った。

改善点：諸般の事情から、日本語未習の留学生と、初級レベル既習の留学生に同一プログラムを提供しており、今年度も補講で両者の日本語能力の差に対応した。しかし、今後この教育環境では、協定見直しも予想されるため、このプログラムの早急な再編成が必要である。

(C) **成果**:研修中盤（７月）に「自国での教職」（日・英語)、研修終了時（３月）に「日本での経験」(日本語）と題した発表会を開催した。また、地域交流として、山添中学校を訪問（７月、12月)、更に山添村国際交流イベント（11月）に参加した。

改善点：山添村との交流においては、双方に成果はあるものの、相互互恵の点で交流内容を改善する必要があり、今年度締結された山添村との協定内容に基づき、更に協議を重ねていくつもりである。

(2) 留学生・日本人学生の共修機会の提供

①前期には教員養成科目と留学生用科目の一部（各３回）を合同授業とし、日本字学生と留学生の共修を通じた異文化理解能力育成に資する教育実践を行った。

②後期には附属小学校の外国語活動支援を協働で行った。教育実践に関しては、研究報告やとポスター発表により、その成果を外部発信した。

次年度以降においては、合同授業を中心とした留学生、日本人学生の共修を、教員養成プログラム・留学生教育プログラムの中に、どの様に構造的に位置づけていくかを検討しながら、国際的視野を持った教員養成プログラムへと深化させていくつもりである。

(3) 地域、附属校との連携

①附属小学校との連携

附属小学校独自の「言語・文化」活動との連携を視野に、(2) の①の合同授業で準備し、11月に行われた附小父兄参観日の５年次「言語・文化」の授業に、留学生と日本人学生が協働して協力した。

②附属中学校との連携

留学生プログラム科目の一つの受講生（留学生18名、日本人学生４名）が附属中学校１年生を対象とした異文化理解教育の授業の企画、実施を担当し、履修学生・附中関係者双方の異文化間能力育成に資する活動を展開できる場を提供した。

③地域貢献

ボランティアサポートオフイスなどの関係機関と連携し、主として奈良市の小中学校からの要望により、留学生及び日本人学生を派遣した。

以上のように、留学生プログラムを核にして、学内における国際交流の環境を醸成すると共に、その活動内容や成果を必要に応じて学内外へ発信すると同時に、海外協定校派遣留学生が得た成果を、帰国後に学内に効果的に還元させることに取り組むことで、当センターは、本学国際交流の基本方針の一端を担うべく、次年度以降も積極的な「プログラム改善」に努めていくつもりである。

1.2 国際交流留学生センターホームページ記事より抜粋

外国人留学生懇談会を開催しました。（2015年４月９日）

2015年４月９日（木）、なっきょん食堂にて「外国人留学生懇談会」を開催しました。

懇談会には学内の教職員、学生がたくさん参加してくださり、新しく迎えた11名の留学生（教育学部（２名）、大学院教育学研究科（４名）、研究生（５名））を歓迎しました。

留学生による国紹介イベントが行われました（2015年４月20日～21日）

毎年恒例の留学生による国紹介イベントが今年も４月20日、21日の二日間、行われました。１日目は各国の料理を試食するコーナーが出されました。あいにくの雨の中、たくさんの方に日本ではなかなか食べられない珍しい料理の味を体験してもらうことができました。

【紹介した各国料理】

ルーマニア：	ママリガ（コーンのコナで作った主食）
ロシア：	ブティエテルボロドゥ（ハムのサンドイッチ） ロシアのクッキー 砂糖たっぷりレモンティー
アメリカ：	スモア（焼きマシュマロのクッキーサンド）
インド：	パンクラッシュ（Bread Bhaji・カレー味のパン）
ハンガリー：	ガチョウの油を塗ったパン
インドネシア：	マルタバックミー（オムレツヌードル）

２日目は各国のブースで文化紹介ラリーが行われました。ブースを順番にまわってクイズに答えると、各国の有名なものの写真がもらえるという趣向で、参加者のみなさんは熱心に留学生の説明に耳を傾けていました。

今年は、留学生サポーターの日本人学生も準備段階から協力してくれました。イベント開催に協力してくれた留学生、日本人学生のみなさん、そして当日参加してくださったみなさん、どうもありがとうございました！

お昼休みになっきょん's cafeを開催します（2015年５月20日）

なっきょん's Cafeは、月に一度のお昼休み、留学生と一緒にご飯を食べながら楽しくトークするというものです。毎月トークのテーマも決まっていますが、もちろんどんなテーマでもOK！ききたいこと、知りたいことがあればどんどんきいちゃおう♪

５月の開催は以下のとおりです。詳細は後日お送りする学内メールをご覧ください。

日時：2015年５月20日（水）　　お昼休み

場所：食堂の一角（「なっきょん's cafe」の看板が目印です！）

よかったらご飯を買ってぜひ参加してください（^^♪

留学生学習旅行で答志島に行ってきました。（2015年６月30日）

2015年４月24～25日、暑いくらいの晴天の中、日本語・日本文化研修留学生、交換留学生、教員研修留学生が三重県答志島に学習旅行に行ってきました。答志島ではや島内オリエンテーリングや旬のワカメをはじめとする食文化体験等、さまざまな活動を通じて、奈良とはちがった「島の生活スタイル」を体験しました。

ボランティアの方々、答志島最年長（80歳）の現役海女さん、小学生の子供たち、幅広い世代のみなさんとの心温かい交流で、留学生たちは日本の新たな一面を学ぶことができました。

教員研修留学生が山添中学校の生徒と交流をしました。（2015年７月10日）

2015年７月10日（金）、本学で受け入れている教員研修留学生の３名が、日本語日本文化教育の一環として山添中学校を訪問し、生徒や先生方と交流しました。

教員研修生は１年～３年生までの３クラスそれぞれで、日本語で自国の紹介の発表行いました。事前準備ももちろんしっかして臨みましたが、さすがは現職教員！教壇に立ってお話しする姿は堂々たるものでした。

発表のあとは英語で中学生からの質問に答えました。生徒たちには日ごろの英語学習の成果を試すいいチャンスにもなったようです。

山添中学校の先生方、生徒のみなさん、ありがとうございました！

英語で日本の教育に関するレクチャーを聴きませんか？

国際交流留学センターより英語でのレクチャーのご案内です。
センターでは教員研修留学生向けに開催する以下のレクチャーを全学学生向けに公開します。
参加希望の方は国際交流オフィス（kokusai_ryugaku@nara-edu.ac.jp）までお申し込み下さい。

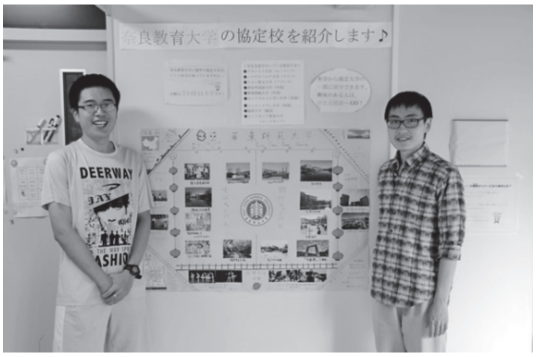
◇◆

日時：７月22日（水）13：30 ～ 15：00
場所：未定（決まり次第お知らせします）
講師：中井隆司先生（教職大学院）
内容：日本の教員養成プログラムと教育問題（PISAを中心に）教員研修留学生を交えたディスカッション
申し込み：国際交流オフィス（kokusai_ryugaku@nara-edu.ac.jp）あてにメールでお申し込みください。
申込締め切り：７月20日（月）

◇◆

協定校、華東師範大学の紹介ポスターを掲示しています

国際交流室横の壁面スペースに、本学協定校の１つ、中国の華東師範大学の紹介ポスターを掲示中です。
どうぞご覧ください。



留学生向け日本語クラスで詩を作りました。（2015年７月16日）

留学生用科目「日本語文献講読（言語）」の授業の一環で谷川俊太郎作「生きる」を読みました。
読解後、受講生がグループになって自身の「生きる」をテーマに詩を作りました。

派遣留学プロモーションウィークで教員研修留学生が発表をしました。（2015年７月24日）

７月21日（火）から７月28日（火）まで開催された「派遣留学プロモーションウィーク」のプログラムとして、2015年７月24日（金）に教員研修留学生が日本語で発表を行いました。

３名の教員研修生はそれぞれの国（スーダン、カンボジア、メキシコ）とご自身の国での教職について説明してくれました。NUOMAN MOHAMMED SIDAHMED MOHAMMEDさんは、ナイル川が流れるスーダンの雄大な自然やアラビア文字について紹介しました。UN Vuthaさんは、世界遺産のアンコールワットの紹介とともに、内戦によって失われたカンボジアの教育の建て直しが行われている現状をお話くださいました。また、MONCADA HERNANDEZ Saul Albertoさんは体を使ったメキシコのゲームを教え、最後に参加者みんなで童心にかえってゲームを楽しみました。

３名の教員研修生のみなさん、参加者のみなさん、どうもありがとうございました。

平成26年度日本語・日本文化研修留学生／交換留学生　最終発表会が開かれました（2015年７月30日）

2014年10月に来日した日本語・日本文化研修留学生と交換留学生が約１年間のプログラムを修了するにあたって、2015年７月30日、本学図書館ラーニングコモンズにおいて最終発表会を行いました。留学生は、各自の専門分野や興味に応じてテーマを選び、修了レポートをまとめました。最終発表会では、修了レポートの内容をポスターにまとめ、発表しました。それぞれの発表は奈良教育大学での研修成果にふさわしい興味深い内容で、聴衆と活発なディスカッションが繰り広げられました。

留学生たちが奈良実習園で稲刈り体験をしました（2015年10月14日）

10月14日（水）、自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「奈良実習園で稲刈り体験！」を開催しました。これは学生支援課が、大学で共に学ぶ留学生と日本人学生に出会いと交流するきっかけ作りにしてもらおうと、毎月ユニークな国際交流イベントを提供しているもので、今回は秋の恒例「稲刈り体験」を行いました。

当日は、この10月から留学生活をスタートさせた各国からの留学生と日本人学生ら12名が参加し、箕作准教授による日本の米作りの流れについて講義を受けたあと、実際に鎌をもって稲刈り作業を体験しました。この日は晴天に恵まれ、10月半ばとしてはとても暑い日となりま

したが、長靴、軍手を装着した参加者は、みな真剣に稲刈り作業に取り組みました。

留学生たちの自己紹介ポスターを掲示しました

国際交流室横の壁に留学生たちの自己紹介ポスターを掲示しました。皆、日本語で頑張って作成しましたので、ぜひご覧になって下さい。

留学生と日本人学生が本学附属小学校「言語・文化」の活動に参加しました。（2015年11月28日）

11月28日（土）に留学生科目「日本語コミュニケーション」と教職関連科目「小学校外国語活動（水１．２コマ）」の学生が、附属小学校の「言語・文化」の活動に参加しました。

附属小学校には母語と他言語、自文化と他文化について理解を深める「言語･文化」という独自の活動があります。2013年からは、文化の多様性に触れることを目的に、５年生の活動で様々な国から来た本学の留学生が文化紹介を行っています。国紹介の準備にあたっては「小学校外国語活動（水１．２）」の履修生が全面サポートしてくれました。今年は保護者の方々も参観される中での活動となり、留学生たちは少し緊張気味に準備の成果を披露しました。

また活動後半には、みんなで一緒に日本語のことばのルールを見つけるアクティビティを行いました。「温泉たまご」と「たまご温泉」。全員で絵を描いて、２つの言葉から見えてくる日本語のルールを探しました。子供たちの質問に答えられないなど問題があったときにも日本人学生たちがしっかりサポートしてくれ、40分間の活動はあっという間に無事に終了。子供たちや父兄の皆様からも「いい活動だった」とお褒めの言葉をいただき、準備の活動を含めて、附属小児童、本学学生（留学生、日本人学生）にとって有意義な学びの機会となりました。

奈教大、国際交流イベント「留学生と一緒に若草山から大学を見下ろそう！」開催しました（2015年11月11日）

11月11日、在籍する留学生と日本人学生とが交流するきっかけにしてもらおうと、「留学生、日本人学生と一緒に若草山から大学を見下ろそう！」と題して、大学に近接する若草山の山頂までのハイキングイベントを開催しました。

大学から登山口までは、観光客で賑わう世界遺産「春日大社」境内を抜けるルートとなっており、奈良の観光名所も同時に楽しむことができました。颯爽と先頭を進んで行く学生、後方から山道の勾配に苦労しながら進んで行く学生と様々でしたが、登山口から約１時間で全員山頂まで行くことができ、参加者は山頂から眼下にひろがる奈良の街の景色を楽しんでいました。

第１回『なっきょん's cafe』開催しました（2015年11月25日）

11月25日（水）　お昼休みに『第１回　なっきょん's cafe』が開催されました。この日は、とても寒くあいにくの空模様でしたが、留学生たちは奈教学生達と一緒に楽しいときを過ごせたようです。この日のテーマは「奈良のおすすめスポット」でした。

近江八幡に学習旅行に行ってきました（2015年11月６日）

日本語日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生21名が秋の日帰り学習旅行で近江八幡に行ってきました。当日は、気持ちのよい秋晴れの下、元気に出発！

まず、水茎焼きの陶芸体験を楽しみました。初めて陶芸をする留学生もスタッフの方々に教えていただきながら、思い出に残る作品を作ることができました。つづいては水郷めぐり。静かでゆったりとした時間の中で、俳句を詠みました（留学生の作品は記事の最後をご覧ください）。最後は近江八幡の歴史的な町並みの散策です。留学生はボランティアガイドさんの説明に熱心に耳を傾けました。

奈良とは一味違った歴史と自然の中で、日本についての理解を深めることができた一日となりました。

アメリカからの留学生が発表会を行いました。（2015年12月22日）

本学はアメリカの協定校が２校あります。今年度もセントラルミシガン大学から２名、ロックヘイブン大学から１名の留学生が本学で日本語・日本文化学んでいます。
12月22日、９月に来日して約４ ヶ月の学びの成果を発表会で披露しました。日本語学習を始めて１年程度の３名ですが、日本語だけで「日本とアメリカの大学生活」についてすばらしい発表を行いました。この日は秋学期最後の日。発表会後には参加者と一緒に発表者の健闘をたたえつつ、年忘れの茶話会を行いました。

＜プログラム＞
「キャンパスの生活のひかく」（ロックヘイブン大学／ナレスニック・ポール）
「日本とアメリカ　大学のぶんか」（セントラルミシガン大学／ライス・ドナルド）
「大学の生活」（セントラルミシガン大学／ハリントン・エリン）

留学生と学生サポーターが一緒にランチ会を行いました（2015年10月21日）

10月21日（水） 留学生と学生サポーターさんのランチ会を行いました。慣れないキャンパスライフや私生活のこと等、話は尽きなかったようで、始終和やかな雰囲気で楽しい時間を共有できたようです。

12月のなっきょん’s cafeを開催しました（2015年12月16日）

12月16日に今年最後のなっきょん’s cafeを行いました。テーマは「いろいろな国の年末年始」。クリスマスやお正月、、、日本でも年末年始はたくさんのイベントが目白押しです。各国の年末年始の過ごし方を紹介しあって、いろいろな文化に触れることができました。なっきょん’s cafeは毎月１回、昼休みに開催しています。留学生と日本人学生がお昼ご飯を食べながらざっくばらんに日本語でおしゃべりする会です。出入り自由ですので、どうぞ気軽にご参加ください。

国際交流イベント「もちつき大会」を開催しました（2015年12月16日）

平成27年12月16日（水）、自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「もちつき大会」を開催しました。

当日は、日本人学生とこの９月、10月から留学生活をスタートさせた各国からの留学生ら11名が参加し、辻野亮准教授（生態学、環境学）による日本の米作りの流れについて講義を受けた後、実際にもちつきを体験しました。

今回の参加者は日本人学生も含め、全員もちつきは初めての体験であったこともあり、多くの学生が初めて持つ杵の重さに驚くとともに、初めは慣れない様子でもちをついていました。しかし、センター教職員の指導や友人のかけ声の下、一生懸命もちつきに取り組み、３周して終わる頃には、熟練した様子の学生もいました。

また、ついたもちは、その場で小さく丸めて、きな粉や醤油を付けてみなで食べ、つきたての柔らかさに感動した様子でした。来日時期の都合上、イベントの順番は稲刈り、もちつき、田植えとなりますが、いずれに参加した学生も、お米が作られる過程を学ぶことで、その大切さを改めて感じているようです。

シンポジウム「第１回　言語文化教育におけるグローバル人材育成」が開催されました（2015年12月12日）

12月12日（土）に本学大講義室にてシンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材育成」（学長裁量経費プロジェクト）が開催されました。このシンポジウムは２回シリーズで行われ、第１回にあたる今回の「言語文化教育におけるグローバル人材育成」では、言語文化教育に焦点を当てて、教員養成大学としてのグローバル人材とは何か、その育成のために何が必要かについて考えました。

本学学生を含む約100名の方にご参加いただき、有意義な情報共有と意見交換が行われました。講演の細川英雄氏（言語文化教育センター主宰、早稲田大学名誉教授）は、高校生を対象とした自分誌記述活動の実践を踏まえて、「ことばの学び」が「言語を習得する」ことではなく、「ことばによって活動する」ことで一人一人がアイデンティティを自ら形成・実現していくことであると述べ、そのことばの活動を軸に、言語教育においても、他者を受け止め、対話を展開する場を形成する必要性があると述べられました。

また、言語や文化はハイブリッドなものであり、「一人一人違う」されど「人はみな同じ」という前提のもと、自己を発信する、他者を認める、社会協働参加への意識をもつことが「グローバル人材」への第一歩であるという認識を提示されました。続く、実践報告「留学生教育と連動した言語文化教育の実践」では、2015年度前期に開講された英語教育専修専門科目「異文化理解研究」と留学生向け科目「現代日本論」の合同授業の実践において、履修生が「異文化・異言語の壁」をどう捉えたかが紹介されました。また実践報告「附属小学校「「言語・文化」の実践」では、中学以降の外国語教育の土台としての外国語活動「言語・

文化」の実践で、附小児童・教員がどのような気づきや学びを得たかについて報告が行われました。４時間にわたる長時間のシンポジウムでしたが、本学の言語文化教育とグローバル人材育成について考える上で、非常に有意義な機会になりました。

附属中学校を訪問し、異文化理解の活動をしました。（2016年11月７日）

国際交流留学センターでは、毎年１月に附属中学校を訪問し、１年生との交流会を実施しています。交流会に参加するのは、学部科目「日本語教育論」を受講している学生です。日本語教育は日本語を外国語として学んでいる人に対する外国語教育の一つです。

授業では、外国語としての日本語のしくみや、外国語や外国の文化を教える際の注意点を、アメリカやオーストラリア、ヨーロッパ等の学校教育における例も参考にしながら学びます。そして、この交流会ではその学びを踏まえて、留学生は中学生にとって外国の文化である自文化を紹介し、日本人学生は日本文化について留学生たちの文化との相違点や共通点を示しながら紹介しました。

１組は、日本、韓国、インドネシア、韓国の４名が「おばけ」をテーマに授業を行いました。各国のおばけのイラストを見て、どんなおばけか予想する活動では中学生からユニークなアイデアが出ました。

２組は、中国、インドネシア、ロシアの３名が、各国の有名な料理を紹介しました。それぞれの国・地域の料理がその土地の風土や歴史と深く関わっていることについても説明し、最後はロシアのカードゲームで盛り上がりました。

３組は、ドイツ、ルーマニア、中国の３名が、各国の「怖い話」をテーマに授業を行いました。各国の「怖い話」がどんな背景から生まれたのかについても解説しました。

４組は、日本、チェコ、インドの３名が、各国の食にまつわる習慣を紹介しました。食に関することわざや習慣のクイズを交えながら、３カ国の共通点と相違点について取り上げました。そこで出されたクイズを１つご紹介しましょう。

「インドでは、大切な試験を受ける前に何を食べるとよいと言われているでしょう？」みなさん、おわかりですか？

交流会の後半は、中学生たちが日本の伝統的な遊びや文化の体験ブースを作って、紹介してくれました。中学生たちの心温かいおもてなしに、本学学生も感激していました。附属中学校の１年生をはじめ、関係者のみなさん、どうもありがとうございました。

留学生科目「日本語コミュニケーション」プロジェクトワーク「奈良の伝統と現代」成果発表会が行われました。（2016年２月４日）

留学生対象として後期に開講されている「日本語コミュニケーション」は、実践的に日本語を使用することで、日本文化に関する理解を深め、日本語の知識やスキルを伸ばしていくことを目的とした授業です。授業後半は、「奈良の伝統と現代」と題したグループでのプロジェクトワークを行いました。

「奈良といえば『伝統的なまち』」
本学の留学生のほとんどすべてが持っている印象です。自国でも、奈良を始めとする日本の歴史や文化についてたくさん勉強してきている留学生ばかりですが、「その『伝統』が現代の人たちとどのように関わっているのか？」については考えたことが少ないようです。そこで、この授業では、奈良に留学したからこそ理解できることを探して、４つのグループに分かれインタビューやアンケートを含む調査を行いました。

そして迎えた成果の発表会の日。各グループで準備したパワーポイントを使って、みなさん分かりやすく発表することができました。今回のプロジェクトワークを通じて新たに生まれた疑問もあった様子です。残りの留学期間中も引き続きテーマに興味を持ち続けてくれることと思います。

＜プログラム＞
若草山のいろいろ
若草山チーム（ユジュン（韓国）、バグス（インドネシア）、ヨウ（中国）、ジソプ（韓国））
神さまと暮らす春日大社とその主人たち
いのしし組（バルバラ（ポーランド）、シロ（中国）、アンナ（ロシア）、レギナ（チェコ））
世界遺産、法隆寺
くだら観音（ソリナ（ルーマニア）、ジョナス（フランス）、プリリ（インドネシア））
奈良と外国人の関係
きずな（エミリー（フランス）、プリーティ（インド））

国際交流留学センター 頓宮勝センター長の最終講義が行われました。（2016年２月13日）

今年３月をもって定年を迎えられる、国際交流留学センター頓宮勝センター長の最終講義「文献学（Philology）から文化学（Culturology）、そして…」が行われました。

約30年にわたり、本学の留学生教育、国際交流にご尽力された先生の最後のご講義とあって、在学中の留学生や国語教育専攻の学生、本学教職員だけでなく、先生がこれまで指導されてきた留学生や日本人学生のみなさん、留学生教育、国際交流に携わってこられた退職教員の先生方もかけつけ、インド文献学から比較文化学につながる先生のお話を興味深く聞かれていました。

またご講義のあとには、国際交流室にて、頓宮先生を囲んで卒業生との茶話会が開かれました。懐かし

い顔ぶれに、とてもあたたかな記念の会となりました。
４月からも引き続き本学でご講義をされる予定ではありますが、この節目に、頓宮勝先生に改めて感謝申し上げます。

今年度最後のなっきょん's cafeを開催しました（2016年２月３日）

２月３日になっきょん's cafeを行いました。テーマは「おすすめ国内旅行スポットや好きな場所、日本で旅行してみたい場所」。日本人学生と留学生が、これまで行ったことのある国内旅行のおすすめスポットやこれから行ってみたい場所について紹介しあいました。春休みを目前に控えていることもあり、参加者同士、興味津々でおしゃべりしました。

また、この日はちょうど節分。「鬼は外～！福はうち～！！」の豆まきはそこそこに、豆まき用の豆もみんなでおいしくいただきました。今年度のなっきょん's cafeは今回が最終でしたが、来年度からも毎月１回、昼休みに開催します

大阪大学の留学生と一緒に、大相撲観戦に行ってきました。（2016年３月15日）

毎年恒例の大相撲観戦に日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生の18名が参加しました。当日は奈良の当麻寺で当麻曼荼羅の絵解きを聴講したあと、大阪なんばの府立体育館に移動し、大相撲三月場所を観戦しました。満員御礼の会場で初めて見る大迫力の取り組みを、みなさん大きな声援を送りながら楽しみました。

なお、本プログラムは大阪大学日本語・日本文化教育研修共同利用拠点事業として大阪大学の日本語・日本文化検収留学生48名との合同で実施されました。

1.3 日本語・日本文化研修留学生/協定校交換留学生/教員研修留学生プログラム

●2014年度受入　日本語・日本文化研修留学生･交換留学生

大使館推薦 日本語・日本文化研修留学生	12名	インド共和国、インドネシア共和国、ベトナム社会主義共和国、ハンガリー、ポーランド共和国、ロシア連邦、イラン・イスラム共和国
大学推薦 日本語・日本文化研修留学生	3名	Ⅱ－4 協定大学からの受入留学生数参照
国際交流協定に基づく特別聴講学生	10名	

修了レポートタイトル一覧

「調味料に例える顔タイプの俗語に関する一考察　－検索サイト上の事例と実際の事例の比較－」
「日本のビジネスにおける異文化コンフリクト」
「日本の高校野球における考察－歴史と魅力を中心に－」
「日本の工業規格に関する一考察－日本製品の特質の秘密－」
「日本におけるエコの意識」
「ゆるキャラの経済的及び社会的効果に関する一考察」
「男性が使う終助詞「わ」」
「日本のお化けに関する一考察」
「現代若者のことわざの使用について
－日本の動物にまつわることわざを例として－」
「日本仏教においての女性－比丘尼についての考察－」
「日本語における人称的な表現の定義及び分類に関する一考察」
「ミハイル・ブルガーコフ作の「巨匠とマルガリータ」の
日本語訳におけるロシア文化要素の翻訳方法の一考察」
「自国の伝統文化に対する若者意識－ロシアと日本の比較－」
「茶道と日本文化の関係」
“Aesthetic of Ancient Japan”
「金魚の町　大和郡山と金魚の関係」
「奈良の大仏」
「日本の正月文化」
「抹茶の様々な使われ方」
「着物文化とその保存」
「日本語の話し言葉における接続助詞に関する一考察　－「けど」「ても」「たって」を中心に」
「中国における『ノルウェイの森』のよく売れる現象
　－表紙デザインと改革開放政策の影響に関する一考察－」
「「とりあえず、お疲れ」　－「お疲れ」系挨拶の語義拡大に関する一考察－」
「入浴から見た日本人の意」

●2015.4-2016.3　教員研修留学生

３名	カンボジア王国、スーダン共和国、メキシコ合衆国

研究報告書

“A COMPARATIVE STUDY OF LANGUAGE LEARNING STRATEGIES USE IN AN EFL CONTEXT：JAPANESE AND CAMBODIAN UNIVERSITY STUDENTS”

“ENGLISH EDUCATION IN SUDANESE AND JAPANESE ELEMENTARY SCHOOLS”

“PHYSICAL ACTIVITY, DIETARY HABITS, LIFESTYLE, CHILDHOOD OBESITY MEXICO – JAPAN COMPARATIVE：CHILDHOOD OBESITY AND LIFESTYLE “

2016年度

1.1 教育研究支援機構発行ニューズレターより抜粋

本センターでは、留学生の受け入れ、および、派遣を通じた国際交流を主眼に、国際的視野を持った教員養成の一端を担っています。また、附属学校園や地域との交流も活発に行い、学内外の国際交流の活性化に努めています。設立３年目の主な活動は、以下の通りです。

(1) 受入留学生プログラム

2016年10月現在、本学では、アジア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカの14か国から、47人の留学生が学んでいます。受入留学生プログラムには、(A) 日本語による授業が受講可能な日本語日本文化研修留学生や日本語専攻がある協定校からの留学生などに提供されるもの、(B) 日本語が未習、または初級レベルの、協定校からの留学生に提供されるもの、そして、(C) 海外の現職教員が文部科学省の奨学金を得て、日本の教育事情を研修する留学生に提供されるものの３つがあります。それぞれ、以下のような成果をあげています。

(A) 体験型の日本語学習である「日本語コミュニケーション」では、社会科教育講座教員の協力を得て、日本人学生によるプロジェクトを利用して、テーマ学習を行いました。授業の成果は、随時ホームページで公開した他、７月には、プログラムの最終発表会を公開で行いました。

(B) 12月には、「日本とアメリカの大学生活／日本での経験」と題した日本語による口頭発表、７月には、日英両語でのポスター発表を行いました。また、所属大学と本学との大学生活や制度を比較し、ポスターにまとめて、国際交流室前に掲示しました。これにより、本学の学生が留学に興味をもつことを期待しています。

(C) 日本語・日本文化教育及び地域交流の一環として、山添中学校を２回訪問した他、ホームステイも実施しました。特に山添中学で行ったミニ授業は、ミャンマーの高校教員によるエネルギー問題の紹介、フィリピンの特別支援教員によるクリスマスの文化紹介、韓国の小学校教員による外国ルーツ児童をめぐる道徳の教科書紹介など、グローバルな教員養成に寄与する内容でした。さらに日本語による最終発表会も公開で開催しました。

通常の授業の他に、「来日前準備キット」を送付して留学前からの学習を促進したり、歌舞伎や大相撲見学や旅行などの文化体験の場を提供したりしています。限られた授業数の中で、幅広い日本語レベルの多様な留学生を受け入れるという難しい問題に直面しつつも、小規模大学ならではのきめ細やかな指導を行っています。

(2) 留学生・日本人学生の共修機会の提供

①前期には、教員養成科目「異文化理解研究」と留学生科目「現代日本論」を合同授業とし、日本の学生と留学生との共修を通じた、異文化理解能力育成をはかりました。

②後期には、教職関連科目「小学校外国語活動」と留学生科目「日本語コミュニケーション」との合同で、附属小学校の外国語活動支援を協働で行いました。

③その他、「日本語コミュニケーション」の授業で、幼年教育専修の有志学生と附属幼稚園で交流会を実施したり、日本人学生有志と絵本の翻訳を行ったりしました。

これらの共修の取組は、異文化理解の促進や批判的思考力の育成という点で、国立大学法人評価委員会からも高く評価されました。

(3) 附属学校園や地域との連携

①附属学校園との連携

附属幼稚園からの依頼を受け、幼年教育講座との連携で、5歳児を対象に、「日本語コミュニケーション」の受講生が多文化絵本の創作や読み聞かせ、各国の手遊び紹介を行いました。

附属小学校では、「言語・文化」活動として11月に行われた5年生の授業で、留学生と日本人学生が協働で、さまざまな国や文化の紹介を行いました。

附属中学校では、「日本語教育論」の受講生8名が、1年生を対象とした異文化理解教育の授業の企画、実施を担当し、学生にとっても附中関係者にとっても、異文化間能力を高める機会となりました。

②地域貢献

ボランティアサポートオフイスなどの関係機関と連携し、主として奈良市の小中学校からの要望により、留学生及び日本人学生を派遣しました。

(4) その他

①学内における国際交流活発化のための取り組み

月1回の国際交流イベント「なっきょん's café」や、4月の「留学生と友だちになろうキャンペーン」を通して、留学生と日本人との交流の

機会を提供し、自主的な交流への橋渡しに努めました。さらに、学生支援課が、田植え体験や若草山ハイキングなど、月1回の国際交流イベントを企画しています。

②派遣留学プログラムへの協力

本学からの派遣留学の奨励のために、学生支援課と連携して、派遣留学プロモーションウィークを開催しました。

具体的には、図書館ラーニングコモンズを利用して、派遣学生による帰国報告会や、TOEFL受験のための説明会を行いました。

③国際的視野をもつ教員養成のためのシンポジウム開催

学長裁量経費を得て、「教員養成大学におけるグローバル人材育成」と題したシンポジウムを2回シリーズで開催しました。多様な言語文化背景をもつ子ども達への学習デザインや、新学習指導要領を踏まえたコンピテンシーの育成など、グローバル化がすすむ社会で必要とされる教員の資質や能力について話し合われました。

以上のように、本センターでは、留学生プログラムを核にして、学内における国際交流の環境を醸成すると共に、その活動内容や成果を必要に応じて学内外へ発信しています。また、海外協定校派遣留学生が得た成果を、帰国後に学内に効果的に還元させることにも取り組んでいます。このようにして、本センターは、本学の国際交流の基本方針の一端を担っています。その他の活動の詳細は、国際交流留学センターのホームページ（http://cies.nara-edu.ac.jp/）で紹介しています

1.2 国際交流留学生センターホームページ記事より抜粋

留学生が答志島に学習旅行に行ってきました（2016年４月22～23日）

日本語日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生18名が三重県答志島に１泊２日の学習旅行に行ってきました。出発時は曇り空で雨が心配されましたが、２日間いいお天気に恵まれ、島の生活を実体験しました。

１日目は、船で島に渡った後、海女さんから話を聞きました。海女さんのコスチュームや道具を身に付けることもでき、島の生活と海の関わりを実感することができました。

その後、島内に残っている伝統や生活習慣を巡るスタンプラリーを行いました。島の地図はありません。ポイントを見つけるために島民のみなさんに質問しながら目的の場所を捜します。はじめは恥ずかしがってなかなか質問できない留学生もいましたが、島のみなさんの温かい応対に全員無事にゴールすることができました。夜は、おいしい魚介類の夕食後、島の貝殻を使ったキャンドル製作、海ほたるの見学をしました。

２日目は、島内の散策です。島を取り巻く海が一望できる富士見台に上って、美しい景色を堪能しました。答志島では、地元の小学生をはじめ島民のみなさんが島ぐるみで温かく私たちを迎えてくださり、交流を深めることができました。答志島のみなさん、本当にお世話になりました。

第１回 派遣留学のプロモーションイベント【留学体験談】附属中　谷口副校長

（2016年４月20日）

本学国際交流留学センター・学生支援課では、派遣留学の経験をお持ちの現職の先生に留学のご経験についてお話いただく機会を設け、第１回は、４月20日（水）12時20分～13時に次世代センター １号館大会議室兼教室にて、本学附属中学校の谷口尚之副校長先生に、協定校のハイデルベルク大学（ドイツ）への留学経験についてお話をいただきました。

留学を経験され、現在教職についておられる先生の経験談に、今年度の協定校への派遣留学生をはじめとする学生等は熱心に耳を傾け、大変貴重な機会となりました。

留学生と友達になろうキャンペーンを開催しました（2016年４月18～19日）

４月18日と19日、毎年恒例の「留学生と友達になろうキャンペーン」が日本人学生と留学生有志によって開催され、今年は２日間にわたって毎年大好評の各国料理の紹介が行われました。

イベントでは、参加者にクーポンが配ばられ、各国のブースで料理を食べるごとに留学生から各国語で「秘密の言葉」もプレゼントされました（どんな言葉が書かれていたかは秘密です！気になる方は、キャンパス内で留学生に聞いてみてくださいね～）。

アメリカ、インド、インドネシア、チェコ、中国、ドイツ、ポーランド、フランス、ルーマニア、ロシアからの留学生14名が作ってくれたふるさと料理でのおもてなしをきっかけとして、会場では楽しく話の輪が広がっている様子が見られました。当日ご協力くださった留学生、日本人学生のみなさま、参加してくださったみなさま、どうもありがとうございました。

ボランティアサポートオフィスと協働で書道教室を開催しました。（2016年４月20日）

ボランティアサポートオフィスの学生スタッフをしている本学書道教育専修２回生の繁本香菜さんの呼びかけで留学生向けの書道教室が実現しました。今回の書道教室には、初めて書道を体験する留学生が参加しましたが、繁本さんをはじめとするたくさんの日本人学生の丁寧な指導の下、最後には素敵な作品が書きあがりました。この書道教室は不定期に継続して開催予定です。本学在籍の留学生なら誰でも参加可能です。詳しいスケジュールは学内メールまたは、国際交流留学センターのホームページでご確認ください。

国際交流イベント「ならまち散策に行こう！」を実施しました。（2016年４月27日）

４月27日（水）、国際交流イベント「ならまち散策に行こう！」を実施しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、本学竹原威滋名誉教授と奈良の民話を語りつぐ会の方による案内のもと、留学生と日本人学生、教職員が参加し、ならまち周辺を散策しました。

散策は竹原名誉教授監修による奈良民話地図を用いながら進み、東向き商店街、餅飯殿商店街、猿沢池采女神社、興福寺大御堂、不審が辻等をまわりました。それぞれの場所では、留学生による英語版の民話の音読の後、ストーリーテラーの方による日本語版の民話の音読をしました。実際に声に出して読むとともに、ストーリーテラーの方の声を直接聞くことで参加者はより民話

の内容を実感している様子でした。

留学生が飛鳥幼稚園で自国文化を紹介しました（2016年６月１日）

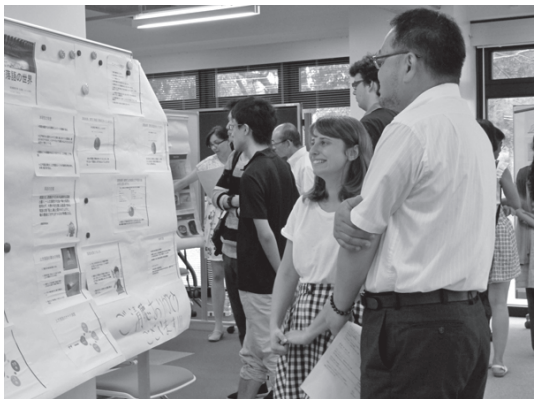
奈良市教育委員会が行っている「放課後子ども教室」では、児童が様々な文化に触れる機会を提供しています。本学では、留学生とサポート役の日本人学生がその事業にボランティアとして参加し、教育現場での貴重な体験から多くの学びを得ています。

６月１日には、本学の協定校であるアメリカ・セントラルミシガン大学から本学に留学中のHARRINGTON Erin Elizabethさん、英語教育専修の山口絵理香さん、理科教育専修の猪俣望さん、中山千嘉さんの４名が、飛鳥幼稚園で園児たちにアメリカの文化を紹介しました。出身地であるマウントプレザントの短い紹介のあとは、動物の鳴き声を英語で紹介し、最後はみんなで鳴き声に合わせて体を動かすゲームをしました。元気いっぱいの園児たちとの楽しい時間を過ごすことができました。

留学生向け日本語クラスで詩を作りました。（2016年７月29日）

留学生用科目「日本語文献講読（言語）」の授業の一環で谷川俊太郎作「生きる」を読みました。
読解後、受講生がグループになって自身の「生きる」をテーマに詩を作りました。

日本語・日本文化研修留学生／交換留学生　最終発表会が開かれました（2016年７月29日）



2015年10月に来日した日本語・日本文化研修留学生と交換留学生が約１年間のプログラムを終えるにあたって、2016年７月29日、本学図書館ラーニングコモンズにおいて最終発表会を行いました。この留学生プログラムでは、留学生が各自の専門分野や興味に応じてテーマを選び、修了レポートをまとめることが最終課題となっています。

最終発表会では、修了レポートの内容についてポスター発表を行いました。留学生ならではの視点でまとめられた発表内容で、聴衆と活発なディスカッションが繰り広げられました。発表会後には、プログラムの終了を記念して記念品授与式、懇談会が開かれ、奈良での留学生活を振り返りつつ、仲間たちとの別れを惜しみました。

留学生のための防犯教室が開かれました。（2016年９月28日）

（NHKニュースウェブ・奈良県のニュース2016年９月28日（水）より転載）

奈良で学ぶ留学生が犯罪や事故に遭うのを防ごうと、奈良市の大学で、留学生のための防犯教室が開かれました。警察が、奈良教育大学で開いた防犯教室には、中国やアメリカなどからの留学生の男女25人が参加しました。

講義では、▼道を歩く時には、壁のある側にバッグを持って、ひったくりに遭わないよう注意することや、▼携帯電話を見たり、イヤホンで音楽を聞いたりしながら歩いていると、狙われやすく犯罪に遭う可能性が高くなるなど、身を守るための注意点を警察官が説明しました。

実演を交えた護身術の指導も行われ、正面から歩いてきた人物に急に腕をつかまれた場合は、大声で助けを呼びながら、手の平を下に向け、ひじを相手に寄せることで手をふりほどく方法などが紹介されました。

留学生たちも２人１組になって、指導されたことを実際にやってみて、とっさの場合にどう行動すればいいか学んでいました。インドネシアから来た留学生の女性は、「とても役に立つ話がたくさんありました」と話していました。

H28年度 秋季留学生入学式＆懇親会が開催されました。（2016年10月５日）

10月５日（水）、2016年度秋季留学生入学式が本学山田ホールにて開催されました。

大学間交流協定に基づく交換留学生、日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生22名への学長からの祝辞、在学生からの歓迎の言葉があり、新入留学生は気持ちを新たに日本での学生生活をスタートさせました。

入学式の後は、新入留学生を歓迎すると同時に、在籍する留学生と日本人学生、教職員との交流を深めるよい機会にしてもらおうと留学生懇談会を開催しました。夕刻から学生食堂で行われた懇談会には、在籍する留学生や日本人学生をはじめとする学内関係者約90名が参加しました。懇談会では、アメリカからの留学生による歌や日本人学生のサポーターによるギター演奏や歌などが披露され、留学生や日本人学生が交流を深め、暖かい歓迎の雰囲気に包まれました。

国際交流イベント「奈良実習園で稲刈り体験！」を開催ました。（2016年10月19日）

10月19日（水）、国際交流イベント「奈良実習園で稲刈り体験！」を開催ました。これは、在学する留学生と日本人学生に交流機会を提供しようという目的から月に一度ユニークな国際交流イベントを提供しているもので、今回は大学附属の自然環境教育センター奈良実習園にて稲刈り体験を行いました。当日は、この秋に入学した留学生、日本人学生及び教職員約20名が集まり、箕作准教授（栽培学、園芸学）による、日本の米作りについての講義を受けた後、鎌での稲刈りを行いました。

この日は10月半ばにもかかわらず、気温は27度に達し、とても暑い一日となりました。多くの参加者は稲刈りは初めての体験でしたが、汗を流しながら、熱心に作業を行いました。稲刈りの後は、天日で乾燥させるためのはざかけを行いました。

その後はコンバイン等の機械を見学し、手作業との違いに参加者は驚きの様子を見せていました。12月には、同実習園で収穫されたもち米を使っての餅つき体験が予定されています。

近江八幡に学習旅行に行ってきました。（2016年11月11日）

日本語日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生18名が秋の日帰り学習旅行で近江八幡に行ってきました。

まず、水茎焼きの陶芸体験を楽しみました。真剣な表情制作に取り組んだ留学生たち。12月半ばの焼き上がりが今から楽しみです。お昼ごはんは「丁字麩」や「赤こんにゃく」など滋賀県の特産に舌鼓を打ちました。

つづいて午後からは水郷めぐり。静かでゆったりとした時間の中で、俳句を詠みました。最後は近江八幡の歴史的な町並みの散策です。留学生はボランティアガイドさんの説明に熱心に耳を傾けました。お天気を心配していましたが、当日はあたたかい日差しいっぱいの行楽日和。近江八幡の歴史や自然、そしてそれを大切に受け継ぐ人たちの心を学ぶ機会となりました。

留学生と日本人学生が本学附属小学校「言語・文化」の活動に参加しました。（2016年11月16日）

11月16日（水）に留学生科目「日本語コミュニケーション」と教職関連科目「小学校外国語活動（水1.2コマ）」の学生が、附属小学校の「言語・文化」の活動に参加しました。附属小学校には母語と他言語、自文化と他文化について理解を深める「言語・文化」という独自の活動があります。

2013年からは、文化の多様性に触れることを目的に、５年生の活動で様々な国から来た本学の留学生と日本人学生がこの活動に参加しています。活動の準備は留学生と日本人学生が一緒に取り組みます。

前半の活動では留学生が中心となり、自国の伝統行事を紹介しました。少し緊張気味に準備の成果を披露する留学生を日本人学生も懸命にサポートしてくれました。また活動後半には、日本人学生たちが中心に、ことわざを素材にした文化紹介を行いました。

１組は「二兎を追うものは一兎をも得ず」という日本のことわざから、各国にある似た意味のことわざを紹介しました。また２組ではそれぞれの国の国民性を表すことわざ、３組では各国の「怖いもの」を含むことわざを紹介されました。

はじめて教育現場を体験する学生も多数いましたが、全員が協力して、附属小児童、本学学生（留学生、日本人学生）にとって有意義な学びの機会となりました。

10月入学の留学生の自己紹介ポスターを掲示しています（2016年11月28日）

国際交流オフィス前に10月に本学に入学した、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、協定校交換留学生の自己紹介ポスターを掲示しています。ぜひ見に来てください。

第１回なっきょん's cafeを開催しました。（2016年11月30日）

11月30日（水）になっきょん's cafeを行いました。日本人にはお馴染みのゲーム『だるまさんが転んだ』『手押しゲーム』で体を動かして盛り上がった後は、皆でお茶タイム。菓子を食べながら、日常生活の話などして、和気あいあいと楽しみました。

なっきょん's cafeは毎月１回、昼休みに開催します。留学生と日本人学生がゲームをしたり、昼食やおやつを食べながら、ざっくばらんに日本語でおしゃべりする会です。出入り自由ですので、どうぞ気軽にご参加ください。

附属幼稚園で「世界の人と友達になろう」を開催しました。（2016年12月９日）

本学幼年教育講座４回生14名、「日本語コミュニケーション」受講の留学生13名が、附属幼稚園で５歳児と交流を行いました。

交流に先立って、参加学生たちは読み聞かせ用の絵本作りを行いました。ベースとしたのは絵本「ねないこだれだ」。「夜寝ない悪い子はおばけの世界にとんでいけ～」というちょっと怖い話ですが、おばけの部分を各国の「怖いもの」にアレンジすることに。いろいろな国の「怖いもの」の中からみんなで相談して、フランスのマーメイド、インドネシアのウェウェゴンベル、ルーマニアのババクランツァ、韓国のブルガサリの４つを選びました。また、交流後半に計画した各国の手遊び紹介については、どうやったら５歳児に分かりやすく伝えられるか、留学生と日本人学生が一緒になって説明のしかたを考えました。

そして、いよいよ、園児との交流の日。読み聞かせでは、薄暗い部屋の中でお化けになりきって読み聞かせを行いました。後半は、小さいグループで、歌を歌ったり、体を動かしたりしながら、いろいろな国の手遊びを楽しみました。

最後は全員でハイタッチをしながら、お別れです。園児たちの元気に圧倒されつつ、とても楽しい交流会となりました。

本学では、大学生と園児が同じキャンパス内で学んでいます。交流をきっかけにキャンパス内で日常的に交流が生まれることと期待しています。

なっきょんファームお料理教室に参加しました。（2016年11月28日）

なっきょん食育塾主催の「なっきょんファームお料理教室」に留学生の有志が参加しました。

今回のメニューはブッシュドノエル。クリスマスを前にドイツのクリスマスお菓子を作りました。

開始１時間後にはキャンパスに甘いいい香りが漂ってきて、ケーキがおいしく焼きあがりました。

できあがったケーキをみんなで食べて、大満足の様子でした。

アメリカからの留学生が発表会を行いました。（2016年12月22日）

本学はアメリカの協定校が２校あります。今年度もセントラルミシガン大学から３名、ロックヘイブン大学から３名の留学生が本学で日本語・日本文化学んでいます。

12月22日、９月に来日して約４ヶ月間の『学びの成果』を発表会で披露しました。日本語だけで日本とアメリカの違い、驚いた事、旅先での感動など、ユーモアを交えながら立派に発表を行いました。

この日は秋学期最後の日。発表会後には参加者と一緒に発表者の健闘をたたえて、年忘れの茶話会を行いました。

＜発表者＞

ロックヘイブン大学／ジェフリー・デイヴィス・レヴィ
ロックヘイブン大学／アリソン・ドーン・ブラケン
セントラルミシガン大学／カービー・サーオ
セントラルミシガン大学／アダム・マイケル・ボーランド
セントラルミシガン大学／アーロン・ロバート・バウマン

大坂松竹座で「壽　新春大歌舞伎」を鑑賞しました。（2017年１月12日）

毎年恒例の歌舞伎鑑賞に日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生の16名が参加しました。

日本人でさえ難しい歌舞伎の世界ですが、留学生たちはそれぞれ『とても綺麗』『かっこいい』と初めての体験を楽しんでいる様子でした。

【お昼の部　プログラム】

-午前11時開演-

一．吉例寿曽我　－鳴立澤対面の場－
二．梶原平三誉石切－鶴岡八幡社頭の場－
三．－恋飛脚大和往来－　新口村

またまた、なっきょんファームお料理教室に参加しました。（2016年12月22日）

なっきょん食育塾主催の「なっきょんファームお料理教室」に留学生の有志が参加しました。

今回は「奈良の伝統野菜を使った料理」ということで、ほうとうとぼたもちを作りました。

材料の一部は、なっきょんファーム（奈良教育大の実習園）で採れた野菜を使用！とてもアットホームな会となりました。

留学生たちは真剣に料理手順の説明を受けた後、慣れない手付きながら、一生懸命和食作りにチャレンジしていました！

学長室にて学長と帰国派遣留学生との懇談会を開催しました。（2016年12月26日）

平成28年12月26日（月）、学長室にて学長と帰国派遣留学生との懇談会を開催しました。
当日は、大学間交流協定に基づき、協定校に派遣留学し、５月、６月に帰国したセントラルミシガン大学（米国）への派遣留学生２名、ロックヘイブン大学（米国）への派遣留学生２名、リヨン第三大学（フランス）への派遣留学生２名が出席し、学長、副学長、留学生担当教員との懇談を行いました。

派遣留学生からは、現地の授業と日本の授業との違いや学校訪問、現地で失敗してしまったこと、帰国して気づいたことなど、現地での具体的な経験、派遣留学プログラムを通じて得られた成果等について話がありました。

また、学長、副学長、留学生担当教員からは、現地で生活したこと自体が勉強である、留学をした経験は、何年、何十年も経った後、必ず自分のベースになる、等の助言がありました。
経験や成果を発表し、共有することで、派遣留学生の自分自身の将来にどのように活かしてゆくかを考え気づく振り返りの機会となることが期待されます。

自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「もちつき大会」を開催しました。（2016年12月14日）

平成28年12月14日（水）、自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「もちつき大会」を開催しました。

これは国際交流留学センター・学生支援課が、大学で共に学ぶ留学生と日本人学生に出会いと交流するきっかけ作りにしてもらおうと、月に一度程度国際交流イベントを提供しているもので、今回は冬の恒例の「もちつき大会」を行いました。

当日は、この秋に入学した留学生、日本人学生、教職員ら約20名が参加し、辻野亮准教授（生態学、環境学）による日本の米作りの流れについて講義を受けたあと、実際にもちつきを体験しました。

今回もちつきをした米は、奈良実習園にて収穫されたもち米です。参加者の多くは、もちつきは初めての体験であったこともあり、多くの学生が初めて持つ杵の重さに驚いていました。センター教職員の指導や友人のかけ声の下、力いっぱい、もちをつき、楽しみながら、日本のお正月の文化を学びました。ついたもちは、その場で小さく丸めて、きな粉や醤油を付けてみなで食べ、つきたての柔らかさに感動した様子でした。

第２回　なっきょん's cafeを開催しました。（2017年２月６日）

２月６日（月）　なっきょん's cafeを国際交流室にて行いました。今回の参加人数は過去最高！！もうすぐ卒業する４回生を中心に、これから将来のこと、春休みの過ごし方などのお話で盛り上がりました。

留学生たちが喜光寺での日本文化体験をしました。（2017年２月14日）

2017年２月14日、日本文化体験を奈良市にある喜光寺で実施し、日本語・日本文化研修留学生、協定校からの交換留学生、日本人学生、職員約10名が参加しました。喜光寺は行基によって建立され、東大寺のモデルにもなった由緒あるお寺です。

参加者は、まず、いろは写経を行い、日本人の心の原点にふれる体験することができました。続けて茶がゆ体験、お茶会体験を行い、日本文化について理解を深めることができました。

日本語・日本文化研修留学生のイリナさんが学生委員長表彰を授与されました。（2017年３月13日）

2017年３月13日、本学大会議室において、学長表彰授与式および学生委員会委員長表彰授与式が開催されました。

本学では、学術、課外活動及び社会活動等において優秀な成績を修めた学生や団体に対して学生表彰を行っており、2016年12月１日に奈良女子大学で行われた第17回外国人留学生スピーチ大会にて努力賞を受賞した日本語・日本文化研修留学生のイリナさんが学生委員長表彰を授与され、祝福を受けました。

1.3 日本語・日本文化研修留学生/協定校交換留学生/教員研修留学生プログラム

●2015年度受入　日本語・日本文化研修留学生･交換留学生

大使館推薦 日本語・日本文化研修留学生	6名	インド共和国、インドネシア共和国、チェコ共和国、ポーランド共和国、ロシア連邦
大学推薦 日本語・日本文化研修留学生	2名	Ⅱ－４ 協定大学からの受入留学生数参照
国際交流協定に基づく特別聴講学生	9名	

修了レポートタイトル一覧

「上方落語の世界」
「ツイッターの日本語－ツイッターで使う日本語の特徴と現状－」
「日本人の対人関係構造－「本音と建前」を中心に－」
「書道の教育」
「日本語の「すみません」とインドネシア語の「ＭＡＡＦ」－謝罪表現の比較－」
「引きこもりとフリースクール」
「西洋と日本における地獄思想の紹介と比較」
「日本のことわざ－ロシア人を対象とした日本語教育に向けて－」
“Cultural Reinforcement Through Language”
“The Difference between Healthcare in the United States and Japan”
「茶道の茶碗の美的概念」
「『竹取物語』の教育的価値」
「日本社会における風俗の世界、ホストクラブとキャバクラのイメージ」
「日本テレビゲーム業界の現状考察と展望」
「性的マイノリティに関する日本人大学生意識調査
　－奈良教育大大学生を対象としたアンケート結果から－」
「漫画で見える日本社会の象」

●2016.4-2017.3　教員研修留学生

３名	大韓民国、フィリピン共和国、ミャンマー連邦共和国

研究報告書

「日本・韓国の小学生を対象にした多文化教育の比較研究」
“A SURVEY ON THE CURRENT SITUATION AND PEOPLE'S PERCEPTION ON THE ART EDUCATION FOR PEOPLE WITH SPECIAL NEEDS IN THE PHILIPPINES”
“BEST PRACTICES TO BE IMPLEMENTED FOR STEM EDUCATION IN MYANMARミャンマーの STEM教育に取り入れるべきベストプラクティスの検討"

2017年度

1.1 教育研究支援機構発行ニューズレターより抜粋

本センターでは、受け入れ留学生への日本語日本文化教育とともに、国際的視野を持った教員の養成に資することを目的とした教員養成大学ならではの国際交流事業を展開しています。設立４年目となる2017年度の主な活動は、(1) 受け入れ留学生教育の運営、(2) 学内における異文化交流の活性化、(3) 派遣留学生の奨励と支援、(4) 附属学校園や地域と連携した国際交流の推進です。活動成果の詳細は、以下の通りです。

(1) 受け入れ留学生教育の運営

2017年度、本学では、アジア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカなど、さまざまな国から約60名の留学生を受け入れました。その中には、文部科学省の奨学金を得て、日本の教育事情を研修するために留学している海外の現職教員（教員研修留学生）が６名います。本学が協定を結んでいる大学からの交換留学生は、５ヶ国から13名です。本学は、2017年度海外留学支援制度協定受け入れ短期研修・研究型に採択され、この13名に奨学金を支給することができました。他に、日本語・日本文化研修留学生３名や、私費での学部生、大学院生、研究生が、本学で学んでいます。

本センターでは、通常の授業の他に、「来日前準備キット」を送付して留学前からの学習を促進したり、歌舞伎や大相撲見学や旅行などの文化体験の場を提供したりしています。限られた授業数の中で、幅広い日本語レベルの多様な留学生を受け入れるという難しい問題に直面しつつも、小規模大学ならではのきめ細やかな指導を行っています。

また、留学生の学習成果発表会は、全学に公開で実施しています。たとえば、７月には「日研生・交換留学生終了発表会」、12月には「米国協定校からの留学生による発表会」、３月には「教員研修留学生最終発表会」を行いました。このうち、米国協定校からの留学生は、「日本とアメリカの大学生活／日本での経験」と題した日本語による口頭発表を行いました。これにより、本学の学生が留学に興味をもつことを期待しています。

(2) 学内における異文化交流の活性化

①留学生・日本人学生の共修機会の提供

本学では、留学生と日本の学生とが共に学び合える機会を多く提供しています。たとえば、前期には、留学生用科目「日本語文献講読（言語）」と「教育課程演習」で一部合同授業を行い、多文化共生における異文化間能力の育成に努めました。また、幼年教育関連の科目と留学生科目との合同授業を実施し、日本の学生と留学生とが協働で多文化電子紙芝居を製作しました。成果発表会は、おおいに盛り上がりました。

後期には、留学生科目「日本語教育論」と専門科目「教育課程特講」で一部合同授業を行い、日本及び各国の国際理解教育に関する情報交換を行いました。また、留学生科目「日本語コミュニ

ケーション」の授業の一環として協力した附属小学校の「言語文化」の活動や、留学生科目「日本語教育論」での成果を活用して協力した附属中学校での国際理解教育の活動では、教員養成課程の学生も協力、参観しました。

②学内における国際交流活発化のための取り組み

授業以外でも、国際交流の場を用意し、留学生と日本の学生とが出会える機会を多く提供しています。たとえば、月１回の国際交流イベント「なっきょん's café」や、４月の「留学生と友だちになろうキャンペーン」を通して、留学生と日本人との交流の機会を提供し、自主的な交流への橋渡しに努めました。さらに、学生支援課の主催で、喜光寺での日本文化体験などを実施しました。

６月には、協定校のセントラルミシガン大学から学生団と教員が来学し、本学の元派遣留学生と交流を行いました。

また、12月９日には、本センター主催で、「教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える」と題したシンポジウムを開催しました。グローバル化がすすむ社会で必要とされる教員の資質や能力について話し合われ、本学の学生にとっても、視野を広く世界に向けるための貴重な機会になりました。

(3) 派遣留学の奨励と支援

全国的に日本の学生が内向き志向になっているといわれる中、本学では2017年度、４名の学生を国際交流協定校に派遣しました。本センターでは、多くの学生に留学に関心をもってもらうために、学生支援課と連携して、派遣留学プロモーションウィークを開催しました。具体的には、７月と12月に、図書館ラーニングコモンズを利用して、アメリカとドイツに派遣された学生による帰国報告会を行いました。また、本学附属中学校の吉田寛教諭をお招きし、JICAによる現職教員対象の海外研修でのご経験をお話いただき、海外経験がご自身の教職にどのように役立っているのかについて研修会を行いました。

なお、本学では、派遣が決まっている学生を含め海外渡航に関心のある学生らを対象に海外留学安全対策協議会（JCSOS）による渡航前オリエンテーションを実施したり、現地では高額な教科書や教材などの購入資金を援助するための海外派遣留学生支援奨学金を設けたりなど、学生の海外派遣を積極的に支援しています。

(4) 附属学校園や地域と連携した国際交流の推進

①附属学校園との連携

附属小学校では、「言語文化」活動として11月に行われた５年生の授業で、留学生がさまざまな国や文化の紹介を行いました。

附属中学校では、「日本語教育論」の受講生６名が、１年生を対象とした異文化理解教育の授業の企画、実施を担当し、学生にとっても附中関係者にとっても、異文化間能力を高める機会となりました。

②地域貢献

日本語・日本文化教育及び地域交流の一環として、山添中学校を３回訪問した他、ホームステイも実施しました。本学と山添村との地域連携協定に基づくこの企画は、本学の留学生にとっても、山添中学校の生徒にとっても、そして、この企画

にいっしょに参画した日本人学生にとっても、かけがえのない異文化理解の場になりました。

さらに、ボランティアサポートオフイスなどの関係部署と連携し、奈良市放課後子供教室に留学生と日本人学生とを派遣するなど、地域の国際交流活動の推進に努めました。

以上のように、本センターでは、留学生に対して日本語日本文化教育を提供するだけでなく、留学生プログラムを核にして、学内における国際交流の環境を醸成すると共に、その活動内容や成果を必要に応じて学内外へ発信しています。また、海外協定校派遣留学生が得た成果を、帰国後に学内に効果的に還元させることにも取り組んでいます。このようにして、本センターは、本学の国際交流の基本方針の一端を担っています。（その他の活動の詳細は、国際交流留学センターのホームページ（http://cies.nara-edu.ac.jp/）で紹介しています。）

1.2 国際交流留学生センターホームページ記事より抜粋

留学生と友達になろうキャンペーンを開催しました（2017年４月19～20日）

４月19日（水）－20日（木）の二日間に渡り、お昼休みに毎年恒例の留学生と日本人学生有志とによる国紹介イベントが大学の食堂前にて行われました。

今回のイベントでは、留学生が自分たちで作成したポスターを掲示したり、自国のお菓子や手作りの料理を振る舞ったりして、自分たちの国や文化について紹介してくれました！

お天気に恵まれたこともあり、連日大盛況！！ 特に留学生たちが前日から準備した力作揃いの料理については、「めっちゃ美味しい！」という声があちらこちらから聞こえていました。

これまでなかなか留学生たちと接点のなかった日本人の学生や職員、大学関係者の皆さんに、少しでも身近に感じてもらえたなら良かったです。

留学生や、協力してくれた日本人の学生も、新学期の授業が始まってからの準備、なかなか大変だったと思いますが、皆終わった後達成感で良い顔をしていました！

留学生が答志島に学習旅行に行きました（2017年４月21-22日）

４月21-22日、日本語日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生・学部留学生が三重県にある答志島に１泊の学習旅行に行きました。住民との触れ合いを通して、島に残る伝統的な習慣や、海とともにある生活について多くを学びました。

＜参加学生の振り返りレポートより＞

・今回の旅行で、世界中にはあまり広まっていないが、日本文化の一つの源であり、貴重な無形文化財である海の文化を見るだけでなく、少しだけだが体験することができた。

・夜にはピカピカちっちゃい魚を見てきれいだった。空の星に似合いました。

・今回の学習旅行をきっかけに海女のことと答志島ならではの寝屋子制度のような無形文化財の保護に日本が注いだ精力に感心した。

・「島の人は外から来た人に冷たい」、私が島や島の人という言葉を耳にしたら一番最初に頭に浮かべる認識だった。「島の人に聞いてみよう」の活動では、島の住民のお婆さんに聞いた時、「最近島に外国からの客が増えたね、こんな年だけど英語学ぼうか」とおっしゃって、隣のお婆さんが「中国人も多いから中国語もな」「そこまでは無理だろう」と言いながら10代の少女みたいに笑うのを見て、自分が持っていた何かが剥がされたのを感じた。

・答志島で本当にいっぱい食べた。ワカメは新鮮でおいしかった。ワカメの収穫や加工過程を見学した。とても面白かった。

留学生の「インタビュー詩」創作活動へ投票をお願いします！

留学生科目「現代日本論」で、「インタビュー詩」の創作活動を行いました。留学生同士がペアになって相手の「日本語学習を始めたきっかけ」についてインタビューを行い、その内容を詩にしています。

現在、それらの作品を国際交流室前（新館２号棟１階）に掲示し、人気投票を行っています。

投票機関は５月31日（水）までです。みなさん、ぜひ投票をお願いいたします。

第３回　なっきょん's cafeを開催しました。（2017年５月24日）

５月24日（水）　13：00～『第３回なっきょん's cafe』を国際交流室にて行いました。インドネシアの料理「ピサンバカル」（バナナ・リンゴ焼き）といちごのチョコレートフォンデュをみんなで一緒に作り食した後は、トランプゲーム「テレットさん」で大盛り上がり♪ 笑いの絶えない、とても楽しい会となりました。

なっきょん's cafeは毎月１回、昼休みに開催します。留学生と日本人学生がゲームをしたり、昼食やおやつを食べながら、ざっくばらんに日本語でおしゃべりする会です。留学生と話したい！友達になりたい！という方は出入り自由ですので、どうぞ気軽にご参加ください。

国際交流イベント「奈良実習園で留学生、日本人学生と田植え体験しよう！」を開催しました。（2017年５月24日）

５月24日（水）、国際交流イベント「奈良実習園で留学生、日本人学生と田植え体験しよう！」を開催ました。

これは、在学する留学生と日本人学生に交流機会を提供しようという目的から、月に一度ユニークな国際交流イベントを提供しているもので、今回は大学附属の自然環境教育センター奈良実習園にて田植え体験を行いました。

当日は、稲の生長過程や実際の幼苗の植え方等について簡単なレクチャーを受けた後、靴を脱いで裸足で水田に入って、田植えスタート！事前に汚れて良い運動着に着替えるなど、皆準備は万端。

水田に足を突っ込むのは最初は勇気がいりましたが、慣れると冷たい水と泥の感触が心地よく、隣の人とおしゃべりしながら植える人、黙々と稲を植える人、「クモだクモ！（たぶんアメンボのこと）」とふざける人、それぞれ初めての田植えを楽しんでいました。

【結果発表！！】留学生の「インタビュー詩」開票結果をお知らせします。（2017年６月12日）

多くのご投票をいただき開票した結果、韓国からの留学生ガヨンさんとフランスのダミアンさんが同数で一位に輝きました！！

ガヨンさん：『なぜ皆に票を入れてもらえたのか、わからないです！』

ダミアンさん：『絵が良かったのかな？』

と、２人とも自分の詩が選ばれたことに驚きを隠せない様子でした。ご投票いただいた皆様、本当にありがとうございました！

第４回　なっきょん's cafeを開催しました。（2017年６月21日）

６月21日（水）　13：00～『第４回　なっきょん's cafe』を国際交流室にて行いました。

今回のテーマは・・・「お笑い」！！各国のお笑い動画を皆で鑑賞して大笑い（^o^）（^o^）（^o^）

言葉が分からなくても『笑い』は万国共通なのですね。終始、笑いにあふれたとても楽しい会となりました。

奈良教育大学　公認サークル　合唱団コールスグレイスの演奏会に行きました。【@本学大講義室】（2017年６月29日）

本学の森本先生からのお誘いで、教研生＆留学生とで合唱団『コールスグレイス』の演奏会に行ってきました。アットホームな雰囲気の中、一生懸命練習した４曲（大切なもの、マイバラード、心の瞳、旅立ちの時）を少し恥ずかしそうに披露してくれました。

日本語がまだ分からない人達への気遣いも有り、曲名などを英訳しながら進行して下り、教研生、留学生、職員共々、とても素敵な時間を共有することができました。

『歌』は世界共通言語。

演奏会の後、留学生達は『カラオケに行きたくなった～』『この曲、カラオケで探すよ！』と盛り上がっていました。

森本先生、コールスグレイス部員の皆さま、すばらしい時間をありがとうございました！

教員研修留学生が山添中学校に行ってきました（2017年７月７日）

本学で今年４月から研修を行っている教員研修留学生のALAGANO, ROBELYN FARINAS先生（フィリピン）、GOKA Gershon Kwaku先生（ガーナ）、DORJI, RINCHEN先生（ブータン）が山添中学校で中学生と交流を行いました。交流活動では、教研生の先生たちが勉強し始めて半年の日本語を使って、国紹介を行いました。小さいグループで生徒たちと近い距離で交流し、日本語、英語、ジェスチャー等々、持っているリソースを総動員してコミュニケーションを楽しみました。

生徒たちの前での堂々とした態度や生徒たちへの問いかけは、さすが各国の現職教員です！ 今回は理科教育専攻の増井壮太さんが活動準備から当日の活動までお手伝いしてくれました。教研生のみなさん、増井さん、どうもお疲れ様でした！

留学生と日本人学生が自作の多文化電子紙芝居の成果発表会を行いました。（2017年７月10日）

教職科目「幼児と言葉」と留学生科目「日本語教授法演習」の受講生たちが制作した電子紙しばいの成果発表会が行われました。日本人学生と留学生が留学生の国の昔話をベースにして制作した紙芝居は、かわいい動物や子どもが出てくるお話、ちょっぴり怖いお話などなど、どれもすばらしい内容でした。学生たちが持っているさまざまな文化が融合し、関西弁や留学生の母語も織り交ぜられた作品からは、参加者が自身の国や文化の壁を越えて相互理解を深めていった様子が伺えました。

本学協定校セントラルミシガン大学（CMU）のみなさんが奈良を来訪されました。

（2017年６月17日）

本学協定校セントラルミシガン大学（CMU）から学生８名、教員２名が奈良を来訪されました。
今回奈良を来訪したのは「Global citizenship」という科目の履修生８名とご担当のMikiyasu Hakoyama教授とBronson Maiko先生。

奈教大からはCMUに留学していた卒業生や在校生、現在奈教で勉強中のAaronさんが参加し、奈良の町を案内しました。

短い時間でしたが、両校の絆がますます深まる交流ができました。CMUのみなさん、またぜひ奈良にいらっしゃってください！

なっきょん's cafeを開催しました。（2017年７月19日）

７月19日（水） 14：30～『なっきょん's cafe』を国際交流室にて行いました。
2016年８，９月に来日した留学生たちと『なっきょん's cafe』で交流するのは、この日が最後でした。今回のテーマは・・・「日本の『涼』を感じよう」。それぞれの国での夏の過ごし方、涼の取り方などの話をしながら、豪華トッピングのかき氷を皆で作り食しました。その後、外に移動して『スイカ割り』。何人かが交代でスイカをたたき割り大盛り上がり！！ 最終回にふさわしく、にぎやかで笑いの絶えない楽しいなっきょん's cafeとなりました。

第２回派遣留学のプロモーションイベントを開催しました。（2017年７月19日）

本学国際交流留学センター･学生支援課では、海外留学･海外研修等の経験をお持ちの現職の先生に留学のご経験についてお話いただく機会を設けています。

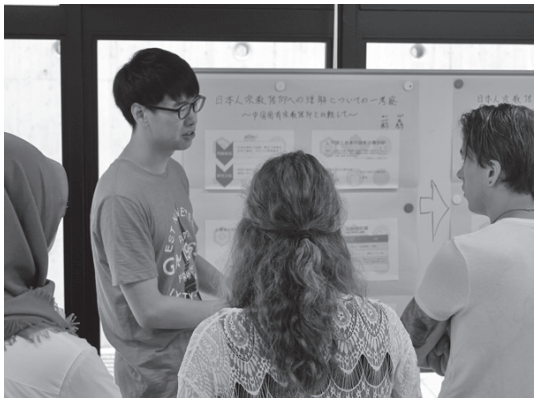
第２回目は、７月19日（水）13時30分～14時30分に次世代センター １号館 大会議室にて、本学附属中教諭の吉田　寛先生に、ネパールでのJICA【教師海外研修】経験についてお話をいただきました。

当日、吉田先生はネパールのダカトピという帽子を被って登場。【ネパールの暮らしから豊かさについて考えよう～生徒参加型の開発教育～】と題してネパールの町の様子や人々の暮らし、考え方などについて、ユーモアを交えながらお話しして下さいました。参加した海外に興味のある本学学生や教職員は熱心に耳を傾け、異文化体験を身近に感じることができる大変貴重な機会となりました。

留学生が文楽を観劇しました。（2017年７月27日）

日本語・日本文化研修留学生、交換留学生、教員研修留学生、学部留学生のみなさんが文楽を観劇しました。演目は、平家打倒の旗印「源氏の白旗」が父義賢から息子義仲に受け継がれるまでを描いた「源平布引滝」。４時間近くの公演でしたが、生き生きとした人形の動きに魅せられ、あっという間に時間が過ぎていきました。

日本語・日本文化研修留学生／交換留学生　最終発表会が開かれました。（2017年７月28日）



2016年９月に来日した日本語・日本文化研修留学生と交換留学生が約１年間のプログラムを終えるにあたって、2017年７月28日、本学図書館ラーニングコモンズにおいて最終発表会を行いました。

この留学生プログラムでは、留学生が各自の専門分野や興味に応じてテーマを選び、修了レポートをまとめることが最終課題となっています。最終発表会では、修了レポートの内容についてポスター発表を行いました。留学生ならではの視点でまとめられた発表内容で、聴衆と活発なディスカッションが繰り広げられました。発表会後には、プログラムの終了を記念して記念品授与式、懇談会が開かれ、奈良での留学生活を振り返りつつ、仲間たちとの別れを惜しみました。

H29年度 秋季留学生入学式＆懇親会が開催されました。（2017年10月４日）

10月４日（水）、2017年度秋季留学生入学式が本学山田ホールにて開催されました。
大学間交流協定に基づく交換留学生、日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生20名への学長からの祝辞、在学生からの歓迎の言葉があり、新入留学生は気持ちを新たに日本での学生生活をスタートさせました。

入学式の後は、新入留学生を歓迎すると同時に、在籍する留学生と日本人学生、教職員との交流を深めるよい機会にしてもらおうと留学生懇談会を開催しました。夕刻から学生食堂で行われた懇談会には、在籍する留学生や日本人学生をはじめとする学内関係者約90名が参加しました。懇談会では、日本人学生のサポーターによるアンクルン演奏が披露され、留学生や日本人学生が交流を深め、暖かい歓迎の雰囲気に包まれました。

なっきょん’s cafeを開催しました。（2017年10月20日）

10月20日（金）　12：10 ～ 13：00『なっきょん’s cafe』を国際交流室にて行いました。
今回の『なっきょん’s cafe』は、８．９月に来日した留学生と日本学生との初の顔合わせでした。10人ぐらい来れば良いかなぁ‥‥と思っていたところ、日本人・留学生あわせて30人近くの人が集まってくれて、驚き＆とても嬉しかったです！！ 当日は参加者同士で、持参したお菓子を交換したり、語学の質問をし合ったり。様々なお話で楽しく交流できました。

来月の『なっきょん’s cafe』もお楽しみに！！　　by 留学生サポーター　粂

留学生が本学附属小学校「言語・文化」の活動に参加しました。（2017年11月８日）

11月８日（水）に留学生科目「日本語コミュニケーション」を受講する留学生が、附属小学校の「言語・文化」の活動に参加しました。附属小学校には母語と他言語、自文化と他文化について理解を深める「言語･文化」という独自の活動があります。

2013年からは、文化の多様性に触れることを目的に、様々な国から来た本学の留学生が５年生の活動に参加しています。

前半の活動では留学生が中心となり、自国の伝統行事を紹介しました。また活動後半には、児童と留学生が様々な言語の「擬音語・擬態語」を紹介しあい、感性に結びついたことばの多様性を体感しました。授業当日は本学の日本人学生も参観し、附小児童、留学生だけでなく、日本人学生にとっても学校教育で行われている国際交流活動を実際に目にする有意義な学びの機会となりました。

留学生が秋の近江八幡に学習旅行へ行ってきました。（2017年11月10日）

本学に留学中の日本語日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生が秋の日帰り学習旅行で近江八幡に行ってきました。水茎焼きの陶芸体験や水郷めぐり、近江八幡の歴史的な町並みの散策を楽しむ行程では、秋晴れのすばらしいお天気の中、美しい景色を堪能しつつ、近江八幡の商人文化、琵琶湖の美しい自然、そしてそれを大切に受け継ぐ人たちの心を学ぶ機会となりました。学習旅行の課題として、みんなで俳句（川柳）を詠みました。

教員研修留学生が山添中学校で中学生と交流を行いました。（2017年11月16日）

本学で今年４月から研修を行っている教員研修留学生のALAGANO, ROBELYN FARINAS先生（フィリピン）、GOKA Gershon Kwaku先生（ガーナ）、AKO, DONALD AWOO先生（ガーナ）、DORJI, RINCHEN先生（ブータン）が山添中学校で中学生と交流を行いました。

交流２回目となる今回は、教研生の先生たちが、国の文化や社会情勢に関連させながら、それぞれの専門教科の内容について日本語でのミニレッスンを行い、生徒や中学校関係者のみなさんとも活発な意見交換が行われました。

４名のレッスン内容は以下の通りです。

ROBELYN先生：数学の図形知識を利用してフィリピンの伝統的な文様について説明しました。

GOKA先生：化学の「鹸化」の知識を利用してガーナの伝統的な石鹸の作り方を紹介しました。

DORJI先生：ブータンの交通事情を地形や隣国との関係と関連付けてお話ししました。

AKO先生：ガーナの金採掘について、特に違法採掘の方法とそれが原因で起こる環境汚染について解説しました。

今回は理科教育専攻の奥田裕己さん、教職大学院の新谷遥さんが活動準備から当日の活動までお手伝いしてくれました。また当日は理科教育講座の松山豊樹教授、井上彗登さんも参加されました。みなさん、どうもお疲れ様でした！ 山添中学校、山添村のみなさまにもたいへんお世話になりました。改めて御礼申し上げます。

なっきょん's cafeを開催しました。（2017年11月24日）

11月24日（金） 12：10 ～ 13：00『なっきょん's cafe』を国際交流室にて行いました。

今回の『なっきょん's cafe』は料理がテーマ。各自お気に入りの料理やスイーツの話題がたくさん出て良い異文化交流の機会になりました。また、新メンバーが数人参加！！とても楽しい会でした。

次回のなっきょん'scafeもお楽しみに～。

（by 留学生サポーター　西村　奏）

奈良教育大学　公認サークル　合唱団コールスグレイスの演奏会に行きました。【@本学大講義室】（2017年11月28日）

本学の森本先生からのお誘いで、合唱団『コールスグレイス』の演奏会に行ってきました。

今回は、日本語・日本語文化研修留学生のレオ二さんも部員として参加。

皆で一生懸命練習した２曲（「やさしさに包まれたなら」魔女の宅急便より　荒井由実　作詞作曲／"For the beauty of the earth" John Rutter　作曲）を披露してくれました。

森本先生、コールスグレイス部員の皆さま、すばらしい時間をありがとうございました！

スピーチ大会で本学交換留学生、趙思雨さんが準優勝賞を受賞しました。（2017年12月７日）

12月７日（木）に、奈良地域の大学が集い、留学生の交流会が奈良女子大学で開催されました。

当日は、留学生によるスピーチ大会も開催され、本学からは西安外国語大学からの交換留学生、趙思雨さんが出場、「これは日本、これも日本」を題に気持ちの伝わる素晴らしいスピーチをして、準優勝賞を受賞しました。

自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「もちつき大会」を開催しました。

（2017年12月20日）

これは、在学する留学生と日本人学生に交流機会を提供しようという目的から、月に一度ユニークな国際交流イベントを提供しているもので、今回は大学附属の自然環境教育センター奈良実習園にてもちつき大会を行いました。
連日寒い日が続いていましたが、この日はもちつき日和となりました。

留学生のほとんどは、もちつきを体験するのも杵を持つのも今回が初めてです。湯気がもくもくと立ち上る熱々のもち米を、まずは杵でつぶします。「もっと腰を入れて」とアドバイスをもらいつつ、最初に手を挙げた二人が、実習園の職員の方と一緒に、三人で臼の周りぐるぐる周りながら、もち米を杵で練るように潰してくれました。その後、いよいよもちつき！皆慣れない手つきで、ふらふらしながらも、一生懸命ぺったんぺったん。最初は見ている側も静かに見守っていましたが、そのうち皆乗ってきて、掛け声を掛けたり爆笑したり、わいわい楽しい会となりました。最後は、ついたおもちを皆で丸めて、砂糖醤油ときな粉で美味しくいただきました。

アメリカからの留学生が発表会を行いました。（2017年12月22日）

本学にはアメリカの協定校が２校あります。今年度は、セントラルミシガン大学から３名の留学生が来て、日本語・日本文化を学んでいます。

12月22日、９月に来日して約４ヶ月間の『学びの成果』を発表会で披露しました。日本語だけで日本とアメリカでの違いを独自の視点でユーモアを交えながら立派に発表を行いました。この日は秋学期最後の日。発表会後には参加者と一緒に発表者の健闘をたたえてて、年忘れの茶話会を行いました。

＜発表者＞
セントラルミシガン大学／ダイヤ　トラビス　アーロン
セントラルミシガン大学／ゲッキ　コリン　タルトン
セントラルミシガン大学／ルーミス　マシュー　ドノヴィン

附属中学校で国際理解のための活動に協力しました。（2018年１月24日）

留学生向け科目「日本語教育論」を受講する留学生６名が授業での学びの成果を附属中学校１年生の国際理解教育の場で披露しました。

交流活動では、日本人学生と留学生が自身の言語で谷川俊太郎作「生きる」の詩を朗読しました。関西弁や様々な地域のことばを聞く活動を通して、未知の言語がもつ音を感性で受け取ると同時に、無意識に持っている多言語への意識への気づきを共有しました。留学生からは「世界のいろいろなことばや文化はどれも平等に価値がある」「新しいことば、新しい文化を学ぶのを恐れないで」「まずは興味を持とう」というメッセージが伝えられました。その後は各組に分かれて、参加留学生の文化についてより深く紹介しました。なお、本活動の準備にあたっては「教育課程演習」受講生と各国の国際理解教育に関する情報交換を行いました。また交流当日は同学生が参観し、中学校での国際理解教育の現場を知るよい機会となりました。

プロジェクトワーク「奈良の伝統と現代の人々」の成果発表会を行いました。（2018年１月31日）

留学生向け科目「日本語コミュニケーション」では、「奈良の伝統と現代の人々」というテーマでプロジェクトワークを行い、その成果を披露する発表会を行いました。

留学生がグループとなって、奈良の伝統に関するテーマを選び、地域住民等へのインタビューを通して伝統と現代に生きる人々との関わりを調査しました。それぞれのテーマについて直接話を聞くことで、書籍やインターネットからは得られない「生の声」から深い学びを得ることができたようです。

発表題目は以下の通りです。

- 奈良の鹿と住民・観光客との関わり
  （趙思雨、スコルブレアヌ・テオドラ、メルラン・ラウラ）
- 春日原始林と地元の人
  （王茜玥、張阿敏、宋鑫垚）
- オン祭りの人気
  （アリトン・テオドラ、ファイアー・レオニ、パリーズ・ラファエル、ディライラー・ニック）
- 高畑町の飲食店のオモテとウラ
  （ネアゴエ・ビアンカフロレンティーナ、李思諭、李紅霞）

大阪大学の留学生といっしょに伊賀上野研修に参加しました。（2018年２月13日）

大阪大学による日本語・日本文化教育研修共同利用拠点事業の一環として、本学の留学生が伊賀上野研修に参加しました。当日はまず、大阪大学で学ぶ交換留学生に「ならまち」を案内しました。そのあと、バスで伊賀上野に移動し、伊賀上野城や伊賀流忍者博物館、松尾芭蕉ゆかりの名所を巡りながら日本文化への理解を深めました。

寒空の下での研修となりましたが、日本語日本文化に関心を持つ留学生同士で交流を深めるよい機会となりました。

米国交換留学生が山添村での中学校交流、ホームステイを行いました。（2018年３月９-10日）

「奈良教育大学と山添村との包括的連携協力に関する協定書」に基づき、米国セントラルミシガン大学から本学に留学中のコリンさん、トラヴィスさん、マシューさんが山添村での中学校交流、ホームステイに参加しました。

山添中学校での交流では、本学音楽教育専修３回生の瀧井美穂さんが準備段階から参加し、活動の計画や留学生の日本語のサポートをしてくれました。当日は、米国の中学生の生活に関する発表に続いて、谷川俊太郎作「生きる」を日本語と英語で朗読し、さらに一人一人にとっての「生きるということ」を日本語と簡単な英語で考える活動を行いました。

学校交流のあとは、ホストファミリーと対面し、１泊のホームステイを行いました。日本語だけで１日過ごすとあって、出発前は緊張の面持ちの３名でしたが、ホストファミリーのみなさんのあたたかいおもてなしのおかげで、楽しく、有意義な時間を過ごせたようです。山添村の関係者のみなさまに改めて感謝申し上げます。

大相撲大阪場所を観戦しました。（2018年３月12日）

日本語日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生22名が大相撲大阪場所を観戦しました。

テレビで観戦したことのある留学生も、初めて相撲を見る留学生も、間近で繰り広げられる熱戦の迫力に自然と応援にも熱が入りました。

交換留学生の趙思雨さんが学生委員長表彰を授与されました。（2018年３月７日）

2018年３月７日、本学大会議室において、学長表彰授与式および学生委員会委員長表彰授与式が開催されました。本学では、学術、課外活動及び社会活動等において優秀な成績を修めた学生や団体に対して学生表彰を行っており、2017年12月７日に奈良女子大学で行われた外国人留学生スピーチ大会に出場して準優秀賞を受賞した交換留学生の趙思雨さんが学生委員長表彰を授与され、祝福を受けました。

H29年度教員研修留学生プログラムの修了式が行われました。（2018年３月19日）

2018年３月19日（木）、教員研修留学生のALAGANO Robelyn Farinasさん（フィリピン）、AKO Donald Awooさん（ガーナ）、GOKA Gershon Kwakuさん（ガーナ）、DORJI Rinchenさん（ブータン）が2016年９月からの１年半（うち半年はJASSOでの日本語集中研修）の研修を修了しました。

修了式に先立って、修了生４名による日本での経験についての発表会が行われました。

懇親会では、プログラムでお世話になった教職員、学生、地域のみなさんも出席し、奈良で生まれた絆がこれからも続くことを祈りつつ、名残を惜しみました。

1.3 日本語・日本文化研修留学生/協定校交換留学生/教員研修留学生プログラム

●2016年度受入　日本語・日本文化研修留学生･交換留学生

大使館推薦 日本語・日本文化研修留学生	３名	インドネシア共和国、チリ共和国、ポーランド共和国
大学推薦 日本語・日本文化研修留学生	１名	Ⅱ－４ 協定大学からの受入留学生数参照
国際交流協定に基づく特別聴講学生	14名	

修了レポートタイトル一覧

「日本語とルーマニア語の過去形」
「日本語複合動詞「～きる」と「～ぬく」の習得　－インドネシア人日本語学習者に焦点をあてて－」
「日本のいじめはなぜ減らないのか」
「日本人のキリスト教の受容」
「世界中のウォールマート」
“ My Trip to Nara”
“Examining Video Games as a Reflection of Culture”
「現在のヤクザ映画の不人気に関する考察」
「春日大社から見た日本人の宗教観」
「日本語のオノマトペ－フランス人の日本学習者を対象として－」
「幼年教育専攻学生の職業観に関する考察 －奈良教育大学の学生に対する調査から－」
「現代若者の方言使用に関する意識調査 －関西弁話者を対象として－」
「日本人宗教信仰への理解についての一考察 －中国固有宗教信仰と比較して－」
「蛇体になった女人像に関する一考察 －近世怪異小説「愛執物語[1]」を中心として－」
「日本における落語に関する認識調査 －現代の若者を対象として－」

●2017.4-2018.3　教員研修留学生

３名	ガーナ共和国、フィリピン共和国、ブータン王国

研究報告書

“INTRODUCTION TO QUANTUM PHYSICS”
“FUNDAMENTALS OF PHOTONICS”
“USE OF TEACHING AND LEARNING MATERIALS IN SCIENCE”
“ROUTINE AND NON-ROUTINE PROBLEM SOLVING APPROACH OF JAPANESE GRADE 8 STUDENTS”

2018年度

1.1 教育研究支援機構発行ニューズレターより抜粋

本センターでは、受け入れ留学生への日本語日本文化教育とともに、国際的視野を持った教員の養成に資することを目的とした教員養成大学ならではの国際交流事業を展開しています。設立５年目となる2018年度の主な活動は、(1) 受け入れ留学生教育の運営、(2) 学内における異文化交流の活性化、(3) 派遣留学生の奨励と支援、(4) 附属学校園や地域と連携した国際交流の推進です。活動成果の詳細は、以下の通りです。

(1) 受け入れ留学生教育の運営

2018年度、本学では、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカなど、さまざまな国から約60名の留学生を受け入れました。その中には、文部科学省の奨学金を得て、日本の教育事情を研修するために留学している海外の現職教員（教員研修留学生）が５名います。本学が協定を結んでいる大学からの交換留学生は、６ヶ国から17名です。本学は、2018年度海外留学支援制度協定受け入れ短期研修・研究型に採択され、12名に奨学金を支給することができました。他に、日本語・日本文化研修留学生７名や、私費での学部生、大学院生、研究生が、本学で学んでいます。

本センターでは、通常の授業の他に、「来日前準備キット」を送付して留学前からの学習を促進したり、文楽鑑賞や大相撲見学や旅行などの文化体験の場を提供したりしています。限られた授業数の中で、幅広い日本語レベルの多様な留学生を受け入れるという難しい問題に直面しつつも、小規模大学ならではのきめ細やかな指導を行っています。

また、留学生の学習成果発表会は、全学に公開で実施しています。たとえば、７月には「日研生・交換留学生終了発表会」、12月には「米国協定校からの留学生による発表会」、１月には「日本語コミュニケーションプロジェクト成果発表会」、３月には「教員研修留学生最終発表会」を行いました。このうち、「日本語コミュニケーションプロジェクト成果発表会」では、「奈良の伝統と現代の人々」をテーマに、日本語による口頭発表を行いました。これにより、本学の学生が留学に興味をもつことを期待しています。

(2) 学内における異文化交流の活性化

①留学生・日本人学生の共修機会の提供

本学では、留学生と日本の学生とが共に学び合える機会を多く提供しています。たとえば、前期には、留学生用科目「日本語文献講読（言語）」と「大学での学び入門（教育学専修）」で一部合同授業を行い、日本国内外の教育制度や問題について意見交換を行いました。また学部科目「日本語教授法特講」、大学院科目「日本語教育学特講」を受講する日本の学生と留学生とが協働で多文化電子紙芝居を製作しました。本学絵本のひろばで開催した成果発表会には、附属幼稚園児および保

護者をはじめ、本学の学生も多数参加しました。後期には、留学生科目「日本語コミュニケーション」の授業の一環として協力した附属小学校の「外国語」の活動や、学部科目「日本語教育論」での成果を活用して協力した附属中学校での国際理解教育の活動では、留学生とともに教員養成課程の学生も協力、参観しました。

②学内における国際交流活発化のための取り組み

授業以外でも、国際交流の場を用意し、留学生と日本の学生とが出会える機会を多く提供しています。たとえば、４月の「留学生と友だちになろうキャンペーン」や、国際交流イベント「なっきょん's café」を通して、留学生と日本人との交流の機会を提供し、自主的な交流への橋渡しに努めました。また、約40名の学生が留学生サポーターとして活動しています。

６月には、協定校のセントラルミシガン大学から「Global citizenship」という科目の履修生11名と教員２名が来訪し、本学の書道の授業や附属小学校を見学した他、本学の元派遣留学生と交流を行いました。

また、１月24日には、本センター主催で、「教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える」と題したシンポジウムを開催しました。

櫻井千穂氏（同志社大学）をおよびし、文化や言語の多様な子どもたちに対する学校・地域でできる支援についてお話しいただきました。実践的な内容で、本学の学生にとっても、グローバル化がすすむ社会で必要とされる教員の資質や能力を強める貴重な機会になりました。

(3) 派遣留学の奨励と支援

全国的に日本の学生が内向き志向になっているといわれる中、本学では2018年度、４名の学生をアメリカの国際交流協定校２校に派遣しました。本センターでは、多くの学生に留学に関心をもってもらうために、学生支援課と連携して、派遣留学プロモーションウィークを開催しました。具体的には、７月と12月に、図書館ラーニングコモンズを利用して、アメリカとドイツに派遣された学生による帰国報告会を行いました。また、本学卒業生の斑鳩南中学校の末吉明代教諭をお招きし、在学期間中のセントラルミシガン大学への交換留学と、その後同大学への大学院進学のご経験をお話いただき、海外経験がご自身の教職にどのように役立っているのかについてお話いただきました。

なお、本学では、派遣が決まっている学生を含め海外渡航に関心のある学生らを対象に海外留学安全対策協議会（JCSOS）による渡航前オリエンテーションを実施したり、現地では高額な教科書や教材などの購入資金を援助するための海外派遣留学生支援奨学金を設けたりなど、学生の海外派遣を積極的に支援しています。

(4) 附属学校園や地域と連携した国際交流の推進

①附属学校園との連携

附属小学校では、７月に教員研修留学生が「外国語」の活動に参加し、出身国の一般情報の紹介や母語のミニレッスンを日本語で行いました。また、本学学生有志がこの活動の参観を行って、交

流を深めました。

附属中学校では、「日本語教育論」の受講生12名が、１年生を対象とした異文化理解教育の授業の企画、実施を担当し、学生にとっても附中関係者にとっても、異文化間能力を高める機会となりました。

また、７月に開催した多文化電子紙芝居の成果発表会には附属幼稚園児とその保護者も多数参加しました。

②地域貢献

日本語・日本文化教育及び地域交流の一環として、山添中学校を３回（うち１回は希望者のみ）訪問した他、ホームステイも実施しました。本学と山添村との地域連携協定に基づくこの企画は、本学の留学生にとっても、山添中学校の生徒にとっても、そして、この企画にいっしょに参画した日本人学生にとっても、かけがえのない異文化理解の場になりました。

７月には、地域の方々を対象に、絵本の読み聞かせイベントを図書館絵本のひろばで開催しました。ここでは、留学生が自国の絵本を母語と日本語で読み、子どもの遊びの紹介をしました。

８月には、本学理数教育研究センターが実施した「サマースクールin曽爾」に教員研修留学生３名が、本学学生とともに参加し、曽爾小学校、曽爾中学校の児童・生徒らとの交流を深めました。

さらに、ボランティアサポートオフィスなどの関係部署と連携し、地域の学校や団体からの依頼に基づき、留学生と日本人学生とを派遣するなど、地域の国際交流活動の推進に努めました。

以上のように、本センターでは、留学生に対して日本語日本文化教育を提供するだけでなく、留学生プログラムを核にして、学内における国際交流の環境を醸成すると共に、その活動内容や成果を必要に応じて学内外へ発信しています。また、海外協定校派遣留学生が得た成果を、帰国後に学内に効果的に還元させることにも取り組んでいます。このようにして、本センターは、本学の国際交流の基本方針の一端を担っています。（その他の活動の詳細は、国際交流留学センターのホームページ（http://cies.nara-edu.ac.jp/）で紹介しています。）

1.2 国際交流留学生センターホームページ記事より抜粋

留学生が答志島に学習旅行に行きました。（2018年４月20-21日）

４月20、21日、日本語日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生が日本文化を学ぶプログラムの一環として、三重県にある答志島に１泊の学習旅行に行きました。

答志島では、現役の海女による話や、地図を持たずに指定されたポイントを巡る路地裏スタンプラリー、岩屋山の散策、海ホタルの見学などを経験しました。

島民との交流を通して、自然とともに暮らす日本の文化、風習を直接学ぶことができ、貴重な学習旅行となりました。

「留学生と友達になろうキャンペーン」を行いました。（2018年４月25日）

４月25日、毎年恒例の「留学生と友達になろうキャンペーン」が開催されました。

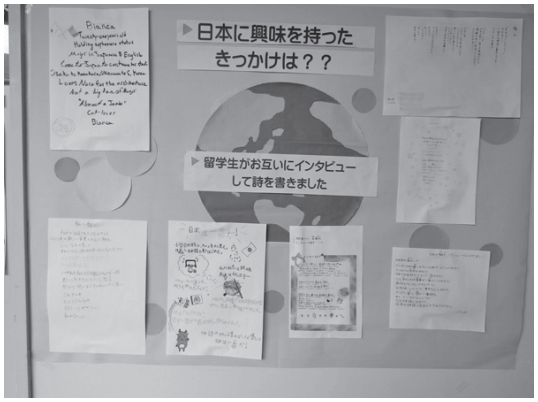
当日はお天気が心配されましたが、お昼前からは日差しもみえはじめ、予定通り屋外でイベントを開催することができました。

今年は、ドイツ、フランス、ルーマニア、ブラジル、ブルガリア、中国、アメリカからの留学生が自国紹介のブースを出し、国の料理や国の遊びを披露し、参加者と交流を深めました。

またイベント終盤にはフランス・リヨン第３大学から留学中のレオニさんとラファエルさんがフランスの歌を弾き語りし、イベントを盛り上げました。

このイベントでは留学生の国紹介だけではなく、日ごろ「留学生サポーター」として留学生の生活をサポートしてくれている日本人学生のみなさんもブースを出して学内での国際交流について紹介し、より多くのみなさんに関心をもってもらえるよう呼びかけました。イベントの運営に尽力してくれた学生のみなさん、当日、イベントに参加してくださった本学学生、教職員のみなさん、附属幼稚園の園児のみなさん、ご協力ありがとうございました。

留学生の詩を国際交流オフィス前に掲示しました。（2018年５月８日）



留学生が授業で書いた詩を掲示しました。
「あなたが日本に興味を持ったきっかけは？」というテーマで、留学生がお互いにインタビューしあい、相手の気持ちを詩で表現しました。
イラストあり、筆文字あり、カラフルで個性豊かな詩を是非見に来てください。

今週は全体の半数（７枚）を掲示しています。
来週はそれらを入れ替えて新しい７枚を掲示する予定ですので、そちらもお楽しみに！

本学協定校セントラルミシガン大学（CMU）のみなさんが奈良を来訪されました。

（2018年６月４日）

本学協定校セントラルミシガン大学（CMU）から、「Global citizenship」という科目の履修生11人とご担当の先生３人が来訪されました。
奈教大からはCMUに留学していた学生とこれから留学する学生の２人、CMUからの留学生３人が参加してくれました。図書館、書道の授業、附属小学校の見学をしていただき、その後はみんなで東大寺へ行きました。特に附属小学校ではCMUの学生が大人気で、子ども達と気軽にhello!と挨拶し合う姿が印象的でした。

短い時間でしたが、両校の絆がますます深まる交流ができました。CMUのみなさん、またぜひ奈良にいらっしゃってください！

本学 公認サークル 合唱団コールグレイスの演奏会へ行ってきました。

（2018年６月26日）【@大講義室】

６月26日（火）本学公認サークル合唱団コールグレイスの演奏会へ行ってきました。
留学生にとっては新鮮な、日本人にとっては懐かしい曲の数々（心の瞳、優しさに包まれて、虹）で、リラックスした時間を過ごすことができました。留学生からは「楽しかったよ～」という声が聞こえました。

森本先生、コールグレイス部員の皆さま、素敵な時間をありがとうございました。

絵本のひろばでイベント「世界の子どもたちはどんな絵本読んでるの？」を行いました。

（2018年７月11日）

学部科目「日本語教授法特講」、大学院科目「日本語教育学特講」では、留学生の国の絵本を日本語に翻訳する活動をし、その成果を絵本のひろばで披露しました。

イベントには、部屋がいっぱいになるほどたくさんの附属幼稚園児と保護者の方々、本学学生、教職員にご参加いただきました。

イベント前半は留学生の国の絵本の読み聞かせを、日本語と母語で行いました。日本語版には数箇所、オリジナルの母語がそのまま使われていて、意味を想像しながらお話を聞きました。また母語での読み聞かせでは、初めて触れる言語の音やリズムを感じました。

後半は参加者みんなで、留学生の国の遊びをしました。ルーマニア語と中国語による伝言ゲーム、色の名前をポルトガル語と中国語で学びながらの絵本の挿絵の塗り絵、「投壺（tóuhú）」という中国の遊び、折り紙の４つのグループに分かれて交流を楽しみました。

附属幼稚園のみなさん、参加してくださったみなさん、ご協力どうもありがとうございました。

教員研修留学生が附属小学校の「外国語」の活動に参加しました。（2018年７月17日）

今年４月から本学で研修を行っている教員研修留学生が、附属小学校で小学６年生の児童と交流を行いました。

交流活動では、小学校教員のキムイエリさん（韓国）、言語センター日本語教員のレイテ・キエジ・ジュリオさん（ブラジル）、理科・数学の中学校教員のコンジェ・ワナングァさん（マラウィ）、文学とポルトガル語を教えているブエノデ・メロ・セランオ・ダニエルさん（ブラジル）の４名が、各組に分かれて、出身国の一般情報の紹介と母語のミニレッスンを日本語で行いました。堂々とした態度や生徒たちへの声がけは、さすが各国の現職教員です！教研生の問いかけに積極的に答える児童の姿もとても印象的でした。

授業を参観した附属小学校教員からも、「文化を知ること、そして言語を知ることが子どもたちの世界の扉を開いていくことを再認識した。」との感想が聞かれました。

教研生のみなさん、関係者のみなさま、どうもお疲れ様でした！

＜参観した日本人学生の声＞

山崎　大輝さん（国語教育専修中等教育専修分野２回生） 普段あまり触れることのない異文化を生で体験することが出来て、とてもいい勉強になりました。今後もこのような機会があれば参加したいと思います。ありがとうございました。

新谷　晴香さん（国語教育専修中等教育専修分野２回生） 私も子どもたちと一緒に異文化に触れることができ、とても面白かったです。また、子どもたちがとても楽しそうに授業に参加していて、とても勉強になりました。また参加させていただきたいです。

７月18日（水）13：00～『なっきょん's Café』を国際交流室にて行いました。（2018年７月18日）

2017年８，９月に来日した留学生たちと行う最後の『なっきょん's Café』です。今回のテーマは・・・「お好み焼きパーティー」。お好み焼きを作るのは初めての留学生もいれば、関西出身や広島出身など、それぞれのお好み焼き文化を持った学生もいました。

魚肉ソーセージ入り、キムチ入り、チーズ入り、最後は食パンのお好み焼き（意外と好評でした！）と色々なお好み焼きを作って盛り上がりました。仲良くなった留学生の帰国は寂しいですが、最後にふさわしい、とても楽しい会になりました。

なっきょん's Caféは留学生と日本人学生がゲームをしたり、昼食やおやつを食べながら、ざっくばらんに日本語でおしゃべりする会です。留学生と話したい！友達になりたい！という方は、出入り自由ですので、どうぞ気軽にご参加ください。

第３回　派遣留学のプロモーションイベントを開催しました。（2018年７月18日）

本学国際交流留学センター･学生支援課では、海外留学･海外研修等の経験をお持ちの現職の先生に留学のご経験についてお話いただく機会を設けています。

第３回目は、７月18日（水）16時～17時に次世代センター１号館大会議室にて、本学卒業生で、現在斑鳩南中学校教諭の末吉明代先生に、本学在学中のセントラルミシガン大学（米国協定校）への留学経験、その後TESOLの修士課程に進学するため再度セントラルミシガン大学に留学された経験、またそれらの経験がどのように現在の教職に活かされているか、についてお話をいただきました。

当日参加した、これから協定校に派遣留学する学生や留学に興味のある学生、教職員は、現地での具体的な体験談に熱心に耳を傾け、教職に活かされていることを学ぶことができ、大変貴重な機会となりました。

日本語・日本文化研修留学生／交換留学生　最終発表会が開かれました。（2018年７月27日）

2017年８月、９月に来日した日本語・日本文化研修留学生と交換留学生が約１年間のプログラムを終えるにあたって、2018年７月27日、本学図書館ラーニングコモンズにおいて最終発表会を行いました。

この留学生プログラムでは、留学生が各自の専門分野や興味に応じてテーマを選び、修了レポートをまとめることが最終課題となっています。最終発表会では、修了レポートの内容についてポスター発表を行いました。留学生ならではの視点でまとめられた発表内容で、聴衆と活発なディスカッションが繰り広げられました。

発表会後には、プログラムの終了を記念して記念品授与式、懇談会が開かれ、奈良での留学生活を振り返りつつ、仲間たちとの別れを惜しみました。

H30年度　秋季留学生入学式＆懇談会が開催されました。（2018年10月３日）

10月３日（水）、2018年度秋季留学生入学式が本学山田ホールにて開催されました。

大学間交流協定に基づく交換留学生、日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生20名への学長からの祝辞、在学生からの歓迎の言葉があり、新入留学生は気持ちを新たに日本での学生生活をスタートさせました。

入学式の後は、新入留学生を歓迎すると同時に、在籍する留学生と日本人学生、教職員との交流を深めるよい機会にしてもらおうと留学生懇談会を開催しました。夕刻から学生食堂で行われた懇談会には、在籍する留学生や日本人学生をはじめとする学内関係者と来賓の方々、約100名が参加しました。懇談会では、新入留学生によるコスタリカの伝統ダンスや、本学ユネスコクラブによるアンクルン演奏、また、本学公認サークルコールグレイスによる合唱が披露され、留学生や日本人学生が交流を深め、暖かい歓迎の雰囲気に包まれました。

恒例の国際交流イベント「奈良実習園で稲刈り体験！」を開催しました。（2018年10月17日）

10月17日（水）、恒例の国際交流イベント「奈良実習園で稲刈り！」を本学附属の自然環境教育センター奈良実習園にて開催しました。

当日は、この秋に入学した留学生、日本人学生及び教職員16名が集まり、箕作准教授（栽培学、園芸学）による、日本の米作りについての講義を受けた後、鎌での稲刈りを行いました。

この日は心配していた雨も降らず、暑すぎず、体を動かす

には絶好の陽気でした！

多くの参加者にとって、稲刈りは初めての体験です。初めはこわごわ鎌を使って、藁で稲を束ねる作業も何度もやり直している様子でしたが、終わる頃には皆笑顔で話をする余裕が出てきました。稲刈りの後は、天日で乾燥させるための「はざかけ」を行いました。

イベント終了後は「手でこの作業をするのは大変ですね」、「食べ物の大切さを学べる良いイベントでした」という声も聞こえました。冬には実習園で収穫された餅米を使って餅つきを行う予定です。

【留学生と友達になろう♪】10月入学の留学生たちが自己紹介ポスターを作成しました。

（2018年10月29日）

留学生がそれぞれ自作した自己紹介カードを集めて大きなポスターを作ってくれました。

題して「留学生と友だちになろう」！似顔絵も個性的でとても面白いですよ！

掲示したので、是非見に来て下さい。場所は、国際交流オフィスの入り口です。

10月24日（水）13：00～ 『なっきょん's Café』を国際交流室にて行いました。

（2018年10月24日）

今学期１回目のなっきょん's Caféを開催しました。

予想を超える数の参加者に、交流室の椅子だけでは足りなくなる、という嬉しいビックリもありました。自己紹介をした後は、お菓子を食べながらわいわいおしゃべりを楽しみました。

あまり交流室に来る機会が無い学生・留学生も、雰囲気に馴染んで、リラックスしてくれているようでした。次回から本格的に企画を行う予定です。

次回のなっきょん's Caféは11月28日（水）！

その打ち合わせを11月６日（火）に国際交流室（12：20～13：00）で行います。

なっきょん's Caféは留学生と日本人学生が協力して企画運営してくれている会です。

沢山のご参加をお待ちしています。

教員研修留学生が山添中学校の「国際理解」の活動に参加しました。（2018年11月２日）

今年４月から本学で研修を行っている教員研修留学生４名が、本学と連携協力に関する協定を結んでいる山添村の山添中学校で交流を行いました。

交流活動では、２年生、３年生のクラスに入り、自身の専門教科と関連づけた国紹介を行いました。たとえば、小学校教員のキムイエリさん（韓国）は韓国の小学校でも社会や図工の時で行う韓国の伝統的なパッチワーク「조각보（JoGakBo）」の歴史的な背景を説明したあと、折り紙を使って조각보のデザインを体験するワークショップを行いました。また、ブラジルで文学とポルトガル語を教えているブエノデ・メロ・セランオ・ダニエルさんは、ブラジルの学校でも教えられる民話「ノラト・ヘビ」を紹介し、生徒と一緒に教訓や日本の民話について話し合いました。

最初は恥ずかしがっていた生徒たちも、活動が進むにつれてどんどん積極的になり、新しい文化に触れる楽しさを体験できたようです。

本交流の計画、実施にあたりましては山添村の関係者のみなさまにご協力いただきました。どうもありがとうございました。

＜ブエノデ・メロ・セランオ・ダニエルさんの振り返り＞

日本の学校で教えるのは３回目の経験でしたが、以前よりうまくできて満足しています。プログラムはとてもよくオーガナイズされていてよかったです。でももう少し自由に生徒たちとやりとりできる時間があるとよかったです。

＜嶋田智沙恵さん（数学教育専修中等教育履修分野１回生）の振り返り＞

最近、日本語教育に興味を持ち始めたので留学生の授業に参加したいと思い、この活動に申し込みました。マラウィの数学教員、コンジェさんから授業の話を聞いて、数学は世界の共通言語だと、改めてその面白さを認識しました。また参加したいです。

留学生が本学附属小学校の「外国語」の授業に参加しました。（2018年11月７日）

11月７日（水）に留学生科目「日本語コミュニケーション」を受講する留学生が、附属小学校の「外国語」の授業に参加しました。附属小学校では、外国語の授業の一環として、母語と他言語、自文化と他文化について理解を深める「言語・文化」という独自の活動を取り入れています。

2013年からは、文化の多様性に触れることを目的に、様々な国から来た本学の留学生が５年生の活動に参加しています。

前半の活動では留学生が中心となり、自国の伝統行事などを紹介しました。また活動後半には、児童と留学生が一緒になって「色の名づけ」から文化の多様性とことばの関係について考える活動を行いました。まず留学生が自国の色の名前を紹介し、同じような色でも文化背景によって名づけ方が違うことを確認しました。授業の最後にはモニターに映し出された色を見て、一緒に名前をつけてみるという活動を行いました。また授業後には給食を一緒に食べながらさらに交

流を深めました。

なお、授業準備、当日の活動には本学の日本人学生も参加し、附小児童、留学生だけでなく、将来教員を目指す日本人学生にとっても、異文化を理解し、また学校教育で行われている国際交流活動を実際に目にする有意義な学びの機会となりました。

＜附属小学校生徒の振り返りコメントより＞

・中国では「福」と書いたのをさかさにはるとえんぎがよくて、さかさは「たお」とよんで、幸せがくるというのがわかりました。私は、さかさにはるのは知っていたけど、意味は知らなかったから知れてよかったです。

・今日は外国の人が日本をすごいいいところだと思っていたけど、本当は食べ物を捨てているのを知っていなさそうだった。それを外国の人が知ったら、日本に行く人がどんだけ減るんだろうなーと思いました。

＜留学生の振り返りコメントより＞

・第三セッション（「色の名づけ」と文化の多様性を考える活動）では、ピンクについてあまり説明できなかった。中国語で「粉色」と書くが、実際に「粉」とは関係あるかどうかはわからないので、勉強不足だった。今回の色の授業はとても有意義だと思う。先生は色についての固有イメージを破って、男の子もピンクが好きになるのも大丈夫だ、女の子もブラックが好きになるのも大丈夫だと言うことなどを子どもたちに教えた。本当に感心した。

・フランスでは小学校のときも食堂で食事をする。日本はフランスより「グループの意識」の感じがした。フランスよりグループ活動が非常にたくさんあるみたいだった。

留学生が秋の近江八幡に学習旅行へ行ってきました。（2018年11月９日）

本学に留学中の日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生が秋の日帰り学習旅行で近江八幡に行ってきました。

水茎焼きの陶芸体験では、約１時間の作業時間で、殆どの学生がそれぞれ２つの作品を作り上げました。

食後は、手漕ぎの舟に乗って、水郷めぐりをしました。船頭さんが語られる地域の歴史や文化に耳を傾けながら、静かな水音とともに水上を移動します。「もう、舟から降りたくない～！」という留学生をバスに乗せて次に向かったのは、八幡堀周辺です。ボランティアガイドの方々に町の歴史を説明していただきながら、歴史的な町並みを散策しました。

当日は、秋晴れ！・・・とはいきませんでしたが、心配していたほど雨は降らず、むしろ傘をさして歩く八幡堀はしっとりとした風情があり、美しい景色を楽しむことができました。

学習旅行の課題として、みんなで俳句（川柳）を詠みました。

留学生の作品は、記事の最後をご覧ください。

本学 公認サークル 合唱団コールグレイスの演奏会へ行ってきました。

（2018年11月29日）【@大講義室】

11月29日（木）本学 公認サークル 合唱団コールグレイスの演奏会へ行ってきました。誰もが一度は聴いたことのある「カントリーロード」から始まり、「生命の奇跡」、「For the beauty of the earth」と３曲演奏いただきました。

優しい歌声に、すっかりリラックスして聴き入ってしまいました。森本先生、コールグレイス部員の皆さま、素敵な時間をありがとうございました。

11月28日（水）13：00～ 『なっきょん's Café』を国際交流室にて行いました。

（2018年11月28日）

日本人学生と留学生の交流イベント「なっきょん's Café」を行いました。
今回のテーマは「巻き寿司作り」です。
それぞれ食べたい具材を持ち寄り、酢飯作りからスタート。海苔の上に酢飯、具材をおいて、「まきす」で丸めます。
留学生の中には経験者も多く、綺麗な巻き寿司ができました。
韓国からの留学生は、韓国の巻き寿司「キンパ」を作ってくれました。

自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「もちつき大会」を開催しました。

（2018年12月４日）

これは、在学する留学生と日本人学生に交流機会を提供しようという目的から、月に一度程度ユニークな国際交流イベントを提供しているもので、今回は10月の稲刈りに続いて、大学附属の自然環境教育センター奈良実習園にてもちつき大会を行いました。

師走に入り例年は寒さを感じる時期ですが、今年は各地で12月の最高気温を更新するような陽気となりました。

留学生のほとんどは、もちつきを体験するのも杵を持つのも今回が初めてです。辻野准教授（生態学、環境学）による日本の米作りの流れについて講義を受けたあと、実際にもちつきを体験しました。湯気がもくもくと立ち上る熱々のもち米を、まずは杵でつぶします。最初に手を挙げた二人が、実習園の職員の方と一緒に、三人で臼の周りぐるぐる周りながら、もち米を杵で練るように潰してくれました。その後は、順番にいよいよもちつき！杵の握り方、力の入れ方など

をセンター教職員の方々に指導いただきながら、楽しく、一生懸命もちをつきました。最後は、ついたおもちを皆で丸めて、砂糖醤油ときな粉で美味しくいただきました。

学長と帰国派遣留学生との懇談会を開催しました。（2018年12月18日）

平成30年12月18日（火）学長と帰国派遣留学生との懇談会を開催しました。

当日は、大学間交流協定に基づき、協定校に派遣留学したセントラルミシガン大学（米国）への派遣留学生１名、リヨン第三大学（フランス）への派遣留学生２名、ハイデルベルク大学（ドイツ）への留学生１名が出席し、学長、副学長、国際交流留学センターのセンター長との懇談を行いました。

〜〜派遣留学生が話してくれた内容・一部紹介〜〜

（アメリカ）

・それほどカルチャーショックを感じなかった。

・想像していたよりも現地学生と日本の学生との共通点も多かった。

（ドイツ）

・小学生でも、自分の意見をはっきりと伝えることができる子どもが多かった。

・見学した現地の学校の英語の授業は会話中心で、とにかく話すことを大切にしていた。

（フランス）

・色んな国のルーツを持った人たちが街で一緒に生活をしている。その光景が新鮮だった。

・自分がフランス語を学んだ経験を、今後自分が子ども達に語学を教えるときに活かしたい。

また、学長、副学長、センター長からは、現地でチャレンジしたこと、文化の違いを感じたこと、留学を志望した動機、コミュニケーション力はついたか、などの質問がされました。学長から最後に、「この経験を人生の宝にしてください。」とのコメントがありました。

アメリカからの留学生が発表会を行いました。（2018年12月21日）

今年度はセントラルミシガン大学から１名の留学生が本学で日本語・日本文化を学んでいます。12月21日の学期末発表会では、彼自身が作詞、作曲したオリジナルの曲を２曲披露してくれました。

日本に来た直後に作曲した曲と、数ヶ月間日本で過ごした後作曲した曲です。その２曲の比較や解説を日本語と英語で行いました。

（（発表者のコメント））

来日直後は、日本を表面的に捉えた内容の歌詞が多かった。

しかし、数ヶ月日本で生活し、授業などから様々な気づきを得た後は、より深く日本を理解した内容の曲が書けたと思う。

＜発表者＞
セントラルミシガン大学　／　コナス　コナー　エドワード
　この日は秋学期最後の日。発表会後には参加者と一緒に発表者の健闘をたたえて、年忘れの茶話会を行いました。

歌舞伎を観劇しました。（2019年１月18日）

　日本語・日本文化研修留学生、交換留学生、教員研修留学生のみなさんが大阪松竹座で「壽初春大歌舞伎」を観劇しました。
　演目は忠臣蔵の外伝物「玩辞楼十二曲の内 土屋主税」の他「寿栄藤末廣」、「玩辞楼十二曲の内 河庄」でした。幕間を入れると全部で４時間近くの公演でしたが、迫力ある舞台に魅せられ、あっという間に時間が過ぎていきました。

留学生向け科目「日本語教育論」を受講する留学生12名と日本人学生が授業での学びの成果を附属中学校１年生の国際理解教育の場で披露しました。（2019年１月23日）

　交流活動では、留学生が自国の文化と言語を日本文化・日本語と比較しながら紹介しました。
　また、理解がより深まるよう、それらの文化的事象についてはその背後にある習慣や価値観にも言及されました。また交流に参加した日本人学生にとっては、中学校での国際理解教育の現場を知るよい機会となりました。
＜サオ・エステファニアさん（日本語・日本文化研修留学生）の振り返り＞
「朝ごはんと翻訳（中国語とスペイン語）」の説明に、非常に興味を持ってくれたと思う。
翻訳の部分には、学習者がすでに持っている英語の知識と関連付けた。「私は朝ごはんを食べました」の文と中国語の文には冠詞がない。なぜなら、この二つの言語には冠詞がないからだ。しかし、スペイン語にはある。そして、”Yo comí el desayuno”のスペイン語の文には”el”は冠詞の一つである。中学生が分かるように”el”は英語の”the”と説明した。そして、動画を見ると、この説明のあとで何人かの中学生がわかってくれたようで「あ～！」と言っていた。文化を紹介した際に「ガヨ・ピント（コスタリカの朝食の呼び方）」という食べ物が何であるかを説明し、どのように「ガヨ・ピント」が食べられているのか、また、いつ食べられているのかを説明した。最後に、スペイン語の「朝ごはん」という言葉は日本語と同じ意味を表しても、その「朝ごはん」の見方（日本人が思っている「朝ごはん」とコスタリカ人が思っている「朝ごはん」）がどのように異なるのかを説明した。
＜齋藤祐介さん（伝統文化教育専攻　書道教育専修　４回生）の振り返り＞
今回国際交流の授業にお邪魔させていただいて、とても勉強になりました。中学生たちが、まだ自分たち

と直接の関わり合いは少ないであろう海外の人とどのように接するのか、文化の違いをどのように受け取ってどのように伝えるのかなど参考になることが多かったです。特に日本文化を紹介する活動では、以前に別の授業で見学した時よりもさらに近い距離で交流できたので楽しかったです。

プロジェクトワーク「奈良の伝統と現代の人々」の成果発表会を行いました。（2019年１月30日）

留学生向け科目「日本語コミュニケーション」では、「奈良の伝統と現代の人々」というテーマで、地域住民等へのインタビューを通して伝統と現代に生きる人々との関わりをグループで調査し、その成果を発表しました。それぞれのユニークな視点で選ばれたテーマについて、調査した留学生だけでなく、発表を聞いた参加者も理解を深めることができました。

発表題目は以下の通りです。

１．奈良らしさを現しているお菓子
　ペコペコグループ（サオ　ソラノ　エステファニア、パク　ヒョンジ、アルノー　ヴィクトリーヌ、ヨウ　シセイ）

２．「にぎわいの家」の庭から見る日本人のリサイクル意識
　ネイチャーグループ（コ　トウカク、グラウニ　ナムラタ）

３．火にまつわる行事と奈良の人々
　デゥブワ　シャベール　カミーユ

４．頭塔
　クプファー　ヨルゲ

５．奈良町に潜んでいる小さい神社
　元気満々グループ（ショウ　イチラン、チョウ　ガ、チョウ　ロセツ、トウ　ゴウ）

６．奈良人と庚申さん
　お猿さんグループ（テイ　カショウ、リョウ　ブンレイ、フューメ　ステファニア）

７．元興寺の魅力
　元興寺グループ（ネアグ　アレクサンドラ、アルデレアヌ　ベアトリチェ、ガウジャン　ラリサ）

１月30日（水）15：00～　『なっきょん's Café』を国際交流室にて行いました。（2019年１月30日）

今回のテーマは「ショートフィルムについて語ろう！」でした。
映画好きのフランスからの留学生が日本、台湾、フランス、アメリカのショートフィルムを紹介してくれました。
　映画のテーマは視覚障害、テクノロジーと友情、ジェンダー、メディアや流行と様々でした。
作品のテーマはどれも軽い物ではありませんでしたが、お茶やお菓子を囲んでリラックスして、自分の意見や国による違いなどを話し合うことができました。

大阪大学の留学生といっしょに京都実地見学旅行に参加しました。（2019年２月12日）

大阪大学による日本語・日本文化教育研修共同利用拠点事業の一環として、本学の留学生が京都実地見学旅行に参加しました。当日は京都で大阪大学の留学生と合流し、そこから伏見稲荷大社へ向かいました。
　伏見をゆっくりと楽しんだ後は、東山の和菓子屋「甘春堂　東店」にて、待望の和菓子作りを体験しました。
カラフルな餡で花の形を作ったり、餡を網でこしてそぼろ状にした物を飾り付けたりと、貴重な体験を楽しみました。
大阪大学の留学生の中には本学の留学生と出身大学が同じ人もおり、大いに会話が盛り上がり、活気のある交流ができました。

大相撲大阪場所を観戦しました。（2019年３月11日）

日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生が大相撲大阪場所を観戦しました。

H30年度教員研修留学生プログラムの修了式が行われました。（2019年３月13日）

2019年３月13日（水）、教員研修留学生のKIM Yeriさん（韓国）、LEITE QUIEZI Julio Albertoさん（ブラジル）、BUENO DE MELO SERRANO Danielさん（ブラジル）、KHONJE Wanangwaさん（マラウイ）が2017年10月からの１年半（もしくは半年JASSOでの日本語集中研修後に１年）の本学での研修を修了しました。

修了式に先立って、修了生４名による日本での経験についての発表会が行われました。

懇親会では、プログラムでお世話になった教職員、学生、地域のみなさんも出席し、奈良で生まれた絆がこれからも続くことを祈りつつ、名残を惜しみました。

1.3 日本語・日本文化研修留学生/協定校交換留学生/教員研修留学生プログラム

●2017年度受入　日本語・日本文化研修留学生･交換留学生

大使館推薦 日本語・日本文化研修留学生	0名	
大学推薦 日本語・日本文化研修留学生	3名	Ⅱ－4 協定大学からの受入留学生数参照
国際交流協定に基づく特別聴講学生	13名	

修了レポートタイトル一覧

「ビジネス場面における人間関係と言語形式－内と外，縦と横の概念を中心に－」
「ジャパニーズホスピタリティ「おもてなし」」
「空想的なキツネのイメージ」
「日本のLGBTとアメリカのLGBT」
“Social Expectations or How I Learned To Stop Worrying and Accept The Stereotypes”
「日本のビジネス文化」
「他国と比べる日本のホラーの面白さ」
「日本の方言－関西弁、博多弁、津軽弁、沖縄弁を中心に－」
「多義オノマトペの意味拡張について」
「日本語オノマトペの中国語への翻訳法の一考察－『伊豆の踊子』を例として－」
「中国人日本語学習者における複合動詞の誤用分析－日本語能力試験N2語彙リストを用いて－」
「源氏物語における仏教思想「方便」について」
「阪神タイガースファンの球場における応援活動について」
「日本語母語話者のジェンダーによるコミュニケーション規範に関する一考察
　－同性間コミュニケーションを中心に－」
「マンガにおけるカタカナの特別な使い方」
「マンガで使われているオノマトペ」

●2018.4-2019.3　教員研修留学生

4名	ブラジル連邦共和国、マラウイ共和国、大韓民国

研究報告書

「韓国小学校の書芸教育への提言－日本の書写書道教育との比較から－」
「外国人向けの日本語教科書の比較研究　ブラジルで作成された『ことばな』を対象に」
“IDENTITY PERCEPTION AMONG YOUNG JAPANESE BRAZILIAN LIVING IN JAPAN: A CASE STUDY ABOUT LEARNERS OF PORTUGUESE AS HERITAGE LANGUAGE”
“WATER PURIFICATION BY MORINGA, A TROPICAL PLANT”

2019年度

1.1 教育研究支援機構発行ニューズレターより抜粋

本センターでは、受け入れ留学生への日本語日本文化教育とともに、国際的視野を持った教員の養成に資することを目的とした教員養成大学ならではの国際交流事業を展開しています。設立６年目となる2019年度の主な活動は、(1) 受け入れ留学生教育の運営、(2) 学内における異文化交流の活性化、(3) 派遣留学生の奨励と支援、(4) 附属学校園や地域と連携した国際交流の推進です。活動成果の詳細は、以下の通りです。

(1) 受け入れ留学生教育の運営

2019年度、本学では、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカなど、さまざまな国から約60名の留学生を受け入れました。その中には、文部科学省の奨学金を得て、日本の教育事情を研修するために留学している海外の現職教員（教員研修留学生）が５名おり、うち４名は来年度からの本学での専門教育研修に備えて日本語集中研修を受けています。また本年度後期からは本学が協定を結んでいる大学からの交換留学生も５ ヶ国５校から12名受け入れています。本学は、2019年度海外留学支援制度協定受入短期研修・研究型に採択され、11名に奨学金を支給することができました。他に、日本語・日本文化研修留学生９名や研究留学生、私費での学部生、大学院生、研究生が本学で学んでいます。

本センターでは、通常の授業の他に、「来日前準備キット」を送付して留学前からの学習を促進したり、文楽鑑賞や旅行などの文化体験の場を提供したりしています。本年度は、新型コロナウィルスの影響で、大相撲見学が中止になったことは残念でした。限られた授業数の中で、幅広い日本語レベルの多様な留学生を受け入れるという難しい問題に直面しつつも、小規模大学ならではのきめ細やかな指導を行っています。

また、留学生の学習成果発表会は、全学に公開で実施しています。たとえば、８月には「日研生・交換留学生最終発表会」、12月には「米国協定校からの留学生による発表会」、１月には「日本語コミュニケーションプロジェクト成果発表会」、３月には「教員研修留学生修了発表」を行いました。このうち、「日本語コミュニケーションプロジェクト成果発表会」では、「奈良の伝統と現代の人々」をテーマに、日本語による口頭発表を行いました。これにより、本学の学生が留学に興味をもつことを期待しています。

課外では、自然環境教育センター奈良実習園において、田植えや稲刈り、芋掘りのほかに、もちつき体験を実施しました。

(2) 学内における異文化交流の活性化

①留学生・日本人学生の共修機会の提供

本学では、留学生と日本の学生とが共に学び合える機会を多く提供しています。具体的には、留学生対象科目「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」のほか、専門科目「教育課程演習」、教養科目「教師のための多様性理解」で一部合同授業を行いました。前期の留学生対象「日本語文献講読（言語）」の一部では、日本人学生希望者が参加して、国籍やアイデンティティの概念について議論しました。

後期には、附属小学校５年次の「外国語」で、留学生科目「日本語コミュニケーション」の受講

留学生16名が自国紹介と交流を行いました。この準備活動には、本学の学生も参加しました。また、学部科目「日本語教育論」では、留学生15名が、附属中学校の１年生の特別活動において、異文化理解の授業を行いました。学習成果を活用して、よい教育実践をすることができました。他にも、留学生と日本の学生とが共に学ぶ授業が種々用意されています。

②学内における国際交流活発化のための取り組み

授業以外でも、国際交流の場を用意し、留学生と日本の学生とが出会える機会を多く提供しています。現在、約40名の学生が留学生サポーターとして活動しています。

４月の「留学生と友だちになろうキャンペーン」には、インド、コスタリカ、ルーマニア、フランス、中国、韓国からの留学生が自国紹介のブースを出し、自国の料理や遊びを披露し、参加者と交流を深めました。

９月には、新入学留学生と日本の学生による「ならまち散策」イベントも開催されました。

また、本学ボランティア・サポート・オフィスとの協働により、毎月１回、国際交流室にて、留学生と日本人学生有志による国際交流の会『なっきょん's Café』を開催しています。さまざまな文化的背景をもつ学生たちの交流の機会になっています。

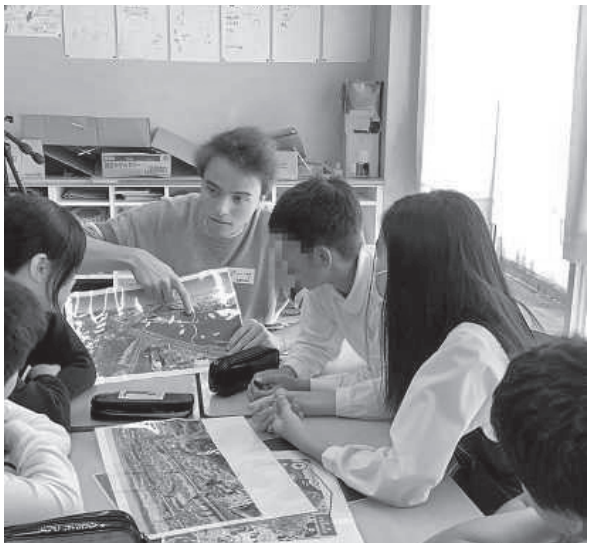
なお、５月には、協定校のセントラルミシガン大学から「Global citizenship」という科目の履修生13名と教員２名が来訪し、本学の施設や附属小学校を見学した他、本学の元派遣留学生と交流を行いました。

また、12月15日には、本センター主催で、「教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える」と題したシンポジウムを開催しました。

奈良市の小学校教員や大阪市の中学校・高等学校教員、四日市市の教育委員会指導主事から、今日的な教育課題について話題提供をしていただきました。また、本学の吉村雅仁教授が、「学校教育におけるグローバル人材育成を担う教員に何が必要か？」というテーマでの講演を行いました。実践的な内容で、本学の学生にとっても、グローバル化がすすむ社会で必要とされる教員の資質や能力を強める貴重な機会になりました。

(3) 派遣留学の奨励と支援

日本の学生の海外留学が促進される中、本学では2019年度、国際交流協定校３校に１名ずつ、計３名の学生を派遣しました。アメリカが２校、および、ハイデルベルク大学です。本センターでは、学生支援課と連携して、多くの学生に留学に関心をもってもらうための活動をしています。７月には派遣留学生の帰国報告会を行ったほか、本学の卒業生で、現在は奈良市教育委員会におつとめの中口岳先生にお越しいただきました。中口先生は、本学在学中のセントラルミシガン大学への派遣留学のほか、教職についた後のイギリスでの研修についてお話しくださり、留学経験がいかに人を成長させるのか、積極的に説いてくださいました。



本年度の新しい試みとしては、１月に教養科目「教職へのキャリアデザイン」において、本学卒業の奈良市教育委員会の坂本友香先生をお招きし、在学中の交換留学経験を交え、学校のグローバル化に対応する教員の資質能力について講義していただきました。このようにして、必ずしも留学に積極的でない学生にも、海外に目を向ける機会を用意しています。

なお、派遣が決まった学生には、派遣留学生壮行会を実施した他、渡航前オリエンテーションを実施したり、現地では高額な教科書や教材などの購入資金を援助するための海外派遣留学生支援奨学金を設けたりなどして、積極的に支援しています。帰国後の12月には、学長と帰国派遣留学生との懇談会を開催しました。

(4) 附属学校園や地域と連携した国際交流の推進

①附属学校園との連携

本学では、留学生と日本の学生とが共に、附属校園でさまざまな実践を行っています。たとえば、７月には、大学院の「日本語教育学特講」を受講する留学生が、附属幼稚園５歳児クラスで文化紹介を行い、本学学生の有志がこの活動の授業参観を行いました。

また、アメリカからの留学生が、附属小学校の「外国語」の活動に参加し、本学学生が参観しました。

11月には、附属中学校「特別活動（奈良めぐり）」の一環で、留学生科目「日本語教育論」の受講留学生が、１、２年生の生徒のインタビューに応じました。この活動にも、日本の学生１名が協力者として参加しました。

②地域貢献

留学生と日本の学生とは、学校現場での地域貢献も行っています。７月には、日本語・日本文化教育及び地域交流の一環として、教員研修留学生１名が本学学生有志とともに山添中学校の特別活動に参加し、中学生と交流しました。本学と山添村との地域連携協定に基づくこの企画は、本学の留学生にとっても、山添中学校の生徒にとっても、そして、この企画に一緒に参画した日本人学生にとっても、かけがえのない異文化理解の場になりました。

本学図書館の絵本のひろばでは、留学生と日本人学生が自国の絵本を母語と日本語で読み聞かせるイベントを行い、附属幼稚園の子ども達や、本学の学生、教職員が参加しました。

８月末から９月初めには、本学理数教育研究セ

ンターが実施した「サマースクールin曾爾」に教員研修留学生１名が、本学学生とともに参加し、曾爾中学校の生徒を対象とした理科の授業を行って、好評を得ました。

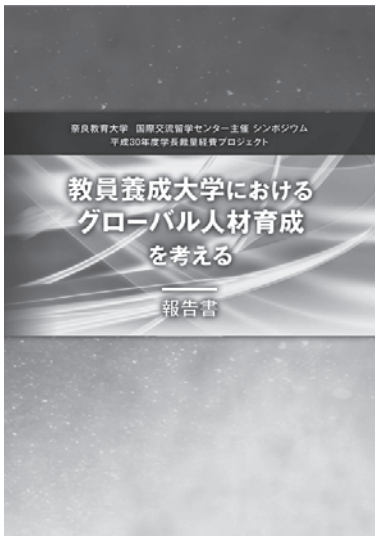
さらに、地域の学校や団体からの依頼に基づき、地域の国際交流活動の推進に努めました。

以上のように、本センターでは、留学生に対して日本語日本文化教育を提供するだけでなく、留学生プログラムを核にして、学内における国際交流の環境を醸成すると共に、その活動内容や成果を必要に応じて学内外へ発信しています。また、海外協定校派遣留学生が得た成果を、帰国後に学内に効果的に還元させることにも取り組んでいます。その他の活動の詳細は、国際交流留学センターのホームページ（http://cies.nara-edu.ac.jp/）で紹介しています。

このようにして、本センターは、本学の国際交流の基本方針の一端を担っています。次年度も引き続き、留学生プログラムの充実に努めるとともに、日本の学生と留学生との共修や、附属学校園等との連携につとめていきます。そして、留学生教育と連動させながら、グローバルな視点に立った教員養成に資する活動を行っていく所存です。

1.2 国際交流留学生センターホームページ記事より抜粋

平成30年度学長裁量経費プロジェクトシンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える」（国際交流留学センター主催）の報告書ができました。（2019年４月８日）



平成31年１月24日（木）、平成30年度国際交流留学センター主催シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える」を開催し、教員、学生、一般の方ら53名が参加しました。
本センターでは平成26年から「グローバル人材育成のためのカリキュラムに関する総合的研究」という学内組織横断的プロジェクトに取り組んでいます。
毎年シンポジウムを開催し、４回目の今回は、櫻井　千穂氏（同志社大学　日本語・日本文化教育センター）を講師にお呼びし「学校・地域でできる文化言語の多様な子どもの支援」というテーマで講演いただきました。
報告書では講演記録や、出席者からの質問とそれに対する講師の回答等を掲載しています。
なおこのプロジェクトは学長裁量経費で行いました。

留学生が答志島に学習旅行に行きました。（2019年４月19-20日）

４月19、20日、日本語日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生が日本文化を学ぶプログラムの一環として、三重県にある答志島に１泊の学習旅行に行きました。
答志島では、現役の海女による話や、指定されたポイントを巡る路地裏スタンプラリー、海ホタルの見学、海岸で拾ったシーグラスを使ったアクセサリー作りなどを体験しました。
島民との交流を通して、自然とともに暮らす日本の文化、風習を学び、島民の皆さんのあたたかさに触れた学習旅行となりました。

「留学生と友達になろうキャンペーン」を行いました。（2019年４月24日）

2019年４月24日（水）毎年恒例の留学生の国紹介イベント「留学生と友達になろうキャンペーン」を開催しました！
心配していたお天気はどうにかイベント中持ちこたえ、曇り空の下となりましたが予定通りイベントを開催することができました。
今年は、韓国、フランス、中国、ルーマニア、コスタリカ、インドからの留学生が自国紹介のブースを出しました。

国の料理やゲームを披露したり、国の文化などに関する簡単なクイズを出すなどしました。

日本人学生にとって、普段馴染みのない国について、触れる貴重な機会になったと思います。

また、国際交流室や留学生サポーター、なっきょん's Caféなど、学生に広く知っていただけるようチラシを配布しました。

イベントの運営に尽力してくれた学生のみなさん、当日、イベントに参加してくださった本学学生、教職員のみなさん、附属幼稚園の園児のみなさん、ご協力ありがとうございました。

5月22日（水）13:00～『なっきょん's Café』を国際交流室にて行いました。（2019年5月22日）

今年度初のなっきょん's Caféを開催しました。今回は初参加の方も多かったので、自己紹介も兼ねて「自分について」というテーマで1人ずつ話をしてもらいました。
出身の地域について、今はまっているもの、楽しかった旅行について、なぜ今回参加してくれたか、など、様々な話題についてリラックスした雰囲気の中話しました。

本学協定校セントラルミシガン大学（CMU）のみなさんが奈良を来訪されました。

（2019年5月24日）

本学協定校セントラルミシガン大学（CMU）から、「Global citizenship」という科目の履修生13人とご担当の先生2人が来訪されました。

本学からはCMUに留学していた学生とこれから留学する学生の計4人、CMUからの留学生1人が参加してくれました。
CMUで交流をしていた元派遣留学生と現地の学生は、久々の再会で、話が弾んでいる様子でした！

学食で昼食をとった後、図書館、教育資料館、附属小学校の見学をしていただき、その後はみんなで東大寺へ行きました。
教育資料館ではCMUへ派遣留学した学生が本学の歴史について説明をしてくれました。
短い時間でしたが、両校の絆がますます深まる交流ができました。
CMUのみなさん、またぜひ奈良にお越し下さい！

［国際教育交換協議会 主催］海外ボランティア説明会を開催しました。（2019年６月11日）

６月11日（火）のお昼休みに、国際教育交換協議会（CIEE）が主催する短期海外ボランティアプログラムの説明会が国際交流室で開催されました。
当日は国際交流に興味がある方に多数ご参加いただきました。ありがとうございました。

2019年６月26日　なっきょん's Caféで色々な「ゲーム」を体験しました。（2019年６月26日）

今回のなっきょん's Caféのテーマは「ゲーム」です！まず、外に出て「だるまさんが転んだ」と「けんぱ」を行いました。「けんぱ」のルールを説明してくれたのはフランスからの留学生です。その他、韓国や中国、インド、コスタリカの学生もこの遊びを知っていました。それぞれルールは少し違うけれど、世界中に広がっている遊びだったことに皆びっくりしました。

さらに国際交流室に戻ってあとは、世界中で人気の想像系カードゲーム「Dixit」、韓国の伝統的なゲーム「ユンノリ」を行いました。「ユンノリ」は家族が集まるお正月に行う定番のゲームだそうです。さらに日本の「かるた」、「伝言ゲーム」でも盛り上がりました。

附属幼稚園で留学生と園児が交流を行いました（2019年７月１日）

大学院科目「日本語教育学特講」受講の留学生５名が、附属幼稚園で５歳児と交流を行いました。「日本語教育学特講」では今学期、外国語教育としての日本語教育の中で文化」をどのように扱うかをテーマに授業を進めています。その一環として、園児にとって「外国語」「外国文化」である留学生の母語・文化を紹介する活動を行うことにしました。
附属幼稚園の先生方に助言をいただきながら、各留学生がことばと文化を紹介する活動を計画しました。

交流会当日は、中国語のオノマトペを日本語と比較しながら紹介したり、「幸せなら手をたたこう」の歌を歌いながら中国語で体の部分を覚えるといった活動を通して、対象者にあわせて、「何を」教えるかだけでなく、「どのように」教えるかという点にも注意する必要があるということを体験的に学ぶことができました。

ご協力いただいた先生方、園児のみなさん、本当にありがとうございました。

【参加した留学生の感想】
修士課程　社会科教育専修　リン　ブンケンさん
今回の活動について、私は幼稚園の子供たちに色々な綾取りを作って見せて、簡単な4つの中国語を何度も繰り返して教えました。子供の記憶力が良いと感じましたが、途中で、子供たちは勉強になかなか集中できないので、幼稚園の先生たちはサポートに入ってもらいました。本当に感謝です。
それと、中国にいるまでは、幼稚園の子供たちと一緒に遊びながら勉強する経験がすくなかったですが、今回の活動で、「日本は遊びながら学ぶ、中国は学びながら遊ぶ」と感じました。色々な勉強になりました、ありがとうございました。

【参観した学生の感想】
教育発達専攻心理学専修3回生　松﨑　貴子さん
日本語にはない中国語の音の珍しさに触れて、留学生のみなさんに教えてもらったあいさつを子供達が楽しそうに何度も言っていたのが印象的でした。また機会があれば参加させて頂きたいです。

本学 公認サークル コールグレイスの演奏会へ行ってきました。（2019年７月２日）**【@大講義室】**

７月２日（火）本学 公認サークル 合唱団コールグレイスの演奏会へ行ってきました。映画にもなっている世界中で愛されるオペラ「The Phantom of the Opera」を演奏いただきました。映画を見たことのある留学生は、オペラの中のどの曲かな？と楽しみにしていました。
優しい歌声で、リラックスした時間を過ごさせていただきました。
森本先生、コールグレイス部員の皆さま、素敵な時間をありがとうございました。

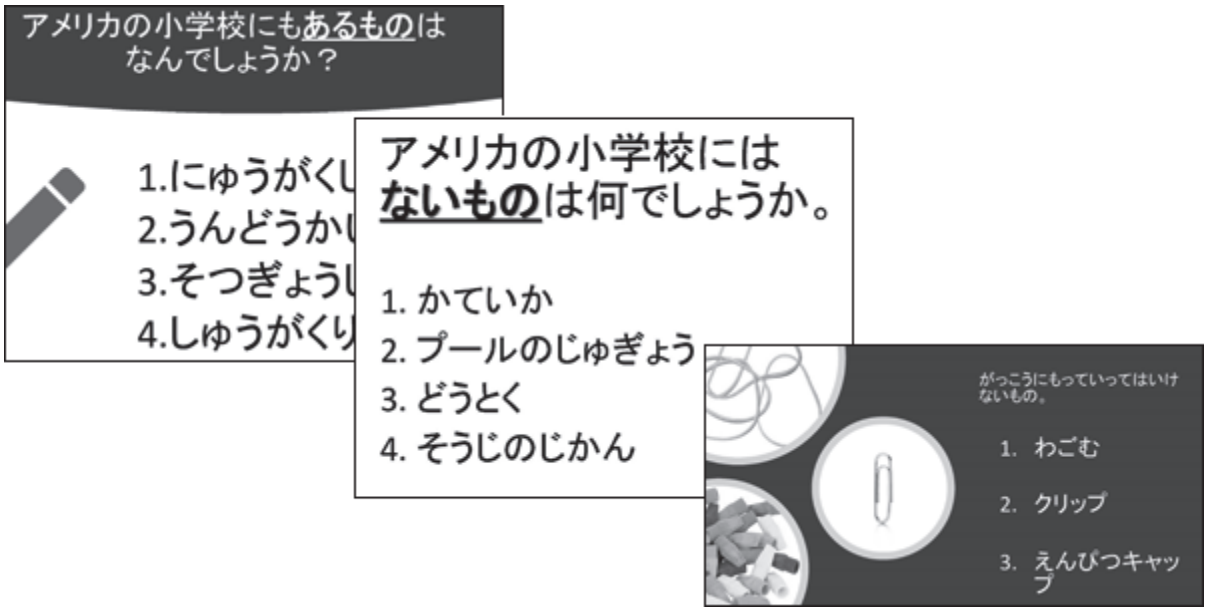
セントラル・ミシガン大学からの留学生が附属小学校「外国語」の授業に参加しました。

（2019年７月２日）

米国セントラル・ミシガン大学から本学に交換留学中のコナス・コナー・エドワードさんが附属小学校６年生の「外国語」の授業に参加しました。

最初にコナーさんがアメリカの小学校での生活についてクイズを交えながら紹介をしました。

＜アメリカの小学校紹介スライド（一部）＞



国紹介の後、コナーさん、参加者も加わって、みんなでアルファベットの成り立ちを考えるグループ活動を行いました。

元気な子どもたちの声に後押しされて、コナーさんもリラックスして楽しく参加をすることができました。附属小のみなさん、どうもありがとうございました。

【児童の感想】

・「日本とアメリカのちがいなど」

私はずるいと思った。なぜかというと、アメリカの小学校の校舎は超きれいで、なんかとてもうらやましかったからだ。しかも、自分の好きなお弁当も持って来て食べられるし、その時私は、絶対アメリカの学校うらやましいやん。なぜかというと、きらいな野菜などをお弁当に入れなければ、野菜を食べる必要がなくなるからだ。あと、アメリカの学校でやってはいけないことは、だいたい小学生がけがしそうなやつだったから、先生は心配性だなぁと思った。

今日、授業でアルファベットの最初を知りました。物を文字にあてたというのはわかるけど、あれほど変な形なのは意味がわからなかった。しかもものの顔だとか言われても、全然似てないし、Pのやつで形は口だったので、輪郭かいたほうがわかりやすいやろ！って思った。あと、ラクダのこぶとかあったけど、カクッとしていてわかりにくかった。これらから、アルファベットの最初の文字の特徴がわかりました。それは、あまり文字に丸みがないということです。

・今日はコナーさんの話を聞きました。外国の学校について話してくれた。

まず、学校がめっちゃきれいだった。で、思ったけど学校名ってローマ字で書いているのか、英語で書いているのか、どっちなのかなーと思った。

印象に残ったのは、学校に輪ゴムを持って行ってはいけない、理由はとばすからで、なんかそれで事故みたいなのがあったのかなーと思った。
その次にジュースを持ってきていいのがいいなと思った。外国にはお茶がないから？（日本の文化だから？）
そして、外国の勉強は日本の勉強みたいに、算数とか国語とかはちゃんとあるのかなーと思った。
そして、コナーさんは日本の学校をどう思っているのかなーを思った。
そして、アルファベットは変な形から作ったのがわかったけど、だれがつくったのか？それがいつできたのか？を知りたい。キリスト（アメリカ？）かもなーと思った。

・「この学校もいいよな～」
今日、アメリカの留学生のコナーさんが来て、小学校のことを教えてくれた。
９月～５月（もっと学校にいたいオレ）で、昼食持参又は購入、輪ゴム禁止、卒業式のみ、水泳・家庭科・道徳・そうじ×。なんとなくアメリカやな～ていう感じ。
でも、この学校は給食がおいしい、行事がいっぱい、プールがある、学校が長いのがよくて、やっぱりオレはオレの学校が一番好きかな～と思う。
アルファベットの学習もして、成り立ちがわかった。でも、漢字みたいに一字で意味がないから、成り立ちから音は適当に入れた？成り立ち、じゃあどうでもよくない？みたいな。

【参観した学生の感想】
教育発達専攻教育学専修3回生　石松　大雅さん
コナーさんの緊張している様子がヒシヒシと伝わってきましたが、子どもたちの食いつきも良くていい活動だと思いました。子どもたちがアメリカの学校との違いに対して、「羨ましい」とか「全然違う」とか、一つ一つに驚いたり日本と比較したりしている様子が印象的でした。子どもたちが今当たり前にすごしている学校生活を改めて捉え直すいい機会にもなったと思います。

【参観した学生の感想】
教育発達専攻教育学専修3回生　橋本　朋樹さん
今回、授業を見学させていただいて日本の小学校と外国の小学校の違いについて学ぶことができました。内容も子ども達が知りたくなるような、アメリカの小学校の施設や昼食を紹介していて、子ども達の周りにある環境と違うことを感じて、羨ましく思う子どもや自分たちの小学校にしかないものを感じたりと、新しく知ることだけでなく自分の環境について考え直すことができていたのでとても良かったと思いました。

留学生による絵本の読み聞かせの会「世界のこどもたちはどんな絵本読んでるの？」を開催しました。（2019年７月17日）

学部科目「日本語教授法特講」では、留学生が自国の絵本を日本語に翻訳する活動をし、その成果を絵本のひろばで披露しました。読み聞かせは日本語と母語で行われましたが、日本語版にも数箇所、オリジナルの母語がそのまま使われていて、意味を想像しながらお話を聞きました。また日本人受講生は出身地の方言で民話を紹介し、言語と文化の多様性を感じることのできる会となりました。
イベントには、たくさんの附属幼稚園児と保護者の方々、本学学生、教職員にご参加いただきました。みなさん、ご協力どうもありがとうございました。
（サオ・エステファニアさんの振り返り）

絵本の翻訳の際に注意した点について、三つの点を述べたいと思う。

一つ目は、４歳ぐらいの子供のことを考え、分かりやすい言葉を選ぶことは翻訳の際には非常に重要なことであったと思う。さらに、分かりやすいだけではなく、子供に馴染みがある言葉を選ぶことも大切であった。例えば、「化け物」の代わりに「お化け」と翻訳した。
また、二つ目の点は子供の注意を引くために、オノマトペなどを探して、それも加えることは大切な点だった。例えば、「おそるおそる」、「ドンドン」など、を通して、子供が話に集中して、話の感情をもっと感じられたと思う。オノマトペをくわえると、子供は話にひたることもできたと思う。
三つ目の点は、翻訳には丁寧語（「ます」「です」の形）を使って翻訳することだ。スペイン語には、敬語や普通形などないのでどちらを使うかを選ぶのは個人的に面白いと思った。

第４回　派遣留学プロモーションイベントを開催しました。（2019年７月17日）

本学国際交流留学センター･学生支援課では、海外留学･海外研修等の経験をお持ちの現職の先生に留学のご経験についてお話しいただく機会を設けています。
第４回目は、７月17日（水）14時30分～15時30分に次世代センター１号館　大会議室兼教室にて、奈良市教育センターの中口　岳先生に、本学在学中のセントラルミシガン大学（米国協定校）への留学経験、その後の教職経験をお話しいただきました。当日はご自身の複数回の留学のご経験から、留学してすぐに学べること（点の価値）と何年か後に活きてくること（線の価値）があることを、お話ししてくださいました。実際に中学校で実施されている授業も体験させていただきました。

当日参加した、これから協定校に派遣留学する学生や留学に興味のある学生、教職員は、留学について、また、自身の教員としての将来についても考えることができる大変貴重な機会となりました。

CIEEによるTOEFL説明会を開催しました。（2019年７月17日）

７月17日（水）の昼休みに、国際教育交換協議会（CIEE）による、TOEFLの受験の仕方などの説明会を開催しました。
当日は、留学を検討している学生等が参加しました。

７月16日、19日（昼休み）派遣留学生帰国報告会を開催しました。（2019年７月16日、19日）

平成30年度派遣留学生の帰国報告会を７月16日（火）、19日（金）の昼休みに国際交流室で開催しました。セントラルミシガン大学、ロックヘイブン大学での留学経験を、個性豊かに報告してくれました。帰国報告会当日の資料と報告書は、随時ホームページに掲載する予定ですので、ぜひご覧ください。

留学生が文楽を観劇しました。（2019年７月31日）

日本語・日本文化研修留学生、交換留学生、教員研修留学生のみなさんが国立文楽劇場（大阪日本橋）で文楽を観劇しました。演目は夏休み特別公演：第２部　仮名手本忠臣蔵（かなでほんちゅうしんぐら）です。公演後は、特別に人形遣いの方から人形の動かし方を教えていただき、実際に自分たちも人形に触れさせていただきました。また太夫の方に舞台裏を案内していただき、普段はできない貴重な体験をさせていただきました。

2019年度前期もいろいろな留学生科目で留学生と日本人学生がともに学びました。

（2019年８月）

2019年度前期もいろいろな留学生科目で留学生と日本人学生がともに学びました。

例）

◯「現代日本論」 水２コマ目

この科目では、留学生19名、日本人学生３名が参加して、日本社会や日本語の多様性について理解を深めつつ、文化とは何か？ 文化を理解するとはどういうことか？ ことばとアイデンティティにはどのようなかかわりがあるのか？など、異文化間能力を高めるための体験的な活動を通して考えました。

※日本人学生も単位履修が可能です。

◯「日本語文献講読（言語）」 金２コマ目

この科目の後半は、時事的な話題について効果的な話し合いの方法を実践的に学びました。留学生14名、日本人学生（聴講）２名が参加して、「美容整形の是非」や「中学校で不要な科目は何か」などをテーマとして話し合いをしました。

※日本人学生は単位履修できません。

参加した日本人学生の振り返り

様々なお国の人と一つのテーマについて話し合いをするにあたって、日本人同士の話し合いでは出てこないだろう視点からの意見も見られて興味深かったです。また、日本人相手だと伝わることが伝わらず、相手に話したい内容を理解してもらうにはどのようにかみ砕いて話せばよいのか考えるのが、とても大変でした。

初回の授業は日本人学生一人だったので凄く緊張しましたが、留学生さんはどなたも日本語がお上手で、フレンドリーな方ばかりだったので、すぐに打ち解けて楽しく話し合いに参加できました。

私自身、この授業で学べることが沢山ありました。ここで出来たご縁と学んだことを大切にしようと思います。

日本語・日本文化研修留学生／交換留学生　最終発表会が開かれました。（2019年８月２日）

2018年８月、９月に来日した日本語・日本文化研修留学生と交換留学生が約１年間のプログラムを終えるにあたって、2019年８月２日、本学図書館ラーニングコモンズにおいて最終発表会を行いました。この留学生プログラムでは、留学生が各自の専門分野や興味に応じてテーマを選び、修了レポートをまとめることが最終課題となっています。最終発表会では、修了レポートの内容についてポスター発表を行いました。発表内容は留学生ならではの視点でまとめられており、参加した方は「おもしろいね、そういう角度から考えるのか」「テーマが面白い」などの感想をいただきました。発表会後には、プログラム

の終了を記念して記念品授与式、懇談会が開かれ、奈良での留学生活を振り返りつつ、仲間たちとの別れを惜しみました。

2019年８月７日（水）13：00～『なっきょん's Café』を国際交流室にて行いました。

（2019年８月７日）

2018年８月、９月に入学した多くの短期留学生にとって、最後のなっきょん's Caféを開催しました。
今回のテーマは・・・「夏」。
スイカ割り、かき氷、ヨーヨー釣りを行いました。交流室はまさに縁日のような雰囲気となりました。

暑い夏を吹き飛ばすような、笑いの絶えない最終回にふさわしい会となりました。これから帰国する留学生や参加してくれた日本人学生の思い出に残ってくれると嬉しいです。

教員研修留学生が「サマースクール2019イン曽爾（理数教育研究センター・新理数プロジェクト）」で特別授業を行いました。（2019年８月31日－９月１日）

教員研修留学生が「サマースクール2019イン曽爾（理数教育研究センター・新理数プロジェクト）」で特別授業を行いました。

令和元年度　秋季留学生入学式＆懇談会が開催されました。（2019年10月２日）

10月２日（水）、令和元年度秋季留学生入学式が本学山田ホールにて開催されました。
大学間交流協定に基づく交換留学生、日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生25名への学長からの祝辞、在学生からの歓迎の言葉があり、新入留学生は気持ちを新たに日本での学生生活をスタートさせました。入学式の後は、新入留学生を歓迎すると同時に、在籍する留学生と日本人学生、教職員との交流を深めるよい機会にしてもらおうと留学生懇談会を開催しました。

夕刻から学生食堂で行われた懇談会には、在籍する留学生や日本人学生をはじめとする学内関係者や来賓の方々、約90名が参加しました。

懇談会では、本学ユネスコクラブによるアンクロン演奏のあと、留学生も実際に演奏を体験し、留学生や日本人学生が交流を深め、暖かい歓迎の雰囲気に包まれました。

2019年９月29日（日）国際交流イベント「なら町散策」を行いました。（2019年９月29日）

８月、９月に来日した留学生に奈良を紹介するため、留学生サポーターの皆さんが、「なら町散策」のイベントを企画してくれました。
近鉄奈良駅から、もちいどのセンター街を通り、なら町を散策します。
「奈良町資料館」では、奈良で親しまれている「庚申さん」について留学生サポーターさんが説明してくれました。その後、築100年を超えた町屋「奈良町にぎわいの家」を見学し、昼休憩後は東大寺へ向かいました。
イベントも終盤にさしかかり皆疲れが見えてきましたが、頑張って登った二月堂からの景色は素晴らしかったです。

国際交流イベント「奈良実習園において、留学生、日本人学生とで田植え体験しよう！」を開催しました。（2019年６月12日）

６月12日（水）、国際交流イベント「大学実習園において、留学生、日本人学生とで田植え体験しよう！」を開催しました。
これは在学する留学生と日本人学生に交流機会を提供しようという目的から、月に一度ユニークな国際交流イベントを提供しているもので、今回は大学附属の自然環境教育センター奈良実習園にて田植え体験を行いました。今年は梅雨の時期にイベント開催となりましたが、当日は暑すぎず、雨も降らず、まさに田植え日和！という天候でした。実習園に着くと、早速裸足になって田んぼに入ります。苗の持ち方、植える時の深さ、稲の間隔などをレクチャーしていただき、実際に各自田んぼの端から端まで一列田植えを行いました。

田んぼに足を入れた留学生に「土の感触はどう？」と尋ねると「う～～ん」となんとも言えない表情。それでも徐々に慣れていきました。途中で手持ちの苗が無くなると、田んぼの外にいる人から苗を投げて渡されます。それをキャッチするのが大変で、バランスを崩して「おっとっと！」と危うく全身泥だらけになりそうな場面も見られました。

今回参加した留学生は、昨年同じ実習園で「稲刈り」、「もちつき」を体験しました。そして今回最後の実習園イベントとして田植えが無事終了しました。
自然環境教育センター奈良実習園のみなさま、お世話になりました。とても楽しく新鮮な体験をありがとうございました。

国際交流イベント「奈良実習園で稲刈り＆さつまいも掘り体験」を開催しました。

（2019年10月16日）

10月16日（水）、恒例の国際交流イベントを本学附属の自然環境教育センター奈良実習園にて開催しました。

「稲刈り」に加えて今年は特別に「さつまいも掘り」も行い、盛りだくさんのイベントとなりました！

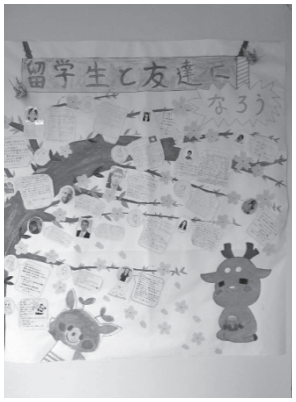
当日はこの秋に入学した留学生及び職員９名が集まり、まずは実習園で箕作准教授（栽培学、園芸学）から鎌の使い方についてレクチャーを受けました。いよいよ自分たちで稲刈りをスタートさせると、予想に反して皆が猛スピードで稲を刈ったため、途中でストップがかかりました。

続いて畑へ向かい、さつまいも掘りを体験しました。シャベルで周りから大きく掘り返すのですが、その当たりの付け方が難しく、多くのさつまいもが真二つになってしまいました。軍手をはめた手で、慎重に掘り返す留学生も見られました。

最後は大量に収穫されたさつまいもに、皆達成感を感じている様子でした。

【留学生と友達になろう♪】10月入学の留学生たちが自己紹介ポスターを作成しました。

（2019年10月29日）



留学生がそれぞれ自作した自己紹介カードを集めて大きなポスターを作ってくれました。

題して「留学生と友だちになろう」！似顔絵も個性的でとても面白いですよ！

掲示したので、ぜひ見に来て下さい。

場所は、国際交流オフィスの入り口です。

本学附属中学校１年生と２年生が「奈良めぐり」の活動で留学生と交流しました。

（2019年11月６日）

11月６日（水）午後、本学附属中学校１年生と２年生が特別活動「奈良めぐり」の一環として来学し、留学生と交流しました。中学生からは「観光とホスピタリティ」というテーマで、外国人として奈良に住む留学生の生活の様子などを質問しました。一方、留学生からは中学校の生活や学習内容、中学生の興味などについて質問しました。交流に参加した留学生は、来年１月に附属中１年生を対象とした特別活動に参加し、母語や文化についてのミニレッスンを行うことになっているため、今回の交流はよい準備の機会となりました。

留学生が本学附属小学校の「外国語」の授業に参加しました。（2019年11月６日）

11月６日（水）に留学生科目「日本語コミュニケーション」を受講する留学生が、附属小学校の「外国語」の授業に参加しました。附属小学校では、外国語の授業の一環として、母語と他言語、自文化と他文化について理解を深める「言語・文化」という独自の活動を取り入れています。2013年からは、文化の多様性に触れることを目的に、様々な国から来た本学の留学生が５年生の活動に参加しています。

授業では、まず留学生が中心となり自国の伝統行事などを紹介しました。その後、色の名前から文化の多様性を考える活動を行いました。この活動では先生が提示した色（日本語では「山吹色」と呼ばれるような色でした）に、留学生と児童混合の班で相談して名前をつけました。「ライオンの背中色」や「ピーナッツバター色」など、想像力豊かに名づけすることができました。また、授業後には給食を一緒に食べながらさらに交流を深めました。

＜児童の感想＞

・今日、言語･文化がありました。そして外国の人と話したりしました。フランスでは､2月2日にクレープの日があるとか、夜に光るパレードがあるとかいう話をしてくれました。その次に、日本では赤むらさきやあずき色と考えていたけど、ドイツではかたつむりの色で、フランスではワインの色などで、日本人が考えていることとだいぶ違ったからびっくりした。次に、留学生もいっしょに、山吹色みたいな色が何の色かを考えました。からしマスタード色という名前に決めました。外国人はマスタードと言ったけど、他のみんなはからしといって、（中略）考え方が同じになったとしても言葉が違うから、おもしろいなぁ～と思いました。（後略）

・ジョロさんに3月のおばあさんをおしえてもらいました。あかとしろのひもでみさんがみたいなのをつくりました。くねくねしてつくりました。かんたんに5分もかからずにできました。3月のおばあさんが晴れにして、おこらせると雨がつづく。てるてるぼうずににている！！

＜留学生の振り返り＞

・僕のグループに歴史が本当に詳しい子があって、そして僕にブルガリアの歴史について様々な質問を聞いていて、だが僕は歴史が苦手で、最近全く歴史を勉強していなくて、知らないことが多くて、大体の質問に答えられなかったです。それがもう二度と起こらないようにもう一度歴史を勉強しなければならないと思いました。

（日本語日本文化研修留学生・VASILEV Georgi Hristovさん）

・子供たちはすごく元気で、活発だと思う。最後の部分はみんなで、色の名前を付けた。私はその色の紙を見て、中国語の色の名前しか思い出せなかった。だから、「中国語でこの色の名前は生姜の黄色だ」とみんなに言った。子供たちはやはり想像力が豊かだから、それぞれ色の名前を思いついた。だから、多数決で名前を決めた。本当に面白いと思った。

（交換留学生・李　霞さん）

・日本の子供たちは独立心が強いと思う。昼ご飯のとき、子供たちが自分ですべてのことをやるということは、中国ではあまり見られない。私の記憶では、あんなに重い食べ物を教室に持っていくのは、ずっと先生だったように思う。しかし、日本の子供たちは自分でできるのに驚いた。
（交換留学生・黄　芮さん）

留学生が秋の近江八幡に学習旅行へ行ってきました。（2019年11月８日）

本学に留学中の日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生が秋の日帰り学習旅行で近江八幡に行ってきました。

水茎焼きの陶芸を体験し、手漕ぎの舟に乗って水郷めぐり、最後はボランティアガイドの方と一緒に八幡堀周辺を散策しました。秋晴れのすばらしいお天気の中、近江八幡の風情と歴史を満喫する旅行となりました。

学習旅行の課題として、みんなで俳句（川柳）を詠みました。

2019年11月13日（水）13：00～『なっきょん's Café』を国際交流室にて行いました。
（2019年11月13日）

今回は、10月に行った国際交流イベント「稲刈り＆さつまいも掘り体験」で収穫したさつまいもを使用し、大学芋作りと芋版作りを行いました。
大学芋は油で揚げた芋に砂糖（油と混ぜて熱で溶かしたもの）をからめるというシンプルな方法で作りました。
大学芋を初めて食べる学生も、おいしい！と言って気に入ったようです。芋版作りでは、慣れない彫刻刀に悪戦苦闘している様子でしたが、既製品とは一味違う、温かみのあるスタンプを作ることができました。

学長と帰国派遣留学生との懇談会を開催しました。（2019年12月13日）

令和元年12月13日（金）学長と帰国派遣留学生との懇談会を開催しました。
当日は、大学間交流協定に基づき、協定校に派遣留学した派遣留学生と学長、副学長、国際交流留学センター長との懇談を行いました。懇談会当日は欠席もありましたが､2018年度はセントラルミシガン大学（米国）へ２名、ロックヘイブン大学（米国）へ２名の学生が留学をしました。
懇談会では、初めに帰国派遣留学生から留学の体験報告があり、その後、留学当初の目的や将来のこと、留学中の体験についてなどの質問がされました。

また、アメリカと日本の大学生の違いは何か等のテーマについても意見が交わされました。
派遣留学の経験を活かし、ますます輝かれることを期待しています！

自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「もちつき大会」を開催しました。

（2019年12月11日）

これは、在学する留学生と日本人学生に交流機会を提供しようという目的から、月に一度程度ユニークな国際交流イベントを提供しています。
今回は10月の稲刈り＆さつまいも掘り体験に続いて、大学附属の自然環境教育センター奈良実習園にてもちつき大会を行いました。
留学生のほとんどは、もちつきを体験するのも杵を持つのも今回が初めてです。
辻野准教授（生態学、環境学）による日本の米作りの流れについて講義を受けたあと、実際にもちつきを体験しました。湯気がもくもくと立ち上る熱々のもち米を、米の粒が飛び散るのを防ぐため、まずは杵でつぶします（こずき）。
このこずきがもちのおいしさを決めるそうで、手早くやるのがポイントです。
留学生の力持ち２名が、実習園の職員の方と一緒に、３人で臼の周りをぐるぐる周りながら、もち米を杵で練るように潰してくれました。その後は、順番にいよいよもちつき開始です！
センターの教職員の方々に指導いただきながら、すばやく、力強く、楽しくもちをつきました。
もちつきがとても上手な留学生もいて、参加者一同、感嘆の声をあげました。
最後は、ついたおもちを皆で丸めて、醤油ときな粉等で美味しくいただきました。

米国交換留学生による期末発表会＆今年最後のなっきょん's Caféを開催しました。

（2019年12月23日）

12月23日にセントラルミシガン大学からの交換留学生４名による学期末発表会を行いました。
発表では、日本語と英語を使って、日ごろ興味をもった話題について日本とアメリカを比べて紹介しました。
発表会後には参加者と一緒に発表者の健闘をたたえて、年忘れの「なっきょん's Café」を行いました。

＜発表＞
「日本の山を登る経験」HELLA Hunter David
「アメリカの高校と日本の高校」LARSON Jacob Alexander
「日本人がのむお茶」WEBER Mackenzie Sue
「日本とアメリカの方言」WOODMAN Katarina Lynn Irene

本学 公認サークル 合唱団コールグレイスの演奏会へ行ってきました。

（2020年１月14日）【@大講義室】

１月14日（火）本学 公認サークル 合唱団コールグレイスの演奏会へ行ってきました。
Ave Verum Corpus（アヴェ ヴェルム コルプス）－ モーツァルト
Cantique de Jean Racine（ラシーヌ讃歌）－フォーレ
の2曲を合唱していただき、新年らしい華やかな曲に、すっかり聴き入ってしまいました。
森本先生、コールグレイス部員の皆さま、素敵な時間をありがとうございました。

第29回奈良県留学生・研修生の日本語による体験発表会に日本語・日本文化研修留学生ユウ イクセンさんが出場されました。（2019年12月14日）

12月14日（土）に開催された第29回奈良県留学生・研修生の日本語による体験発表会に本学の日本語・日本文化研修留学生ユウ イクセンさんが出場されました。

ユウ イクセンさんは、日本の風呂文化が中国のものと違うことに注目し、その歴史や文化について紹介した後、実際に自分が体験してどのように感じたかをスピーチされ、審査員特別賞を受賞しました。
おめでとうございます！

奈良地域留学生交流推進会議主催による「第20回外国人留学生スピーチ大会」で本学の日本語・日本文化研修留学生チャン ティ ヒエンさんが優秀賞を受賞しました。（2019年12月10日）

12月10日（火）に、奈良地域の大学が集い、留学生の交流会が奈良女子大学で開催されました。当日は留学生によるスピーチ大会も開催され、本学からは日本語・日本文化研修留学生チャン ティ ヒエンさんが出場しました。
「謝ることから見る日本人の心」を題に、日本人が無意識に行っている「謝る」という行為が彼女の目にどのように映り、またそこから何を学んだのかをスピーチし、優秀賞を受賞しました。
おめでとうございます！

歌舞伎を観劇しました。（2020年１月16日）

日本語・日本文化研修留学生、交換留学生のみなさんが大阪松竹座で「壽初春大歌舞伎」を観劇しました。
演目は「お秀清七　九十九折」「大津絵道成寺」「艶容女舞衣酒屋」。
情緒あふれる物語と一人の役者が５役を踊り分ける賑やかな舞踊を楽しみました。

「教職へのキャリアデザイン」の授業で、派遣留学を交えたお話をしていただきました。
（2020年１月６日）

１月６日「教職へのキャリアデザイン」の授業において、奈良市教育委員会事務局の坂本友香先生に、本学在学中のロックヘイブン大学（米国協定校）への留学経験を交え、学校のグローバル化に対応する教員の資質能力についてお話いただきました。本学の国際交流についてのチラシも配布しました。

留学生科目「日本語コミュニケーション」で「奈良の伝統と現代の人々」についてのプロジェクトワークを行いました。（2020年１月31日）

留学生向け科目「日本語コミュニケーション」では、「奈良の伝統と現代の人々」というテーマで、地域住民等へのインタビューを通して伝統と現代に生きる人々との関わりをグループで調査し、その成果を発表しました。それぞれのユニークな視点で選ばれたテーマについて、調査した留学生だけでなく、発表を聞いた参加者も理解を深めることができました。

発表題目は以下の通りです。

１．柿の葉寿司　　食べ物グループ（エリザ、ジョロ、バーバラ、リカ）
２．平城京の魅力　平城京（レミ、パトリック、ゴキンビン、コウセイセイ）
３．奈良公園　　じゃん拳チーム（ユウイクセン、コウゼー）
４．奈良の木　　福禄樹（ヨウコウ、シャロン、チンリツ）
５．若草山　　若草山（アーサー、カタリナ、ヒエン）

R1年度教員研修留学生プログラムの修了式が行われました。（2020年３月18日）

2020年３月18日（水）、教員研修留学生のCHA Seung-hunさん（韓国）が2018年10月からの１年半の本学での研修を修了しました。

修了式の最後には、日本での経験や研究内容についての発表会が行われました。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学内者のみの参列とし、修了式後に予定していた懇親会は中止となりましたが、参加した教職員や本学学生は思い出を語りながら、奈良で生まれた絆がこれからも続くことを祈り、別れを惜しみました。

1.3 日本語・日本文化研修留学生/協定校交換留学生/教員研修留学生プログラム

●2018年度受入　日本語・日本文化研修留学生･交換留学生

大使館推薦 日本語・日本文化研修留学生	２名	インド共和国、コスタリカ共和国
大学推薦 日本語・日本文化研修留学生	５名	Ⅱ－４ 協定大学からの受入留学生数参照
国際交流協定に基づく特別聴講学生	12名	

修了レポートタイトル一覧

「妖怪の進化－国外の影響と国内の影響－」
「就職活動について考え方」
「シネマと日本のフェミニズム」
「中国語の二人称代名詞の日本語訳－中国映画「サンザシの樹の下で」を資料として－」
「「しゃべくり漫才」から見る日本語のユーモア」
「占いと人間の心理」
「『吾輩は猫である』の擬音語と擬態語の日西の翻訳について」
「日本の小学校見学での経験－日本とアメリカの小学校の比較－」
「東京オリンピックと入管法」
「現代のバーチャルキャラクターの偶像化」
「ガチャゲーム－特徴と危険性－」
「日本のマンガにおける終助詞」
「日本に限定商品が多い理由」
「中国古代官職の翻訳ストラテジー－『水滸伝』を例に－」
「井上毅の教育思想に関する研究－国語国文教育観を中心に－」
「志賀直哉の戦争観」
「中国における日本のテレビドラマの受容状況への考察」
「依頼行動における中国人日本語学習者の母語干渉上の問題点について」
「『今昔物語集』における中国古典文学の受容について－鬼を中心として－」

●2018.10-2020.3　教員研修留学生

１名	大韓民国

研究報告書

「高校生の情意的側面に焦点を当てたモル学習指導法の検討～モルの有用性を実感させる取組を通して～」

2020年度

1.1 教育研究支援機構発行ニューズレターより抜粋

本センターでは、受け入れ留学生への日本語日本文化教育とともに、国際的視野を持った教員の養成に資することを目的とした教員養成大学ならではの国際交流事業を展開しています。設立７年目となる2020年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、例年よりも規模を縮小し、また内容も変更して、(1) 受け入れ留学生教育の運営、(2) 学内における異文化交流の活性化、(3) 派遣留学生の奨励と支援、(4) 附属学校園や地域と連携した国際交流の推進、の活動を行いました。活動成果の詳細は、以下の通りです。

(1) 受け入れ留学生教育の運営

2020年度、本学では、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカなど、さまざまな国から前期は44名、後期は37名の留学生を受け入れました。その中には、文部科学省の奨学金を得て、日本の教育事情を研修するために留学している海外の現職教員（教員研修留学生）がおり、2019年10月からの半年間の日本語集中研修を経て、今年度４月から本学での専門教育研修に参加しました。それぞれの研修課題について指導教員の下で調査研究を行ったり、関西圏の学校現場で児童生徒や教員と交流を行ったりしました。また当センターが提供する日本語・日本文化プログラムにも参加し、その成果として、３月には日本での研修生活について日本語で発表を行いました。

また本年度前期には本学が協定を結んでいる４ヶ国４校の交換留学生８名、文部科学省奨学金プログラム日本語日本文化研修留学生は７か国から７名が本学に在籍しました。交換留学生・日本語日本文化研修留学生は2019年10月に来日し、奈良で留学生活を送っていましたが、留学途中で本学での教育プログラムはオンライン実施、または中止となってしまいました。母国から遠く離れた日本での非常事態下での留学は思い描いたものと大きく異なり、不安も大きかったと思いますが、前向きに、そして協力的に研修に取り組み、８月にはオンライン修了発表会で留学中の研究成果を披露しました。

後期からは本学協定校の西安外国語大学からの交換留学生２名、日本語日本文化研修留学生４名を受け入れています。またその他にも、私費での学部生、大学院生、学部研究生が本学で学んでいます。これらの留学生の中には渡日後２週間の隔離生活を経て奈良での生活を始めた者、2021年３月現在、渡日の目途が立っておらず、自国から授業等に参加している者もいます。

このように対面での活動が制限される中、授業以外でもオンラインを活用した教育プログラムの提供にも挑戦しました。例えば、２月には本学技術教育専修（担当:世良啓太先生）の協力のもと、大学、本学国際学生宿舎、中国をつないで、３Ｄプリンターを使った「灯ろうづくりワークショップ」を開催しました。また３月にはオンラインで「和菓子作り」の文化体験を行いました。

なお、留学生が少しでも安心して留学生活を送れるように、本学では新型コロナウイルス感染拡大に伴う政府や大学の対応、生活支援のための情報を英語で提供する「留学生支援サイト」を開設し、留学生への支援の充実に努めています。

今年度本学への留学を希望していた留学生の中にはやむを得ず留学を辞退した者もいましたが、来年度は例年のようにより多くの留学生を受け入れられるようになることを願っています。

(2) 学内における異文化交流の活性化

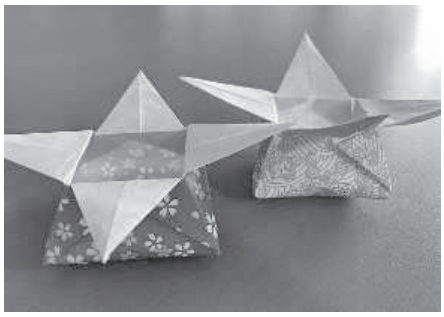
①留学生・日本人学生の共修機会の提供

本学では、留学生と日本の学生とが共に学び合える機会を多く提供しています。今年度前期は、留学生科目「日本語文献講読（言語)」の授業で、「教育課程演習（担当：橋崎頼子先生)」を受講する日本人学生有志とのオンライン合同授業を行い、日本国内外の教育制度や問題について意見交換を行いました。また後期には、留学生科目「日本語コミュニケーション」と「教育課程特講」(担当：橋崎頼子先生）で、10月から本学に留学している留学生と「教育学特講」受講生とのオンライン特別授業を行いました。キャンパスへの入構が制限された状況下にあって、貴重な学び合いの機会となりました。

②学内における国際交流活発化のための取り組み

授業以外でも、国際交流の場を用意し、留学生と日本の学生とが出会える機会を多く提供しています。例えば、現在、約35名の学生が留学生サポーターとして活動しています。１月22日には留学生とサポーターとの顔合わせ会をオンラインで開催し、サポーターが「節分」について紹介したり、一緒に折り紙を折ったりしました。その後も留学期間を通して親交を深めています。

また10月５日～10月16日には本学図書館にて



「世界の絵本をのぞいてみよう」を開催し、本学留学生寄贈の絵本約80冊を本学図書館で展示しました。

さらに、コロナ禍で自由な交流が制限される中で、学生たちの国際交流を後退させないように、本センターでは、海外の協定校とオンラインでつながるプログラムも試行しました。セントラルミシガン大学で日本語を学ぶ留学生有志と本学学生をマッチングし、日本語・英語の交換レッスンをする「言語交換プログラム」もその一つです。また同大学で第２言語としての英語教育法を学ぶ学生と本学の学生をマッチングし、英語で交流を行う「カンバセーション・パートナープログラム」も初めて行いました。コロナ禍は私たちに多くの犠牲や我慢を強いていますが、これらオンラインでつながる試みは、この未曽有の非常時に生まれた、国際交流の新しい可能性と言えるでしょう。

また、１月25日には、本センター主催で、「文化的言語的に多様な子どもたちの支援を考える」と題したシンポジウムを開催し、奈良市教育委員会学校教育課から指導主事の中西利彦氏、日本語指導コーディネーターの植田央子氏を迎え、外国人児童生徒等の教育に関わったご自身の経験について語っていただきました。本学の学生にとって、学校現場の多文化化に伴う課題からグローバル化がすすむ社会で必要とされる教員の資質や能力とは何かを考える機会になりました。

(3) 派遣留学の奨励と支援

日本の学生の海外留学が促進される中、新型コロナウイルス感染拡大のために留学の中断を余儀なくされた３名の学生のオンライン帰国報告会を開催しました。留学期間を全うすることは叶いませんでしたが、多くの学びを得、大きく成長していることがわかる発表内容に、報告会参加学生は大いに刺激を受けていました。また2020年８月より、国際交流協定校のアメリカ・ロックヘイブン大学へ２名、セントラルミシガン大学へ２名、そして華東師範大学へ１名を派遣予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、すべての派遣が中止となってしまいました。渡航を伴う留学が困難な状況の中で、新たな留学の形態も模索されています。華東師範大学派遣予定だった学生は、同大学等のオンライン中国語講座を受講し、来年度の派遣の機会に備えています。

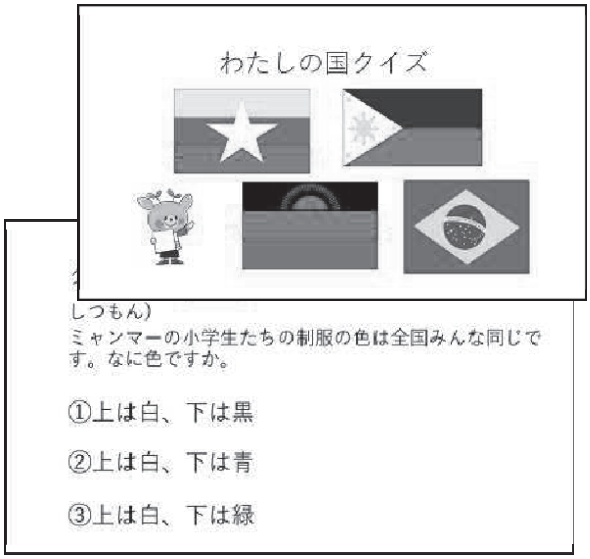
派遣留学生に対しては、本学の支援奨学金制度に加えて、2021年度は「海外留学支援制度短期研修・研究型（協定派遣）」が採択され、派遣留学支援の後押しになることが期待されています。
本センターでは、今後も学生支援課と連携して、派遣留学の推進に努めるとともに、協定校が提供するオンラインプログラムに関する情報収集や新たな派遣留学の可能性の模索と促進に取り組んでいきたいと思います。

(4) 附属学校園や地域と連携した国際交流の推進

①附属学校園との連携

本学では、留学生と日本の学生とが共に、附属校園でさまざまな実践を行っています。例年は、交換留学生、大学院留学生が本学の附属幼稚園、小学校、中学校での交流を通して多くの学びを得ていますが、今年度はそれらのほとんどが中止となりました。そのような中で、11月には、教員研修留学生が附属小学校５年生の「外国語」の授業に参加し、児童に対して自国の文化、言語を紹介しました。

以上のように、本センターでは、留学生に対して日本語日本文化教育を提供するだけでなく、留学生プログラムを核にして、学内における国際交流の環境を醸成すると共に、その活動内容や成果を必要に応じて学内外へ発信しています。また、海外協定校派遣留学生が得た成果を、帰国後に学内に効果的に還元させることにも取り組んでいます。その他の活動の詳細は、国際交流留学センターのホームページ（http://cies.nara-edu.ac.jp/）で紹介しています。



本センターは、本学の国際交流の基本方針の一端を担っています。次年度も引き続き、留学生プログラムの充実に努めるとともに、日本の学生と留学生との共修や、附属学校園等との連携につとめていきます。そして、留学生教育と連動させながら、グローバルな視点に立った教員養成に資する活動を行っていく所存です。

1.2 国際交流留学生センターホームページ記事より抜粋

留学生科目「日本語文献講読（言語）」で教育学専修の学生有志との合同授業を行いました。

（2020年７月13日）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学キャンパスへの入構は原則禁止、留学生科目はすべてオンライン開講となりました。

そんな中でも多様な学生同士がともに学ぶ機会を作ろうと、留学生科目「日本語文献講読（言語）」の授業では、「教育課程演習（担当：橋崎頼子先生）」を受講する日本人学生有志とのオンライン合同授業を行いました。

ウェブ会議システム上でのグループワークでは、「留学生が日本に来て感じる違和感」について意見交換を行いました。

不安な毎日を過ごす中で新しい仲間とともに学ぶ時間は、参加者にとって貴重な経験となりました。

～参加者の声～

八木菜月（教育学専修３回生）

留学生さんとの交流会はとても有意義なものでした。自分では日頃暮らしていて気づかなかったことについても知ることができ、視野が少し広くなった気がしました。また、同じ大学に通っているのに全然知らない人が多く、関わりが少ないことも実感しました。せっかく同じ大学にいるのでもっといっぱい関わりたいです。

またこのような機会があればいいなと思います。

黄芮（西安外国語大学・本学交換留学生）

日本人学生と一緒に授業を受けて、グループに分かれて話したことはとても面白かった。私のグループもいろいろな話をしたが、一番印象に残ったのは以下の二つだ。

一つ目は、日本の上下関係だ。日本の上下関係が厳しいのが昔からだと知っていたが、それに対する日本人の本当の態度はあまりわからなかった。私は「日本人にとって、厳しい上下関係は当たり前の社会常識だ」という先入観があったが、日本人学生と話し合って、日本人もその上下関係は厳しすぎると思っているということが分かった。それは私の先入観と違っていたから、印象が深く残った。

もう一つは、日本人が一年中に冷たい水を飲むことだ。これは日本で普通なことだが、中国人の私とマレーシアのシャロンさんにとって、不思議だった。私たちの国では、一年中温かい水を飲むから、日本に来たばかりのときは慣れていなかった。その時、「みんなは同じ人間だけど、違う環境、また国で成長しているから、考え方や行動の仕方も違っている」という感想を持った。しかし、我々は考え方と行動の仕方は違っているが、コミュニケーションによってお互いに理解できる。あの日の授業では、外国人としての私たちと日本人学生とのコミュニケーションによって、相互理解が深まって、本当嬉しかったと思っている。

派遣留学生帰国報告会を開催しました。（2020年７月15日）

令和元年度派遣留学生の帰国報告会を７月15日（水）14時00分～ 15時00分に、新型コロナウイルス感染リスク軽減のため、オンラインで開催しました。当日は、学生と教職員32名が参加し、セントラルミシガン大学、ロックヘイブン大学、ハイデルベルク大学から帰国した３名が留学経験を報告してくれました。帰国報告会の資料は随時掲載予定ですので、ぜひご覧ください。

日本語・日本文化研修留学生／交換留学生　最終発表会が開かれました。（2020年８月４日）

2019年８月、９月に来日した日本語・日本文化研修留学生と交換留学生が約１年間のプログラムを終えるにあたって、最終発表会と記念品授与式が開かれました。この留学生プログラムでは、留学生が各自の専門分野や興味に応じてテーマを選び、修了レポートをまとめることが最終課題となっています。今年度は、新型コロナウイルス感染リスク軽減のため、最終発表会は7月30日～ ８月３日までの期間にオンラインで実施し、記念品授与式は参列人数を制限して開催しました。奈良での留学生活を振り返りつつ、仲間たちとの別れを惜しみました。

「言語交換レッスン」の体験報告（2020年６月）

2020年６月、当センターにて「言語交換レッスン」を希望する留学生のため、レッスンパートナーとなる日本人学生の募集を行いました。
その結果、多数の応募をいただきました。応募くださった皆様ありがとうございます。
実際に言語交換レッスンを行った学生さんから感想を寄せていただきましたので、ご紹介させていただきます。

【参加者の声】
匿名（社会科教育専修　１回生）
週に一度zoomで２時間弱話しました。そしてLINEとWeChat（中国に帰国後LINEが使えなくなるので…。） の両方を交換しました。こちらでは、zoomでできなかった画像の交換や、中国語を教えて頂きました。
内容としては、中国の制度と日本の制度の違い、受験様式、趣味の話などお互いに主に日本語で話しました。私は、実は、留学生の方が、日本語がとても上手だと存じ上げていなく、英語で話した方が良いのかなと思い、英語の質問を準備したりや単語帳などを近くに置いていたのですが、全然必要ではありませんでした。特に話していて面白かったのは、中国のものの考え方と日本の考え方の違いです。例えば、日本は親しき中にも礼儀ありに代表されるようになるべく迷惑をかけないように振る舞いますが、中国では、気軽に手伝いを頼めることが仲良しの証だそうです。これに私は驚きました。文化でこうも違ってくるのだなと思いました。哲学の話もしたのですが、中国では義務教育の段階においてマルクス哲学を中心に教えている（大学などの機関では他の哲学を対象にする研究も盛んに行われている）そうです。これは中国ならではだなと思いました。言語は、漢字という所では共通なので、発音ではわかりませんが、文字でお

互いなんとなく伝わるというものがありました。この言語レッスンで中国と日本のつながり、違いをより一層理解することができました。また、これからも勉強していきたいと思います。

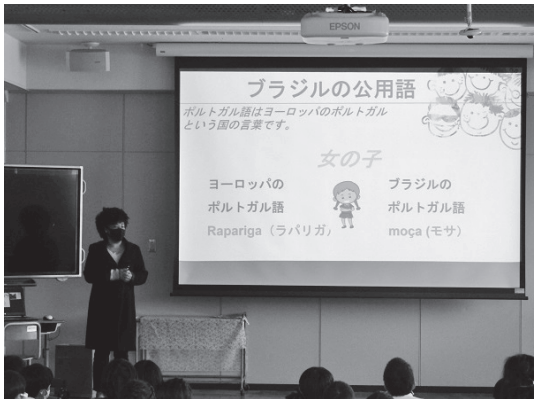
匿名（留学生）
六月から週に一度zoomで話しました。私のパートナーといろいろなことを話し合って本当の勉強になりました。特に、もっと真の日本の姿、日本人の方々の考え方を深く理解できました。
言語交換を通じて、今まで日本に関する知らないことを知っています。例えば、日本の私立の学校や塾では、授業中のとき、成績がいい学生は逆に後ろに座っているということがあるそうです。それは成績がいい生徒が前に座っている中国と全然違って、驚きました。そのことによって、中日両国の方々は考え方が違っていることを深く感じました。しかし、中日両国の方々が同じところもあると思います。例えば、今、中国と日本では、人気がある日本漫画、日本ドラマなどがほぼ同じです。私なりの考えでは、それらの作品は人々の精神的な追求が反映できるでしょうか。みんなは違う考え方、文化などを持っていますが、心から追求する夢とか、理想とかは同じところがあるかもしれません。それはなぜみんなが同じ作品が好きなのかということの理由だと思います。
留学生として、言語交換のチャンスをもらって、日本人の学生と一緒に話し合って、特に、お互いに理解を深めるようになったことが本当に嬉しかったです。これからも勉強していきたいと思います。

絵本の展示「世界の絵本をのぞいてみよう」（2020年10月）

奈良教育大学で学んだ歴代留学生が寄贈してくれた絵本約80冊を本学図書館で展示しました。
絵本の種類は中国、韓国、ドイツ、フランス、ルーマニア、インド、マレーシアetc.と多岐に渡っています。また世界中で知られるお話から、その国の民話まで幅広い内容が揃っています。
見逃してしまった方、再度ご覧になりたい方は、ぜひ国際交流留学センターにお越しください。

教員研修留学生が本学附属小学校で母国の紹介をしました。（2020年11月27日）

今年４月から本学で研修を行っている教員研修留学生４名が、附属小学校の５年生の「外国語」の授業に参加し、母国の紹介をしました。母国の一般情報を紹介するとともに、母語での簡単な挨拶についてもレクチャーしました。その際、教研生の合図に合わせて元気よく発声する児童たちの姿がとても印象的でした。



また各国での学校生活に関するクイズを出題した際には、日本との違いや共通点に驚いていました。
特に、週末は宿題を出してはいけない国があることを知った際には、「移住したい！」など、羨ましがる声があがっていました。

教研生は児童たちとのやり取りを通して母国の生徒たちを思い出して懐かしんでいました。
研修期間も残り僅かとなり、これからは修了レポート作成に取り組んでいきます。

留学生科目「日本語コミュニケーション」と「教育課程特講」が合同で特別授業を行いました。

（2021年１月20日）

コロナ禍で行動制限が余儀なくされている中、同じ大学で学んでいる学生同士の対話の機会も少なくなっています。留学生の中にはいまだ日本に入国できず、国からオンラインで留学プログラムに参加している人もいます。
そこで留学生科目「日本語コミュニケーション」と「教育課程特講」（担当：橋崎頼子先生）では、10月から本学に留学している留学生と「教育学特講」受講生とのオンライン特別授業を行いました。
まず、自己紹介を兼ねて、コロナ禍での変化や新しい発見について紹介した後、留学生が日本に対して持っているイメージや疑問について話し合いを行いました。漫画で見た日本の学園生活、異性との友情関係、日本の先祖崇拝の習慣など、日本語日本文化を専門に学んでいる留学生ならではのテーマで有意義な対話ができました。

前山結香さん（教育学専修２回生）
先日、留学生との交流会に参加しました。皆さんとてもフレンドリーで、初めての話し合いも非常に盛り上がり、充実した交流会でした。コロナ禍での生活の変化について話し合った際には、国や地域間で異なるなと感じました。留学生の皆さんは、入国期間が短くなったため残念そうにしていました。このように不都合もある中で、ネットを通して距離に関係なく交流ができるようになったことは、大きな進展でもあると思いました。次に、留学生が日本に関して疑問に思ってることを話し合いました。文化や価値観の違いから全く異なった考え方や行事もあれば、共通した考え方もあるのだと分かりました。初めてのオンライン交流でしたが、参加出来て良かったです。

PAWAR Deepali Omprakash（日本語日本文化研修留学生）
日本人の学生に会うのははじめてだったので、私と留学生の友だちは「どうやって会話を始めようか」とか「何を話したらいいか」とかわからなった。でも日本人の学生たちは私たちに本当に優しくいろいろと聞いてくれて、“アイスブレイク”してくれたから、すぐに話しやすくなった。そのあと私たちの質問にも真剣に答えてくれた。わたしは国の友だちに聞いた男女間の友情についてのエピソードについて話した。日本人の学生はどうしてそのようなことをするのか理由も深く考えて、私たちに正直に答えてくれた。例えば、留学生の友だちが「日本人と友達になるのが難しい、距離を感じてしまう」と話したとき、「人見知り」という新しい表現を教えてくれた。そして「日本人は多分子供の時から教え込まれてきた考えがあるから、そういうことをしてしまう。それは相手が外国人だからわざとしていることじゃない、意識せずにしてしまうことだと思う」と答えてくれた。みなさんが私たちの視点から考えてくれたから本当にうれしかった。

留学生とサポーターの顔合わせ会をオンラインで開催しました。（2021年１月22日）

例年は渡日した留学生のサポート（買い物への同行やキャンパス紹介など）や交流イベントの企画をサポーターにお願いしていますが、今年度はコロナ禍ということもあり中止しています。そんな中でも学生間交流をしてもらうため、留学生とサポーターの顔合わせ会を企画したところ留学生６名とサポーター ７名が参加してくれました。

今回は来る“節分”に向けて日本の文化を理解してもらおうと、サポーターの１名が節分の由来や節分時に日本でよく行われる豆まきや恵方巻きなどの習慣について説明をしてくれました。それを踏まえ、留学生には“節分”と同じような慣習が母国にもあるかを教えてもらったり、サポーターは節分での思い出を話したりして、お互いの文化を知る良い機会になりました。最後は折り紙で豆を入れる箱を折ってみよう！ということで、折り紙体験をして締めくくりました。

国際交流留学センター主催シンポジウムを開催しました。（2021年１月25日）

国際交流留学センターは、本学の国際交流戦略「グローバルな視野を備えた教員の養成」に寄与するため「文化多様性教育の実践的、理論的研究」を行うことを役割の一つとしており、年に１度シンポジウムを開催しています。今年度は「文化的言語的に多様な子どもたちの支援を考える」と題し、文化的言語的に多様な子どもたちの教育に直接携わっていらっしゃる先生方のお話を伺いました。現場の先生方の経験を通して多文化化する学校のリアルな姿を知ることができ、「グローバルな視野を備えた教員」になるための示唆を得る機会となりました。オンライン開催ではありましたが、ご参加くださった本学学生、教職員、奈良女子大学学生のみなさま、ありがとうございました。

内容：
話題提供①「日本語指導が必要な子どもたちとは？～奈良市における現状と取り組み～」
　　植田央子氏（奈良市教育委員会日本語指導コーディネーター）
話題提供②「どうする⁉外国ルーツの生徒への学校での支援」
　　中西利彦氏（奈良市教育委員会学校教育課指導主事）
ディスカッション＆質疑応答
参加者：本学学生、教職員、奈良女子大学学生　計39名

参加者のコメント
・ざっくばらんに日本語指導が必要な子どもたちの現状について大学での講義ではあまり聞く機会がなかったのでとても勉強になりました。グローバル社会と言われる中、そしてコロナ渦の中そういった生徒一人ひとりにどのようにアプローチしていくか考えるきっかけになりました。
・実際の経験をもとに話していただいて分かりやすかったです。授業だけでなく興味のあるものを日本語指導に取り入れていくことが重要なのだと学びました。今年からの教員生活にも活かしていきたいです。
・日本国籍であっても、日本語指導を求める子どもたちが多数いる現状をお聞きし、国籍や見た目などで決めつけず、きめ細やかな指導をする必要があると感じました。

・言語文化の違いの配慮ということは、単純に言葉が通じないということへの配慮が必要だと思っていたが、それだけではなく、そもそもの母国と日本の風土や文化、宗教などの違いについて十分に配慮しなければいけないということを知れました。
・国際化が進む現代社会の中で教師としてどのような対応を行なっていくかを考えることが必要であり、いろんな人たちとの協力が必要不可欠であると実感いたしました。

灯籠づくりワークショップを開催しました。（2021年２月26日）

本学技術教育専修の世良啓太先生ならびに学生のみなさんの協力のもと、ハイブリッドで大学、本学国際学生宿舎、中国をつないで、3Dプリンターを使った灯籠づくりワークショップを開催しました。
製作した灯籠は、春日大社に奉納されている釣灯籠を模したものです。まずは春日大社に奉納されている灯籠の数やなぜ灯籠が奉納されるようになったか等の歴史を学んだ後、実際に3Dプリンターで作成したパーツと型紙を使って組み立てていきました。
ワークショップの最後に製作した灯籠に灯りを点して並べてみると、想像以上に幻想的な世界となり、製作の疲れが一気に吹き飛びました。

～学生の感想～
テイエソウさん（交換留学生・西安外国語大学）＜中国からオンラインで参加＞
２月26日にオンラインで皆さんと一緒に灯篭づくりを勉強しました。まず、奈良における春日大社の灯篭の数にはびっくりさせられました。春日大社に千個の灯篭があるのは思ってもみなかった。中国ではお寺の正門に二つだけ灯篭が飾られます。
パソコン越しに灯篭づくりの説明動画を見ながら、ひとりで灯篭を作るのは本当に寂しかった。でも、最後に皆さんが作った灯篭が一緒に並んでいるとき、本当に感動でした。皆さんと一緒にオンラインでいい思い出を作りました。

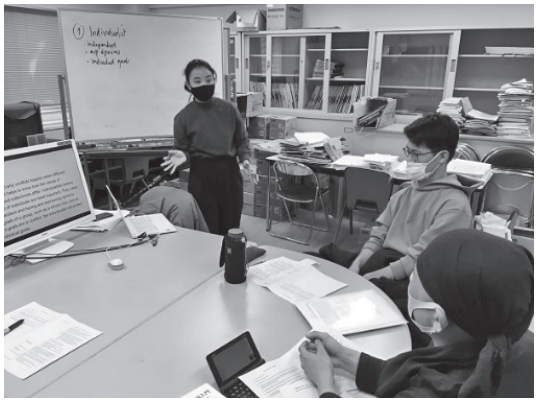
クリステユスティナさん（日本語日本文化研修留学生）＜大学にて対面で参加＞
まず、先生の説明を聞き、歴史的な価値が分かりました。ルーマニアでは灯籠ではなく、普通のろうそくに火をともし、生きている人と亡くなった人の魂のために祈るという習慣があります。春日大社では点された千灯籠のきれいな風景は一年に二回しか見られないため、今回作った灯籠が特別なイベントに限り使われるということを意識しながら作りました。
体験がとても楽しく、小学生時代の懐かしい思い出が頭に浮かんできました。皆さんと一緒に素晴らしい灯籠が作れ、最後にピカピカに輝いた灯籠の素敵なビデオや写真が撮れて、本当に良かったです。

馬場 栄徳さん（技術教育専修　４回生）
今回は対面での参加に加えて、中国からオンラインでの参加など、多くの方々にご参加いただき大変嬉しく思います。ペーパークラフトの作り方や釣灯籠についての説明にも熱心に耳を傾けてくださり、とても

スムーズに進めることができました。
釣燈籠づくりを通して、技術教育専修の学生と留学生の皆さんが交流することができ、私たち技術教育専修の学生にとっても大変貴重な経験となりました。

松尾 真人（技術教育専修　３回生）
留学生との交流は今回が初めてでしたが、他国の文化など普段聞けないような話を沢山聞くことができ、とても貴重な体験になりました。
しかし、このような留学生と学部生との交流の機会は限られています。留学生の方々に、奈良の文化をもっともっと知ってもらい、良い土産話を持って帰って欲しいと感じました。これから、このような機会が増えるように私自身も努力したいと思います。

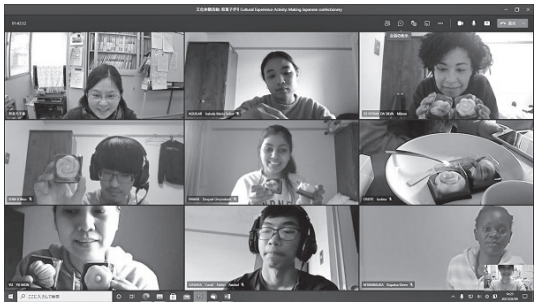
教員研修留学生の研修を紹介します。（2021年３月）



「教員研修留学生プログラム」は、諸外国の初等・中等教育機関の現職教員を１年半招へいし、日本の大学で学校教育に関する研究をしたり日本語・日本文化への理解を深めたりすることを目的として実施されている文部科学省奨学金プログラムです。本学ではこれまで世界各国で活躍する120名以上の教員を受け入れ、研修を行ってきました。

2020年４月から2021年３月までは４名の先生方が本学で研修を行いました。
AGUILAR Isabela Maria Solon先生
（フィリピン，Miriam college（Middle school）英語教師）
大学院の授業「教材開発研究（英語科）」で模擬授業を行いました。
そのほか、英語教育専修の学部授業「国際理解演習Ｉ」にも教研生が参加しました。
＜指導教員からのコメント＞
教研生には大きな刺激と、素晴らしい学びの場を与えてくれて心から感謝しているところです（英語教育講座　佐藤臨太郎先生）
DE FATIMA DA SILVA Milene先生
（ブラジル，Centro de ensino fundamental 04 do gama，数学教師）
MTAMBALIKA Kupatsa先生
（マラウィ，Kalibu academ，農業・生物教師）
YU YU MON先生（ミャンマー，North Dagon高等部，英語教師）

和菓子づくり体験をしました。（2021年３月９日）



教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生がリモートで和菓子づくりを体験しました。従来は京都の和菓子屋にて対面で実施していますが、今年度はコロナ渦ということもあり各々寮の部屋から参加しました。
職人さんから作業工程について都度説明を受けながら、配布された見本品も参考にしつつ、生地を形作っていきました。スプーンを使って梅の花びらを開く工程では、苦戦していた人が多かったようです。
また京菓子がどのように発展してきたかや関東菓子との違いについて教えていただいたり、職人直伝の技や道具も披露していただきました。
体験後は、奈良県山添村の煎茶とともに食しました。

～学生の感想～
アギラルイサベラマリヤソロン（教員研修留学生）
私は和菓子を作るのが初めてでした。最初は遊ぶみたいで簡単に作れると思いました。けれども手の動作が難しかったです。職人さんは手をしなやかに動かして作っていました。そして和菓子は芸術だと思いました。　私のような素人にとって和菓子作りは難しかったですが、楽しかったです。

Ｒ2年度教員研修留学生プログラムの修了式が行われました。（2021年３月10日）

2021年3月10日（水）、教員研修留学生のAGUILAR Isabela Maria Solonさん（フィリピン）、DE FATIMA DA SILVA Mileneさん（ブラジル）、MTAMBALIKA Kupatsaさん（マラウイ）、YU YU MONさん（ミャンマー）が2019年10月から半年間JASSOでの日本語集中研修後に１年の本学での研修を修了しました。
修了式に先立って、修了生４名による日本での経験についての発表会が行われました。
今年度も新型コロナウィルスの感染拡大防止のため、学内者のみの参列とし、修了式後の懇親会も中止となりましたが、参加した教職員や修了生は思い出を語りながら、奈良で生まれた絆がこれからも続くことを祈り、別れを惜しみました。

「言語交換（日／英）レッスン」の体験報告（2021年２月）

2020年10月、本学の協定校であるセントラルミシガン大学（CMU）の学生と言語交換（日本語を教えて、英語を教わる）を希望する日本人学生の募集を行いました。
その結果、多数の応募をいただきました。応募くださった皆様ありがとうございます。
実際に言語交換レッスンを行った学生さんから感想をご紹介します。

【参加者の声】

鈴木 愛未さん（英語教育専修　１回生）

今回の言語交換の活動に大変満足しています。週に１回、30分～ １時間程度、パートナーとお互いの趣味やクリスマス・お正月などの文化について話しました。そのことを通してインターネットで調べるだけではわからないような文化の違いなどが知ることができました。会話を重ねていくうち、英語を話すときに間違った表現を使ってしまうことを恐れることがなくなりました。今後も継続して交流していきたいと思っています。

川口 綾菜さん（英語教育専修　１回生）

パートナーと良好な関係が築け、とても有用な機会になりました。パートナーはとても親切で、発音の違いや異なる表現方法なども教えてくれたため、英語を話す力・聞く力が向上したと感じています。ボイスチャットアプリを使用したため、表情やジェスチャーなしで話したり聞いたりすることは大変でしたが、画像を送るなど工夫することで楽しく会話することができました。これからも継続して交流していこうと思っています。

Brooks, Owen Danielさん（CMU学生）

The conversation program has been going very well for me. Aさ　ん and I still speak regularly via Discord and LINE.

Aさんand I like to discuss music, and she recently introduced me to NHK's yearly Kohaku Uta Gassen. We also like to discuss things that are happening in our day-to-day life.

Aさんis, quite thankfully, very good at English, which is very helpful when I just don't know how to express something in Japanese.

Talking with Aさ　んhas been very helpful in learning Japanese, and I am very satisfied with the program overall.

Walton, Jasonさん（CMU学生）

I thought that everything went very well. After skipping a week for the holidays, we are still regularly meeting every Friday morning/evening on Zoom. I am learning a lot, and I'm hoping Bさん is too. We talk about a lot of random things. For example, the week before Christmas, we discussed what types of food we ate for the holidays, and what we would normally do on the holidays. Last week we talked a lot about modes of transportation. Other topics include movies or tv shows that we enjoy or specific things in our respective cultures（i.e. I asked about the Japanese customs regarding shoes）.

I do think it improves my studies of the Japanese language. I can recall times when I asked her about what I would say in certain situations, or how to pronounce a certain word.

I think that about covers everything. I hope the program will continue to carry on, as I thoroughly enjoyed it.

1.3 日本語・日本文化研修留学生/協定校交換留学生/教員研修留学生プログラム

●2019年度受入　日本語・日本文化研修留学生･交換留学生

大使館推薦 日本語・日本文化研修留学生	5名	オーストリア共和国、チリ共和国、ブルガリア共和国、ベトナム社会主義共和国、マレーシア
大学推薦 日本語・日本文化研修留学生	4名	Ⅱ－4 協定大学からの受入留学生数参照
国際交流協定に基づく特別聴講学生	12名	

修了レポートタイトル一覧

「村上春樹の作品が日本より西洋で有名な理由－日本人と外国人の考え方をもとにして－」
「日本のアナーキズムとプロテスタントの関係」
「神話的な視点から早期祖先崇拝の比較研究―中国漢族と日本大和民族を中心に―」
「日本語母語話者と日本語非母語話者の関西弁に対する意識
　－使用頻度と考え方から見た方言の学習の必要性－」
「奈良教育大学とマラヤ大学の女子大生の化粧意識」
「日本語の漢字に見られる女性差別」
「現在海外と日本での漫画の影響」
「日本の観光対策と観光公害」
「漢字とカタカナとひらがなの特別な使い方」
「和製英語と外来語の比較」
「北村透谷の詩に描かれる「蓬莱像」について－『長恨歌』と比較して－」
「日本語における極量を表す程度副詞に修飾される語」
「日本の産屋の民俗文化について」
「中国語における日本語の受容について－「达人」を中心に－」
「『紅楼夢』の注釈の対照－三つの日本語完訳本を中心に－」

●2020.4-2021.3　教員研修留学生

4名	フィリピン共和国、ブラジル連邦共和国、マラウイ共和国、ミャンマー連邦共和国

研究報告書

“EXAMINING JAPANESE EFL TEACHER’S L1 USE IN THE CLASSROOM: WHEN, HOW, AND WHY”
“LESSON PLANNING AND COLLABORATIVE WORKING WITHIN LESSON STUDY”
“RESEARCH ON INTEGRATION OF FOREST ENVIRONMENTAL EDUCATION IN SCHOOLS OF MALAWI: LEARNING FROM JAPAN”
“HUMAN RESOURCE MANAGEMENT OF PRINCIPALS OF PUBLIC UPPER SECONDARY SCHOOLS IN JAPAN: A THEMATIC ANALYSIS OF SEMI-STRUCTURED INTERVIEWS”

2021年度

1.1 教育研究支援機構発行ニューズレターより抜粋

本センターでは、受け入れ留学生への日本語日本文化教育とともに、国際的視野を持った教員の養成に資することを目的とした教員養成大学ならではの国際交流事業を展開しています。2021年度は引き続き新型コロナウイルス感染拡大のため、オンラインでのプログラム提供としたり、当初計画から内容を一部変更したりすることを余儀なくされましたが、限られた人的・物的資源を最大限に活用して事業を展開することができました。活動の詳細は、以下の通りです。

(1) 受け入れ留学生教育の運営

2021年度はコロナ感染拡大の影響で受け入れ留学生数は制限されましたが、さまざまな国から前期は25名、後期は33名の留学生を受け入れました。

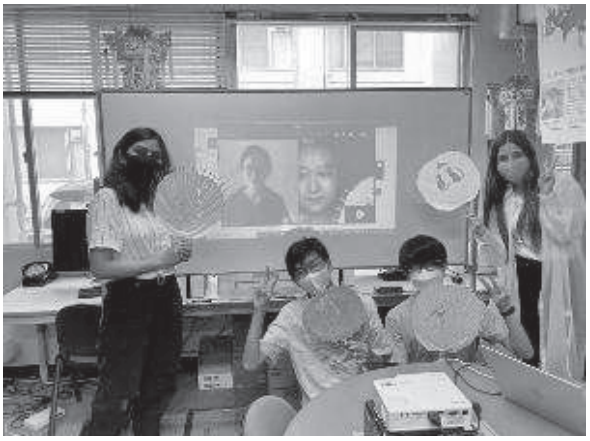
在籍留学生数、内訳は以下のとおりです。

前期	学部正規生３名、大学院正規生11名、学部研究生５名、日本語日本文化研修留学生４名、交換留学生２名
後期	学部正規生３名、大学院正規生10名、学部研究生７名、大学院研究生１名、日本語日本文化研修留学生３名、交換留学生５名、教員研修留学生４名

受け入れ留学生のうち日本語日本文化研修留学生は世界各国で日本語日本文化を学んでいる大学生を対象とした文部科学省奨学金プログラム参加者です。前期４名、後期３名が渡日後２週間の自主隔離期間を経て本学で学びました。また本学が国際交流協定を結んでいる大学からは、前期は西安外国語大学から２名、後期はハイデルベルク大学から１名、西安外国語大学から４名を交換留学生として受け入れました。交換留学生はコロナ感染拡大防止のための水際対策の影響で渡日が叶いませんでしたが、本国からオンラインでプログラムに参加しました。

授業だけでなく、以下のような文化プログラムを通して日本語・日本文化の理解を深めました。

本学自然環境教育センター奈良実習園での田植え体験（令和３年６月９日実施）



奈良団扇づくり体験（令和３年７月28日実施）

日本語・日本文化研修留学生及び交換留学生オンライン最終発表会（令和3年7月30日～８月20日実施）

日本語・日本文化研修留学生及び交換留学生の記念品授与式（令和3年8月2日開催）

同期型オンラインバスツアー「石見銀山と石見神楽」（令和4年1月14日実施）

同期型オンライン和菓子作り体験（令和4年2月15日実施、大阪大学日本語日本文化教育センター教育関係共同利用拠点事業）

灯ろうづくりワークショップ（令和4年3月3日実施、協力；技術教育専修学生（担当教員：世良啓太先生）

2022年度４月からは、文部科学省の奨学金を得て日本の教育事情を研修するために留学している海外の現職教員（教員研修留学生）４名が、大阪日本語教育センター（JASSO）での６か月の日本語集中研修を終えて本学での専門教育研修を開始します。来年度は、例年のようにより多くの留学生を受け入れ、グローバルな視点での学び合いがキャンパス内でさらに活発に行われることを期待しています。

なお、留学生が少しでも安心して留学生活を送れるように、本学では新型コロナウイルス感染拡大に伴う政府や大学の対応、生活支援のための情報を英語で提供する「留学生支援サイト（https://www.nara-edu.ac.jp/international/info_ryugakuNara.html）」を開設し、留学生への支援の充実に努めています。

(2) 学内における異文化交流の活性化

①留学生・日本人学生の共修機会の提供

本学の留学生対象科目の一部は日本人学生も履修可能となっており、今年度も留学生とともに日本語や日本文化について学びました。例えば、留学生向け科目「比較文化論」ではゲストスピーカーによる「ハラールとは何か」と題した同期型オンラインの講義を全学に公開しました（令和３年６月23日実施）。また「日本語コミュニケーション」では「教育課程特講（担当教員：橋崎頼子先生）」と合同授業を行い、それぞれの文化に対するステレオタイプや偏見についてディスカッショ

ンしました（令和３年11月９日実施）。今後も留学生と日本の学生とが共に学び合える授業を提供していきます。

②学内における国際交流活発化のための取り組み

授業以外でも、国際交流の場を用意し、留学生と日本の学生とが出会える機会を多く提供しています。例えば気軽におしゃべりする場を提供する「なっきょん's café」（定期的に開催）、「留学生と友達になろうキャンペーン」（年１回開催）は留学生と日本人学生の有志が中心となって実施されています。今年度はすべてオンラインでの交流となりましたが、留学生による国紹介ポスターの掲示および同期型オンラインのクイズ大会を開催するなど、対面実施が難しい中でも工夫して国際交流の活性化に努めました。また、現在、約30名の学生が留学生サポーターとして活動しています。

留学生と友達になろうキャンペーン「クイズ大会」（令和3年7月14日開催）

なっきょん's café「年賀状をつくろう」（同期型オンライン令和3年12月16日、12月21日対面で実施）

さらに、コロナ禍で自由な交流が制限される中で、学生たちの国際交流を後退させないように、海外の協定校等の大学生とオンラインでつながる機会も提供しています。セントラルミシガン大学で日本語を学ぶ留学生有志と本学学生をマッチングし、日本語・英語の交換レッスンをする「言語交換プログラム」もその一つです。さらに今年度は独立行政法人国際交流基金が受託しているグリフィス大学研修の一環として本学学生がグリフィス大学で日本語を履修している学部生とオンラインで交流しました。これらオンラインでつながる試みは、今後の国際交流の新しい選択肢の一つと言えるでしょう。

また、令和４年１月26日には本センター主催「教師のための多様性理解シリーズ（1）ミニレクチャー“イスラームについて知ろう 日本の学校教育におけるムスリム”」をオンライン開催し、本学学生、学内外の学校教育関係者38名が参加しました。

（3）派遣留学の奨励と支援

日本の学生の海外留学が促進される中、新型コロナウイルス感染拡大のために2021年秋からの派遣留学を中断していましたが、2022年１月より、国際交流協定校のアメリカ・セントラルミシガン大学へ１名、リヨン第三大学へ１名が渡り、留学生活を始めています。

なお派遣留学生に対しては、本学の支援奨学金制度に加えて、2021年度は「海外留学支援制度短期研修・研究型（協定派遣）」が採択され、派遣留学支援となっています。

本センターでは、今後も学生支援課と連携して、派遣留学の推進に努めるとともに、協定校が提供するオンラインプログラムに関する情報収集や新たな派遣留学の可能性の模索と促進に取り組んでいきたいと思います。

（4）附属学校園や地域と連携した国際交流の推進

本学では、留学生と日本の学生とが共に、附属校園でさまざまな実践を行っています。例年は、

交換留学生、大学院留学生等が本学の附属幼稚園、小学校、中学校での交流を通して多くの学びを得ていますが、今年度はそれらのほとんどが中止となりました。１月には、日本語日本文化研修留学生と交換留学生が附属小学校５年生の「外国語」の授業でハイブリッド形式での交流を行う予定でしたが、コロナ感染拡大の影響で計画を変更し、留学生が制作した自国紹介動画を通じての交流となりました。ぜひ今後の交流につなげていきたいと思います。

(5) そのほか

本学の留学生受け入れに関する広報活動として、令和３年10月15日にはリヨン第３大学主催「first virtual Partners' Fair 2021」にオンラインで参加し、日本への留学希望者７名に対して本学の留学プログラムについて広報を行いました。

その他の活動の詳細は、国際交流留学センターのホームページ（https://www.nara-edu.ac.jp/CIES/index.html）で紹介しています。また、元本学留学生の近況報告や派遣留学生の留学体験記や帰国報告会資料も随時公開していますので、ご覧になってください。

以上のように、本センターは、本学の国際交流の基本方針の一端を担い、留学生に対して日本語日本文化教育を提供するだけでなく、留学生プログラムを核にして、学内における国際交流の環境を醸成すると共に、その活動内容や成果を学内外へ発信しています。次年度も引き続き、留学生プログラムの充実に努めるとともに、日本の学生と留学生との共修や、附属学校園等との連携につとめていきます。そして、留学生教育と連動させながら、グローバルな視点に立った教員養成に資する活動を行っていく所存です。

1.2 国際交流留学生センターホームページ記事より抜粋

オンラインで「なっきょん's café」を開催しました。（2021年５月12日）

今回は「オンラインdeプチ旅行」と題して、有志の日本人学生や留学生がお気に入りの観光スポットや自身の出身地について、写真やGoogleストリートビューを用いて紹介しました。留学生および日本人学生が合計で11名参加し、各人からの紹介後には食文化や民族衣装などについての質問も飛び交い、にぎやかな時間となりました。

第１回奈良教育大学フォトコンテストで留学生が「なっきょん賞」を受賞しました。（2021年５月24日）

第１回奈良教育大学フォトコンテストにおいて、留学生のチャンディ ファリ ファイソル ジュナリアさん（日本語日本文化研修留学生）が「なっきょん賞」を受賞しました。

＜エピソード＞
オンラインで見られなかった景色、
出来なかった体験、
やれなかった研究、
作れなかった思い出、
この春学期で漸くできるようになったよ
（2021年４月２日撮影）

奈良実習園において田植えを体験しました。（2021年６月９日）

例年は国際交流イベントとして留学生・日本人学生向けに開催している「田植え体験」ですが、今年はコロナウイルス感染症対策のため、文化体験プログラムとして日本語日本文化研修留学生に参加者を限定して実施しました。

梅雨のため心配していたお天気ですが、当日は初夏の日差しが降り注ぐ快晴となりました。実習園の方から苗の持ち方や植える時の深さ、稲の間隔などをレクチャーしていただいた後、早速裸足になって田んぼに入り、一列ずつ手で苗を植えていきました。

慣れない土の感触に足を取られ、「おっとっと！」と危うく全身泥だらけになりそうになったり、田んぼの外から苗を投げてもらう際には、キャッチがうまく出来ず「きゃー！」と悲鳴があがったりしていました。それでも徐々に慣れていき、皆で協力して無事に田植えを終えることができました。

自然環境センター奈良実習園のみなさま、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。大変お世話になりました。

ミニレクチャー「日本の稲作文化の歴史を知る」を開催しました。（2021年６月２日）

　オンラインで日本の稲作文化についてミニレクチャーを開催しました。
本レクチャーは、日本語日本文化研修留学生向けに実施する「田植え体験」の事前勉強会として開催しましたが、希望する日本人学生も参加しました。始めに「奥能登のあえのこと」の動画を視聴した後、本センター特任講師の小村明子先生より稲作文化の歴史を辿りながら、農業（稲作）と日本の信仰の関わり合いについて講話をいただきました。留学生のみならず日本人学生にとっても大変興味深い時間になりました。

～学生の感想～
笠松璃香さん（社会科教育専修　１回生）
「あえのこと」を視聴して、日本で現在でも農業に関するこのような伝統的文化・祭りがあることに驚きました。また稲作がインドのアッサム地方から始まったことやお正月飾り（門松、鏡餅、注連飾りなど）が依り代であったことなど、日本にずっと住んでいても知らないことが多かったです。コロナでオンラインになってしまいましたが、いい経験ができました。

国際交流イベント「留学生と友達になろう」を実施しました。（2021年７月14日）

　例年は４月下旬に学生食堂前に留学生が自国紹介のブースを出して実施している国際交流イベント「留学生と友達になろうキャンペーン」ですが、今年度はコロナウイルス感染症対策のため、泣く泣くオンラインで実施する運びとなりました。
参加者全員が楽しめる方法を留学生とともに模索した結果、クイズ形式で自国の文化や習慣について出題するクイズ大会を催しました。
当日は留学生７名と日本人学生７名の計14名が参加しました。留学生と日本人学生がチームを組み、Teamsのブレークアウトルームを活用して、チーム単位で各問題の回答を考えていきました。少人数で話し合う機会があったため普段以上に活発なコミュニケーションが行われ、また優勝チームには国際交流留学センターで保有する各国民芸品がプレゼントされるということで、予想以上に真剣に取り組む姿も見受けられ、盛り上がりました。これを機会に留学生と日本人学生の交流の輪が広がっていくことを願っています。

本イベントに際して留学生が作成した自国紹介のポスターを国際交流室にしばらくの間展示しておりますので、ぜひ足を運んで見に来てください。皆さまのお越しをお待ちしております。

留学生科目「日本語１」と教員養成課程専門科目「教育課程演習」が合同授業を行いました。

（2021年７月21日）

新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン授業が続く中、留学生科目「日本語１（担当：和泉元千春）」では、「教育課程演習（担当：橋崎頼子）」を受講する日本人学生とのオンライン合同授業を行いました。架空の島を舞台にしたシミュレーション教材「ひょうたん島問題」を使った活動を通して、多文化共生社会の課題について活発に意見交換することができました。

～参加者の声～

萩原 のぞみさん　（教育学専修　３回生）

留学生とのひょうたん島問題のロールプレイ交流を通して、様々な立場の担当を分担して考えることで、その立場の人の想いなどをよりリアルに考えることができ、今まで思っていたよりも、多文化共生の社会をつくることには難点が多いと感じました。私が今回難しいと感じた一つ目の難点は、お互いに本心は自分たちの立場を理解してほしいと思っているけれど、それをお互いが付き通しても話は進まないということです。しかし私たちのグループでは、社会全体で考えたときに譲り合う心をもって、お互いが納得できるようにするにはどうすればいいのかという風に検討していけたのがとてもよかったなと思いました。また、私が感じた難点がもう一つあります。私はひょうたん教員という立場で、全人種に対して中立的にいたいという思いから、「カリキュラムに外国語理解を入れる」というカードを優先したいという理想を掲げていたけれど、本当に自分が外国語を教えることができるのかとよく考えてみると難しいなと思いました。今回のひょうたん島問題のロールプレイでは、今までの授業では見えてこなかったリアルな人々の想いや不満、期待などを考えることができました。これを機に、今後はより具体的に多文化共生や多文化理解について考えていきたいです。

ジュナリア チャンディ ファリ ファイソルさん　（日本語日本文化研修留学生）

現在の社会に存在する問題をテーマにしていたので、とても面白かったと思います。例えば、日本では民族学校の問題があるとか。それに、日本に来る前は日本語は簡単な雑談でしか使用しなかったので、このような機会を得て、日本語で他の人と議論することは、本当に嬉しかったです。議論をするのが好きですが、こういう風に日本語で議論するのは不安もありました。例えば、意見がちゃんと伝えなかったり、他人の意見をちゃんと理解できなかったりするのではないかという不安です。でも案外とうまくいったのでうれしかったです。

奈良団扇づくり体験をしました。（2021年７月28日）

日本語・日本文化研修留学生および交換留学生が、ハイブリッドにて奈良県指定伝統工芸品“奈良団扇”の手作り体験をしました。

奈良団扇の起源を聞いた後、透かし彫り（二枚の和紙をカッターナイフで切り抜く）と貼り（和紙と骨にのりを付け密着させる）の作業を体験しました。通常、仕上げの工程については職人さんが持ち帰って作業することになるのですが、今回はリモートでの参加者もいたため、特別に仕

上げの工程についても実演を交えながら説明していただきました。その際には細かい作業も軽やかにこなしていく職人技に、参加者からため息がもれていました。
自身で製作した団扇を片手に、涼を感じてもらえればと思います。

大阪で浮世絵制作を体験するとともに文楽を観劇しました。（2021年７月30日）

日本語・日本文化研修留学生が、大阪で浮世絵制作を体験するとともに文楽を観劇しました。

まずは上方浮世絵館（大阪難波）にて展示作品を鑑賞するとともに、浮世絵制作の体験を行いました。版木にじかに触れ、実際に浮世絵の「擦り」の部分を体験することで、浮世絵の魅力をより深く知ることができました。
その後、国立文楽劇場（大阪日本橋）で文楽を観劇しました。演目は、夏休み特別講演：第２部【名作劇場】生写朝顔話（しょううつしあさがおばなし）です。４時間近くの公演でしたが、生き生きとした人形の動きに感銘を受けるなど、本物の伝統芸能を体感することができました。

日本語・日本文化研修留学生および交換留学生の記念品授与式が行われました。（2021年８月２日）

2020年度の日本語・日本文化研修留学生および交換留学生が2020年10月より開始した約１年間のプログラムを終えるにあたり、記念品授与式が執り行われました。
奈良での留学生活を振り返るとともに、仲間たちとの別れを惜しみました。渡日できないまま留学プログラムを終えるメンバーもいたため、いつか全員揃って日本で会いましょうなどの会話が交わされるシーンもありました。
例年は同日に留学生が各自の専門分野や興味に応じてテーマを選び作成した修了レポートについて発表する場を設けていますが、新型コロナウイルス感染リスク軽減のため、発表会についてはオンデマンド配信として、記念品授与式のみ参列人数を制限して開催されました。

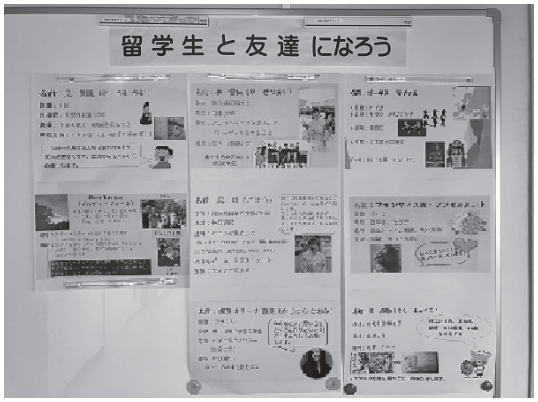
留学生とサポーターの交流会をオンラインで開催しました。（2021年10月20日）

10月から2021年秋学期入学者の留学プログラムがスタートしましたが、日本の水際対策によりまだ多くの留学生が渡日できていない状況です。そんな中でも学生間交流をしてもらうため、留学生とサポーター（留学生のサポートをボランティアで担ってくれる学生）の交流会をオンラインで開催しました。

参加者（留学生７名、サポーター ８名）を４グループに分けて、大学生活や日本で流行っていること、おすすめの観光スポットなど、ざっくばらんにグループ毎に会話をしました。留学生にとっては、大学のことはもちろん日本での生活に向けてたくさんのことを知る良い機会になったと思います。
留学生の渡日が１日も早く実現することを願うとともに、これをきっかけに交流を深め、渡日後には一緒に遊びに行くなど友好な関係を築いていってもらいたいと思います。

2021年秋学期入学留学生の自己紹介を掲示しました。（2021年10月26日）

国際交流留学センター（R5：新館２号棟１階内）前の掲示板に、2021年秋学期入学の交換留学生および日本語日本文化研修留学生の自己紹介を掲示しました。お時間あるときにぜひ足を運んで見に来てください。



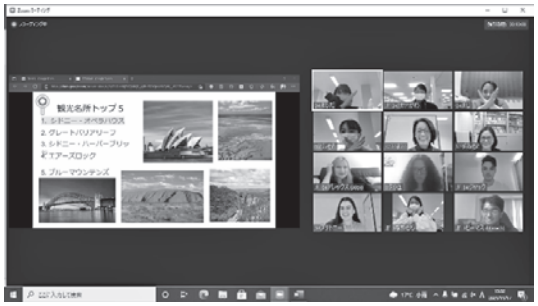
「日本語コミュニケーション」受講の留学生と「教育課程演習」受講の学生が合同授業を行いました（2021年11月９日）

2021年11月９日「日本語コミュニケーション」８名（担当教員：和泉元千春）と「教育課程特講」17名（担当教員：橋崎頼子）が合同授業を行い、それぞれの文化に対するステレオタイプや偏見についてディスカッションしました。

参加した留学生のコメント
BREUSSIN FLEURさん（リヨン第三大学　日本語日本文化研修留学生）
合同授業では、色々な話題について話しました。先ずはフランスとリヨンのことについて会話しました。外国にフランスのイメージは非常に面白いだと思います。一般的に、外国人に「フランスについて何が知っていますか」と質問するとき、「パリとモンサンミッシェル以外あまり何も知らない」と言う答えしか出てきません。実は、パリはフランスの人々から嫌われています。パリに住んでいる人の中でもそのような考えを持っている人がたくさんいます。
ステレオタイプによって、パリは綺麗で、おしゃれな人が多くて、本当に快い場所です。実は、パリが非常に汚い都市です。市民が失礼で、地下鉄にはいつもひどい匂いがします。
フランスでは「パリはフランスの都市ではない」とよく言われています。フランス人はフランスで旅行したいとき、パリより山や海に行きます。日本人学生はこの話が本当にびっくりしたと言いました。
その後、日本について話し続けました。非常に面白かった点は、方言のことだと思います。日本人学生は奈良出身と沖縄出身だったので、特に関西弁と沖縄弁について話しました。
沖縄弁は他の言語のようだと聞きました。フランスにも地域の言語がありますが、全然方言として見なしません。似たような言葉がなくて、文法や発音も違うから古い地域の言語だと言われます。本当の方言はやはりないのだと思います。

ある言葉が地域に対して変わったり、別のアクセントもあったりしますが、非常に稀です。方言は文化的に豊かなものだと思います。関西弁について、大阪弁、京都弁と奈良弁について話しました。大阪弁はきつめな表現が多いと言われており、少し驚きました。
また、田舎の人々の優しさやお寺と神社のことについても話しました。日本人学生はとても優しくて、本当に楽しかったと思います。

本学学生がグリフィス大学の学生と交流しました（2021年11月17日）



2021年11月17日に、国際交流基金が受託しているグリフィス大学日本語研修の一環として、本学学生（主に教育学専修学部生11名）がグリフィス大学で日本語を履修している学部生（10名）と同期型オンラインによる交流会を行い、出身地に関する情報交換をクイズ形式で行いました。

また、交流会後半は、グリフィス大学学生から日本に関するテーマについてのインタビューを受けました。オンラインでの短い交流時間でしたが、双方にとって有意義な経験となりました。
貴重な機会を提供してくださった国際交流基金関西国際センターのみなさま、ならびにグリフィス大学のみなさまに心から感謝いたします。

参加学生のコメント

・初めは、言葉の壁があるとなかなか伝わりづらいのかなと思ったが、どうにか伝えよう、理解しようとお互いが努力することがコミュニケーションであると改めて感じた。
日本の話、オーストラリアの話をそれぞれした中で、その国特有の食べ物や観光地などのちがいを見つけるのが特に面白かった。また、「妖怪についてどう思うか」という不思議な質問もあったが、国によって妖怪そのものに対する見方が違ったこと、国は関係なく妖怪に対して思うことの共通点など、あらゆる角度から話し合うことができた。

・今回の交流会はとても楽しかった。グリフィス大学の方々が研究している１つの議題について話し合い、お互いに考え方が違うことやそもそも形式が違っているというところを話して初めて知った。
受験と妖怪について話したが、相手が日本の受験と妖怪に対する考え方に対してとても関心を持って、また理解しながら話を聞いてくれたので、とても心地よかった。
国によって違う文化や考え方をお互いが受け入れながら話し合う活動は、理解し合えているという喜びやそんなに違うんだという驚きなどがあり、楽しかったしまた有意義な時間でとても貴重な体験だった。やはり、違うところを共有することは、新しい気づきができたり、違うからこそ面白かったり、聞けて良かったと思える。このような体験を、学校でもできるともっと国際理解教育に繋がる経験になると思った。このような活動を教員になった時に子どもたちに体験して欲しい。本当にとても楽しい時間だった。

奈良地域留学生交流推進会議主催による「第21回外国人留学生スピーチ大会」で本学の日本語・日本文化研修留学生ブルサンフルールさんが準優秀賞を受賞しました。（2021年12月９日）

12月９日（木）に、奈良地域の大学の留学生が集い、奈良女子大学でスピーチ大会が開催されました。本学からは日本語・日本文化研修留学生のブルサンフルールさんが出場し、「ありがとう」をテーマに発表しました。「すみません」ではなく「ありがとう」を使うようになったきっかけ、感謝を伝えるときに「ありがとう」を使うことで世界を明るくしていけるのではないでしょうかとスピーチし、準優秀賞を受賞しました。おめでとうございます！

自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「もちつき大会」を開催しました。

（2021年12月22日）

コロナウイルス感染症対策のため対面での実施を長らく休止していた国際交流イベントですが、この度感染防止策を徹底のうえ、大学附属の自然環境教育センター奈良実習園にてもちつき大会を行いました。

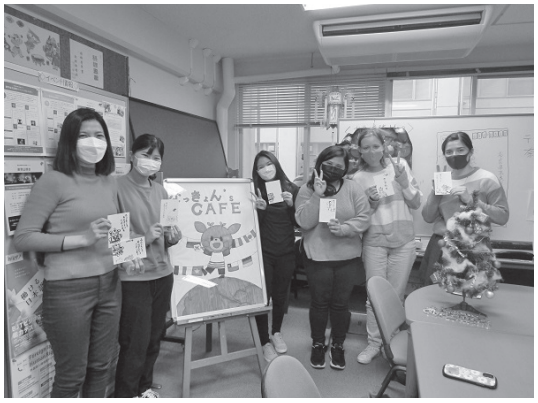
本学自然環境教育センターの辻野教授（生態学・環境学）による日本の米作りの流れについて講義を受けたあと、実際にもちつきを体験しました。

まずは蒸しあげた熱々のもち米を実習園の教職員の方々の指導のもと、臼の周りをぐるぐる回りながら杵で練るように潰しました。

その後は順番にもちつきをしました。杵の握り方、力の入れ方などについてアドバイスをもらいながら、楽しく、一生懸命もちをつきました。

最後はついたおもちを丸め、各自持ち帰りました。日本人学生から紹介してもらったおもちの食べ方（砂糖醤油、きな粉、餡子など）を参考に、留学生は美味しく食したことと思います。

「なっきょん's café」で年賀状作りを体験しました（2021年12月21日）



留学生と日本人学生の交流の場として「なっきょん's Café」をオンラインとオフラインの両方で開催しました。

オンラインでは水際対策により入国できていない留学生が現地から参加してくれました。中国の学生が「お正月は家族で餃子を作るよ」と教えてくれたり、日本人学生が「我が家流」お正月の話をしてくれたり、おしゃべりが盛り上がりました。年賀状は、Teams上でホワイトボード機能を利用して作成しました。

オフラインでは、実際に色鉛筆や筆ペンを使って年賀状を作成しました。日本人でも最近は手書きではなかなか書かない年賀状ですが、留学生達は虎の絵を描いたり、筆ペンで「あけましておめでとう」と定番の賀詞を書いて、それぞれが味のある年賀状を仕上げました。

オンラインバスツアーで「世界遺産・石見銀山　大久保間歩と伝統芸能・石見神楽」を見学しました（2022年１月14日）

日本語・日本文化研修留学生と交換留学生がオンラインバスツアーに参加しました。

「それでは出発します！」の合図でバスが発車すると、車窓からの景色を眺めながら、地域の案内をしていただきます。まるで本当に観光バスに乗車しているようでした。

まず到着した三宮神社ではスサノオノミコトがヤマタノオロチを倒す石見神楽を鑑賞しました。迫力ある映像の後は、三宮神社にいる現地の観光代理店の方と中継で繋がり、ヤマタノオロチの体の材質や、演者についてなど、参加者からの質問に答えていただきました。

続いて三瓶小豆原埋没林と石見銀山・大久保間歩を順番に巡り、普段はガイド付き限定ツアーで公開されている場所を訪れました。さらに中継でつながった石見銀山世界遺産センターの方に銀山の説明をしていただき、いっそう理解を深めることができました。

初めてのオンラインバスツアーに、最初は戸惑いを感じた留学生もいましたが、終了後のアンケートでは、オンラインだけど面白い体験ができた、とても勉強になったという感想を寄せてくれました。

「日本語教育論」を受講する留学生が「教職実践演習（幼小高）[国語]」の特別講義「外国人児童生徒等について知ろう」に参加しました。（2022年１月21日）

R4年１月21日「教職実践演習（幼小中高）[国語]」は、「外国人児童生徒等を知ろう」と題した特別講義を行いました。

前半はグループに分かれ、「日本語教育論」を受講する留学生からそれぞれの母語を学ぶ体験をしました。

後半は、ゲストスピーカーとして、元外国人児童等としての経験を活かし、現在は外国人児童生徒等への日本語指導と母語（中国語）支援を行っている、橿原市立新沢小学校の宮谷雪先生に、「『外国人児童生徒等』としてのライフストーリーを語っていただきました。

また日本語指導講師としてのお立場からも、在籍学級の教員としてできることについてお話いただきました。

受講生のコメント

・未知の言語を学ぶということはわくわくすることでしたが、緊張することでもありました。
　小さいグループでのレッスンでも緊張するのだから、大きな教室の中で、自分一人だけ日本語がわからないという状況に置かれた外国人児童生徒等の方々は非常に不安な気持ちにさせられているのだろうと気づきました。
　本日のレッスンでは、留学生の方々は私たちにも理解できるジェスチャーや、絵を使って母語を教えてくださったので、楽しく学ぶことができました。絵などで補助をする工夫は有効だと感じました。

・同じ家族で、兄弟であっても育った環境で考え方が違ってくるというところで、外国人児童、とひとくくりに言っても、一人一人によってさまざまな価値観や、関わり方があるのだと感じた。
・宮谷先生がご自身が先生になられて、自分のルーツを話すかどうかで、「親がどう思うのか」を気にされた、と言う点が印象的でした。外国籍の児童生徒に対して配慮することはもちろん、そういったルーツを持つ大人が自身のルーツについて話すことを躊躇わなくて良い社会・環境作りが必要だと感じました。
その上で、教育現場において、コミュニティに外国人がいてもいなくても、誰にとっても重要で必要な教育だと考えました。ありがとうございました。

大阪大学の留学生といっしょに和菓子作りを体験しました。（2022年２月15日）

大阪大学日本語・日本文化教育研修共同利用拠点事業の一環として、大阪大学の留学生と一緒に、本学の日本語・日本文化研修留学生３名がリモートで和菓子づくりを体験しました。
材料は手に長く持っていると乾燥してしまうため、手早く作る必要があります。ピンクと白の２種類の練り切りで白餡を包み、お花の形を作ります。初心者の包み方と、職人の包み方の両方を体験しました。
なかなか上手にできた！とお菓子を見せてくれる留学生もいました。

和菓子作りの後は、体験の感想や菓子文化についてディスカッションしました。留学生はお菓子にまつわる自分の体験を話したり、写真を使って自国のお菓子の説明をしました。

（ディスカッションで語られた体験談）
本学から参加したGORGIS Meikelさん（ハイデルベルク大学　日本語日本文化研修留学生）
・子供の頃にたくさんのバターと果物が入ったお菓子を作りました。オーブンで焼きます。今日作った和菓子の甘さはちょうどよくて好きでした。健康に良いように感じました。
（「ドイツのお菓子は食べますか？」という質問に対して）
そうですね。でもドイツは多文化社会なので、それが本当にドイツのお菓子なのか、海外から入ってきたお菓子なのか、実は判断が難しいのです。

オンラインにて「教師のための多様性理解シリーズ　ミニレクチャー　イスラームについて知ろう」を開催しました（2022年１月26日）

2022年１月26日18時から、オンラインにて「教師のための多様性理解シリーズ　ミニレクチャー　イスラームについて知ろう」を開催した。本講座は、奈良県教育委員会ならびに奈良市教育委員会の後援を得て開催された。

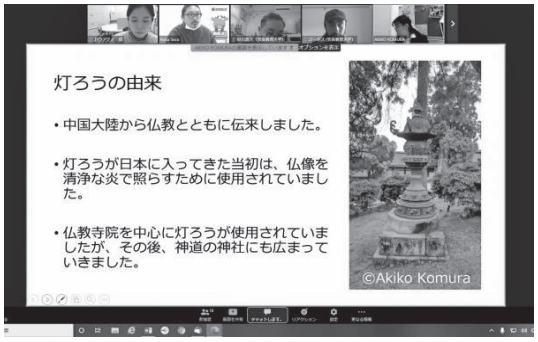
本講座では、２名の専門家の先生に登壇頂き、イスラームという宗教についての基本的な知識と、学校教育においてムスリムたちが直面する課題について、お話頂いた。

先ずは当センター特任講師の小村明子氏によるイスラームについての基本的な知識をお話頂いた。イスラームには六信五行というムスリムが信じるべき６つの事と、行うべき５つの行為がある。また、イスラームは文化である以前に宗教であり、宗教であるが故に世界のどこへ行っても、また時代を超えても変わることがないということ、非ムスリムから厳格な宗教教義を持っているとみられる傾向にあるが、実はできない時のやり方があるなど、柔軟性に富んでいるとの説明があった。

続いて、宗教法人日本ムスリム協会副会長の佐藤裕一氏にお話をいただいた。ムスリム子弟や両親が学校教育現場で何を求めているのか、給食や礼拝場所の提供だけでなく、水泳や美術などのイスラームでは推奨されない教科に対して実際に何が問題になるのかをお話しいただいた。

２名の講師による講話の後、質疑応答に移り、いくつかの質問に対して、講師から、詳細に回答いただいた。当事者からの生の声を聞くことができてよかったという意見が多く、実際に課題に直面している当事者から話を伺うという意味で見識も深くなり、有意義な公開講座となった。

灯籠づくりワークショップを開催しました。（2022年３月３日）



本学技術教育専修の世良啓太先生ならびに学生のみなさんの協力のもと、3Dプリンターを使った灯籠づくりワークショップをオンラインで開催しました

まず全員でミニレクチャーに参加して、灯籠の歴史や宗教的な意味合いを学び、東大寺の寺院灯籠や春日大社に奉納されている釣灯籠の写真を見ました。

その後は実際に3Dプリンターで作成したパーツと型紙を使って組み立てていきます。

慣れないペーパークラフトに四苦八苦する場面もありましたが、わきあいあいと会話を楽しみながら作業ができました。

～学生の感想～

ゴ　ホウさん（交換留学生・西安外国語大学）

初めて自分で灯籠を作りました。すごく達成感を味わうことができました。灯籠も美しいです。作りながらみんなさんと交流するのを楽しんでいました。

ブルサン　フルールさん（日本語日本文化研修留学生）

このようなワークショップは小学生のときからあまりしたことがありません。ですからできるかどうかはよく分からなくて、少し不安でした。

しかし、思ったより簡単で楽しかったです。そして、日本にいても日本人と話す機会があまりないので話すことができて良かったです。本当に楽しかったです。ありがとうございます！

山口竜輝さん（技術教育専修　３回生）

オンライン開催ではなりましたが、普段なかなか行うことのない国際交流はとても貴重な機会でした。

灯篭づくりを通して、色々な国の文化などを聞くことができ、楽しかったです。

また留学生の皆さんと会えるのを楽しみにしています！

荊木拓さん（技術教育専修　３回生）
このワークショップは残念ながら対面での実施は出来ませんでした。しかし、画面を通して、様々な場所の、様々な話を聞くことが出来ました。
私自身、留学生と交流をしたことはなく、はじめは緊張していたのですが、すぐに打ち解けることが出来ました。そして、留学生の方たちと一緒にペーパークラフトを作る経験というのは、大変、貴重な経験となりました。

1.3 日本語・日本文化研修留学生/協定校交換留学生/教員研修留学生プログラム

●2020年度受入　日本語・日本文化研修留学生･交換留学生

大使館推薦 日本語・日本文化研修留学生	3名	インド共和国、インドネシア共和国
大学推薦 日本語・日本文化研修留学生	1名	Ⅱ－4 協定大学からの受入留学生数参照
国際交流協定に基づく特別聴講学生	2名	

修了レポートタイトル一覧

「日本の怪異現象－伊藤潤二の作品を中心に－」

「失われた世代－新たな価値観で日本の未来を変えるのだろうか－」

「韓国人日本語学習者のための日本語条件表現の教え方
　－「たら」「と」「ば」「なら」の意味用法の相違に関する考察－」

「日本語の「すみません」とインドネシア語の「Maaf」の用法の対照」

「『日本霊異記』における冥界人物のイメージ－『冥報記』との比較を中心に－」

「中国語母語話者の日本語複合動詞「～つける」の習得研究」

2022年度

1.2 国際交流留学生センターホームページ記事より抜粋

留学生が大相撲大阪場所を観戦しました。（2022年３月24日）

本学に留学中の日本語日本文化研修留学生３名が大相撲大阪場所12日目を観戦しました。

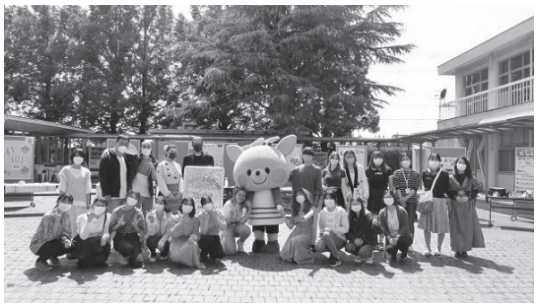
~留学生のコメント~

梶原カリーナ直美（日本語日本文化研修留学生・サンパウロ大学）

小さい頃から、祖父母がテレビで相撲を見ていたのを覚えています。けれども、私は日本語や相撲のルールがよくわからなかったので、一緒に観戦したことがありませんでした。しかし、大相撲観戦前の講義で相撲のルールや用語、歴史を理解することができて、教えてもらったことと、テレビで見たことを関連付けることができました。大相撲観戦して、相撲の習慣や伝統についてもっと学ぶことができました。その上、外国の力士がいたのは非常に興味深いものでした。私と同じくブラジル出身の力士さえもいました。

この経験は素晴らしい学習体験であるだけでなく、とても楽しかったです。力士を知らなくても、応援して試合を見て楽しんでいました。ブラジルに帰ったら、祖父母と一緒に大相撲観戦することは、私たちが絆を深める楽しい方法になると思います。

留学生の国紹介イベント「留学生と友達になろうキャンペーン」を行いました。（2022年5月18日）



2022年５月18日（水）毎年恒例の留学生の国紹介イベント「留学生と友達になろうキャンペーン」を開催しました！

このイベントは、留学生とサポーター日本人学生とが協力して、楽しく文化が学べるように自分たちで計画を立てて準備してくれたものです。

今年は、韓国、フランス、中国、ブラジル、ブルガリア、ドイツからの留学生が自国の文化を紹介しました。

また国際交流室や留学生サポーター、なっきょん's Caféなど、学生に広く知っていただけるようチラシを配布しました。

各ブースでは、文字やお菓子を紹介したり、実際に遊びを体験してもらったり、クイズを出したりしました。

開始時刻の12時半から終了時刻の14時まで、ほぼ途切れなく学生さんや先生方、スタッフの皆さまに訪れていただき、大いに盛り上がりました。

イベントの運営に尽力してくれた学生のみなさん、ご協力ありがとうございました。

図書館ガイダンスを開催しました（2022年５月25日）

大学図書館の協力を得て、留学生向けに図書館ガイダンスを開催し、留学生14名が参加しました。
図書館では、図書の閲覧や借用だけではなく、論文のコピーを取り寄せる方法なども説明していただきました。
また参加者は持参したスマートフォンなどを操作しながら、蔵書検索の方法や「マイライブラリ」の使い方についても説明を受けました。

春季留学生懇談会を開催しました（2022年６月１日）

本学に在籍する留学生41名が５月に無事全員渡日できたことを受け、本学教職員、日本人学生との懇親を深めるよい機会にしてもらおうと、懇談会を本学山田ホールで開催しました。

留学生の紹介の後は、学生有志によるパフォーマンスが披露されました。

留学生からはギターの演奏と歌、またピアノの演奏と歌を披露していただきました。最後は本学ユネスコクラブによるアンクロンの演奏で大いに盛り上がりました。

留学生が近江八幡に学習旅行へ行ってきました。（2022年６月10日）

本学に留学中の日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生が日帰り学習旅行で近江八幡へ行ってきました。

まずはボランティアガイドの方と一緒に八幡堀周辺を散策し、午後は手漕ぎの舟に乗って水郷をめぐり、最後は水茎焼きの陶芸を体験しました。近江八幡の風情と歴史を満喫する充実した旅行となりました。

学習旅行の課題として、みんなで俳句（川柳）を詠みました。

自然環境教育センター奈良実習園において国際交流イベント「田植え体験」開催しました。

（2022年６月８日）

国際交流イベントとして留学生・日本人学生が「田植え体験」に参加しました。梅雨時期のため心配していたお天気ですが、当日は降り出すこともなく、過ごしやすい陽気となりました。

実習園の方から苗の持ち方や植える時の深さ、稲の間隔などをレクチャーしていただいた後、早速裸足になって田んぼに入り、苗を植えていきました。

慣れない土の感触に戸惑いつつ、目印のために田んぼに張られた紐に沿って、丁寧に一列ずつ苗を植えていきます。新しい苗は外から投げてもらい、キャッチ！賑やかに、でも真剣に作業を続け、無事に田植えを終えることができました。

自然環境センター奈良実習園のみなさま、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。大変お世話になりました。

派遣留学生帰国報告会を開催しました。（2022年７月20日）

令和３年度派遣留学生の帰国報告会を７月20日（水）13時00分～ 14時00分に、本学図書館ラーニングコモンズで開催しました。

当日はセントラルミシガン大学から帰国した学生が留学経験を報告してくれました。

「なっきょん's Café」で世界のゲームを体験しました（2022年７月27日）

留学生と日本人学生の交流の場として「なっきょん's Café」を開催しました。今回のテーマは「国内外のゲームであそぼう」です。

まずは百人一首で坊主めくりを行いました。参加してくれた日本人学生がほとんどの歌を暗記していたので皆驚きました。

次に人狼ゲームにチャレンジした後、ドイツのMensch ärgere Dich nicht（サイコロゲーム）とアフリカが起源と言われるmancala（石取りゲーム）を、それぞれ留学生に説明してもらいながら行いました。

Mensch ärgere Dich nichtのルールをフランスの学生もよく知っていたり、mancalaをフィリピンの学生が説明してくれたり（フィリピンではスンカ（Sungka）と呼ぶ）、国や言語を越えて遊びが広がっている事を実感しました。

なっきょん's Caféは本学学生、教職員ならどなたでも気軽に参加いただけるイベントです。

勿論会話は日本語でOK ！ご参加をお待ちしています。

大阪で浮世絵制作を体験するとともに文楽を観劇しました。（2022年８月４日）

日本語・日本文化研修留学生、交換留学生、教員研修留学生が、大阪で浮世絵制作を体験するとともに文楽を観劇しました。

まずは上方浮世絵館（大阪難波）にて展示作品を鑑賞するとともに、浮世絵「摺り」を体験しました。図柄を歌舞伎の「景清」、「弁慶」から自分で選んで、三色摺りを行います。見本の通りにできなくても、浮世絵の魅力を感じる貴重な体験となりました。

その後、国立文楽劇場（大阪日本橋）で文楽を観劇しました。演目は、夏休み特別講演：第２部【名作劇場】心中天網島（しんじゅうてんのあみじま）です。４時間近くの公演でしたが、生き生きとした人形の動きに感銘を受けるなど、本物の伝統芸能を体感することができました。

日本語・日本文化研修留学生／交換留学生　終了発表会が開かれました。（2022年８月５日）

日本語・日本文化研修留学生と交換留学生が約１年間のプログラムを終えるにあたって、2022年８月５日、本学山田ホールにおいて終了発表会を行いました。この留学生プログラムでは、留学生が各自の専門分野や興味に応じてテーマを選び、修了レポートをまとめることが最終課題となっています。発表会では、レポートの内容についてポスター発表を行いました。

発表会後には、プログラムの終了を記念して記念品授与式が開かれ、奈良での留学生活を振り返りつつ、仲間たちとの別れを惜しみました。

式典では学長から留学生へメッセージが贈られました。メッセージはこちらです。

ハイブリッド形式で「教師のための多様性理解シリーズ　ミニレクチャー　SOGIについて知ろうー学校教育における性の多様性ー」を開催しました（2022年８月22日）

本学国際交流留学センターは、文化間の交流や研究のためのセンターであることをその英語名で表現しています。つまり、国という枠組みに限定されない多様な文化の理解に関する問題は本センターで扱う研究課題となります。そのような問題を学内外で共有する趣旨で昨年度から「教師のための多様性理解シリーズ」を開催しています。第一回の「イスラームとは何か」に続き、第二回として、「ミニレクチャーSOGIについて知ろうー学校教育における性の多様性ー」と題した講演会を８月22日、ハイブリッド形式で開催しました。今回は30名を超える学生並びに学内外の教員が参加しました。

講演には、性的少数派としての経験とともに性の多様性について積極的に発信されてきた、特定非営利活動法人チーム紀伊水道理事長であり中学校教員でもある倉嶋麻理奈氏と本学教職大学院修了生の李洋氏をお招きし、倉嶋氏には、学校教員であり一人の当事者としての立場

から、李氏には、日本および中国社会での国際的な経験から講演をいただきました。質疑応答では、当事者からの相談を受けた場合の教員としての対応についてなど多くの質問が寄せられました。

2022年８月30日　教員研修留学生が「サマースクール2022イン曽爾」に参加しました。

教員研修留学生が本学理数教育研究センター主催の「サマースクール2022イン曽爾」に参加し、自国の中学生の生活について発表しました。

参加した教員研修留学生の感想

PALISOC Raysel Evarem Palac

Participating in the Soni Summer School 2022 even just for a day is truly an experience that I will never forget. At first, I was a bit surprised because I did not expect that the school building was new and was very big, given the small number of students studying in each grade level. We were given a chance to present about our country, the Philippines. We shared to about the Filipino history and culture, as well as some famous places and landmarks. But what made our presentation more fun was the quiz (trivia) portion where the students, and teachers alike actively participated. They raised their hands to answer each question in anticipation of the correct answers! I hope they learned a lot and they had fun, because I really had a good time!

AYTIN Ma. Cristina Barnedo

The school visit to SONI Junior High School was a fun and enriching experience for me. I was happy to be able to interact with Japanese junior high school students and some teachers. They were all welcoming and nice, and the school is beautiful and well-maintained. I was able to observe a math class as well, and I gained a lot of insights from it. I am also grateful for the opportunity to introduce my country, Philippines, and share some information about our school culture. Thank you very much for making this activity possible.

TAN SIEW CHING

We went to Soni Junior High School and gave a presentation about our own country. We also explained a bit about the school life in our country.

The students were very shy and it was not easy to get them to talk. I am in the same classroom as 4 Japanese students (majoring in science) from NUE and their lesson was about making your own mirror. They take turns to give some explanation and then help the students with the experiment step-by-step, when they gave further explanation, they also asked questions and the students were more prepared to engage in the lesson. It was a fun experience to see the students become more active in class.

国際交流イベント「稲刈りを体験しよう！」を開催しました。（2022年10月５日）

10月５日（水）、自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「稲刈りを体験しよう！」を開催しました。このイベントは留学生と日本人学生の交流の場にもなっています。新型コロナウイルスの影響で過去２年は中止を余儀なくされましたが、今年は無事に開催することができました。

当日は、留学生と日本人学生の計16名が参加し、箕作和彦准教授による日本の米作りの流れについて講義を受けた後、実際に鎌を持って稲刈り作業を体験しました。

稲刈りを始めると、はじめこそ慣れない手つきで刈っていたものの、要領をつかむと鎌を一回入れただけで一株刈り取れるほどに上達しました。その後、コンバインを使った機械作業も見学し、体験的な学びを得ることができました。

令和４年度　秋季留学生入学式＆懇談会が開催されました。（2022年10月12日）

10月12日（水）、令和４年度秋季留学生入学式が本学山田ホールにて開催されました。

大学間交流協定に基づく交換留学生、日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、研究生24名への学長からの祝辞、在学生からの歓迎の言葉があり、新入留学生は気持ちを新たに日本での学生生活をスタートさせました。

また、引き続き行われた懇談会では、在学生の参加も増え、終始和やかな雰囲気の中、親睦を深めることができました。

「なっきょん’s Café」で若草山へハイキングに行きました（2022年10月26日）

留学生と日本人学生の交流イベント「なっきょん’s Café」で若草山へハイキングに行きました。気持ちの良い秋晴れの中、大学から歩いて山の麓まで行き、若草山南ゲートから入山しました。

最初はジャケットを羽織っていた学生も徐々に薄着になり、息を切らしながら登りました。想像よりも急な坂に「もう帰ろうよ」とか「まだ着かないの」と弱気になる時もありましたが、全員頂上まで登り切ることができました。達成感を共有しながら眺める山頂からの景色は格別でした。

図書館ガイダンスを開催しました（2022年11月９日）

大学図書館の協力を得て、留学生向けに図書館ガイダンスを開催し、留学生12名が参加しました。
図書館では、図書の閲覧や借用だけではなく、論文のコピーを取り寄せる方法なども説明していただきました。
また参加者は持参したスマートフォンなどを操作しながら、蔵書検索の方法や「マイライブラリ」の使い方についても説明を受けました。

2022年秋学期入学留学生の自己紹介を掲示しました。（2022年11月15日）

国際交流留学センター（R5：新館２号棟１階内）前の掲示板に、2022年秋学期入学の交換留学生および日本語日本文化研修留学生の自己紹介を掲示しました。
お時間あるときにぜひ足を運んで見に来てください。

留学生が高野山に学習旅行へ行ってきました。（2022年11月25日）

本学に留学中の日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生が日帰り学習旅行で高野山へ行ってきました。

阿字観や写経などの体験をするとともに、高野豆腐をはじめとする精進料理も実際に食し、真言密教の教えや高野山の伝統に触れました。最後は金剛峯寺を拝観し、弘法大師による高野山開創の歴史について学びました。

わずかな時間ではありましたが真言密教の聖地である高野山を訪ね歩くことによって、日本における宗教や信仰に関する理解を深めることができました。

自然環境教育センター奈良実習園にて国際交流イベント「もちつきをしよう！」を開催しました。

（2022年12月14日）

国際交流イベントとして、大学附属の自然環境教育センター奈良実習園にてもちつきを行いました。
技術教育講座の箕作和彦准教授による日本の米作りの流れについて講義を受けたあと、実際にもちつきを体験しました。

まずは蒸しあげた熱々のもち米を実習園の教職員の方々の指導のもと、臼の周りをぐるぐる回りながら杵で練るように潰しました。その後は順番にもちつきをしました。杵の握り方、力の入れ方などについてアドバイスをもらいながら、楽しく、一生懸命もちをつきました。最後はついたおもちを丸め、各自持ち帰りました。日本人学生から紹介してもらったおもちの食べ方（砂糖醤油、きな粉、餡子など）を参考に、留学生は美味しく食したことと思います。

「なっきょん's Café」でHappy holidays～クラフト体験とプレゼント交換を行いました

（2022年12月23日）

留学生と日本人学生の交流イベント「なっきょん's Café」でプチプレゼントの作成とその後交換会を行いました。
粘土で雪だるまやお正月の鏡餅を作ったり、色紙でクリスマスカードを作ったりと、それぞれ一生懸命プレゼントを作りました。その後、サポーターの学生が選曲してくれた歌にあわせて机をまわり、曲が止まったところにあるプレゼントを各自持ち帰りました。
楽しい思い出と手作りのプレゼントを今後も大切にしてくれることと思います。

1.3 日本語・日本文化研修留学生/協定校交換留学生/教員研修留学生プログラム

●2021年度受入　日本語・日本文化研修留学生･交換留学生

＊一部2022年度4月受入

大使館推薦 日本語・日本文化研修留学生	1名	ブラジル連邦共和国
大学推薦 日本語・日本文化研修留学生	2名	Ⅱ－4 協定大学からの受入留学生数参照
国際交流協定に基づく特別聴講学生	7名	

修了レポートタイトル一覧

「現代日本におけるレイキ療法の評判の推移―なぜレイキ療法は日本で人気がないのか。―」
「『万葉集』とその受容―時代を超えた最古の和歌集―」
「日系ブラジル人のアイデンティティ
　―子どもに伝えるべき継承文化としての「日本文化」とは？―」
「「本音と建前」における文化的な違い ―本音と建前に関するコミュニケーション上の問題―」
「『枕草子』における白詩の受容――「木の花は」章段を例として――」
「谷崎潤一郎『鍵』における叙事視点の転換について」
「『天平の甍』における普照の人物像について」
「文学翻訳における文化要素につながる「創造的裏切り」に関する考察
　―『風立ちぬ』の四つの中国語訳本を例に―」
「日本のゆるキャラ ― 韓国の地域キャラクター産業の発展のため ―」
「女性の大学生・院生と着物の関係―続ける習慣―」

●2022.4-2023.3　教員研修留学生

4名	パキスタン・イスラム共和国、フィリピン共和国、マレーシア

研究報告書

“USAGE OF ICT IN THE EDUCATION SYSTEM OF JAPAN”
“TEACHING MATHEMATICAL MODELING IN SECONDARY SCHOOLS IN JAPAN: CHALLENGES AND OPPORTUNITIES”
“A REVIEW OF PROJECT-BASED LEARNING ELEMENTS
IN SCIENCE LESSONS IN JAPAN”
“GENDER COMPARISON OF SPORT MOTIVATION, ENTRY TO SPORT AND SPORT PARTICIPATION TREND AMONG JAPANESE ADULTS”

2. 教育研究活動

2.1 2015～2019年度　学長裁量経費プロジェクト「教員養成大学における「グローバル人材」育成のためのカリキュラムに関する総合的研究」

本学では、教員養大学としての国際交流の在り方について「国立大学法人奈良教育大学 国際交流に関する基本方針（改正平成25年３月６日規則第６号）」を定め、「国際的視点に立った教員の養成に資する」目的で国際交流事業を展開しています。それを受け、「グローバル人材」とその育成について、教員養成や学校教育の文脈でとらえなおすことが必要だという問題意識から、2014年度に国際交流留学センターを中心とした学内組織横断的な構成員による本プロジェクトがスタートしました。本プロジェクトに先立って2013年度に、国際交流留学センターでは全１回生を対象に「海外留学、国際交流についての意識調査」を実施しました。その調査では、海外留学について「したくない」あるいは「考えたことがない」者が全体の43％、その理由として41％の者が「興味がない」と回答しました。また、留学の目的を40％の者が「異文化理解の機会」と考え、すべての者が「留学生との交流に興味がある」としているものの、実際には学内での異文化交流は活発に行われていないという現状も明らかになりました。一方、授業等で学生に「あなたの周りに外国人がいますか」と問うと、「観光客」という回答しか聞こえてこないということも未だに少なくありません。これらの現状は、学校教育の現場で「グローバル人材」の育成を担う教員を目指す学生たち自身の異文化経験、グローバル意識や多文化共生社会に対する理解の欠如の現れだとも言えるでしょう。このような課題は、多くの大学が抱えるものだと思われますが、本プロジェクトでは６年間にわたって、学生や現職教員たちが「グローバル人材」の育成について当事者意識をもって考える機会を提供してきました。

［プロジェクトメンバー］※登壇者の所属・肩書はプロジェクト実施当時のもの。

和泉元千春　　国際交流留学センター　准教授（2014-2019年度）
岩坂泰子　　英語教育講座　特任准教授（2014-2016年）
小嶋祐司郎　　本学附属中学校　教諭（2015-2016年）
勝原　崇　　本学附属小学校　教諭（2018-2019年）
加藤久雄　　副学長（国際交流・地域連携担当）（2014-2015年）
小島道子　　次世代教員養成センター・ボランティアサポートオフィス（2014-2016年）
佐古田康義　　本学附属中学校教諭（2017年）
櫻井（林）　綾　本学附属小学校　教諭（2014-2017年）
渋谷真樹　　学校教育講座　教授（2014-2019年，2017年から本センター長）
竹内範子　　本学附属幼稚園　副園長（2017年）
谷口尚之　　本学附属中学校　教諭（2018年）
頓宮勝　　国際交流留学センター　教授（2014-2019年，2014-2016年から本センター長，2017年から特任教授）
中谷いずみ　　国語教育講座（2017年）
橋崎頼子　　教育連携講座・准教授（2016-2019）
長谷川かおり　本学附属幼稚園　副園長（2018-2019年）
松田孝史　　本学附属中学校　副校長（2019年）
松山豊樹　　理数教育研究センター　教授（2018-2019年）

横山真貴子　　幼年教育講座（2017-2019年）
吉村雅仁　　教職大学院　教授（2014-2019年）

［プロジェクト概要］
〇シンポジウムの開催
※登壇者の所属・肩書はシンポジウム開催当時のもの。
※上記シンポジウムの詳細報告は各年度の報告書を参照のこと。http://cies.nara-edu.ac.jp/report.html
後援　　奈良県教育委員会、奈良市教育委員会

［2015年度］
＜第１回＞2015年12月12日（土）13：00-17：00
参加者：本学学生124名、本学教職員７名、学外８名
講演「「グローバル人材」になる―言語文化教育の個と社会の立場から―」
（早稲田大学名誉教授、言語文化教育研究所八ヶ岳アカデメイア主宰　細川英雄氏）
実践報告①「奈良教育大学における留学生教育と連動した言語文化教育の実践」
（本学国際交流留学センター・准教授　和泉元千春・英語教育講座・特任講師　岩坂泰子），
実践報告②「奈良教育大学附属小学校「言語・文化」の実践」
（本学附属小学校教諭・林綾・英語教育講座・特任講師　岩坂泰子）
＜第２回＞2016年３月19日（土）13：00-17：00
参加者：本学学生４名、本学教職員10名、学外12名
講演「グローバル時代の教員養成の課題―「異文化間能力」育成の視点から―」
（目白大学学長 佐藤郡衛氏）
実践報告①「ＥＳＤの視点に基づいた道徳性育成の授業実践」（本学附属中学校教諭　小嶋佑伺郎），
実践報告②：「異文化間能力」を育む教員養成－博物館における校外学習をめぐって」
（学校教育講座・教授　渋谷真樹）
報告書URL：https://www.nara-edu.ac.jp/CIES/assets/report/2015_symposium.pdf

［2016年度］
＜第１回＞2017年１月７日（土）13：30-17：00
参加者：本学学生97名、本学教職員５名（プロジェクトメンバーを除く）、学外４名
講演「「多文化教員」に求められる資質・能力―多様な言語文化背景の子どもたちの学びの場をデザインするために」（東京学芸大学教育学部教授　齋藤ひろみ氏）
実践報告①「奈良市における日本語指導が必要な児童生徒の現状」
（奈良市教育委員会学校教育課教育推進係日本語指導コーディネーター　吉村瑞希氏）
実践報告②：「子どもたちの世界を広げる附属小学校における「言語文化」の教育実践」
（国際交流留学センター・准教授　和泉元千春・英語教育講座・特任講師・岩坂泰子・本学附属小学校・教諭　林綾）
＜第２回＞2017年２月18日（土）13：30-17：00
参加者：本学学生151名、学外12名
講演「新しい教育課程と学びのイノベーション―コンピテンシーを育む学びのデザインと教師の育成」

（国立教育政策研究所・初等中等教育研究部・総括研究官　松尾知明氏）
実践報告①「地球市民意識の形成と道徳教育―ボーダー（境界）を考えることから他者とのつながりを実感する実践を通して―」（本学附属中学校・教諭　小嶋佑伺郎氏）
実践報告②「教員志望学生と留学生が共に学ぶことは何を得られるか：未来をつくる教育の担い手をめざして」（東京学芸大学教育学部・准教授　南浦涼介氏）
報告書URL：https://www.nara-edu.ac.jp/CIES/assets/report/2016_symposium.pdf

［2017年度］ 2017年12月９日（土）13：30-17：00
参加者：第一部85名　第二部70名
講演：「「やさしい日本語」と学校教育」（京都外国語大学外国語学部教授　森篤嗣氏）
ワークショップ「インタビュー詩を創ろう」
（ファシリテータ：目白大学・専任講師　横田和子氏・本学国際交流留学センター　和泉元千春）
報告書URL：https://www.nara-edu.ac.jp/CIES/assets/report/2017_symposium.pdf

［2018年度］ 2019年１月24日（木）16：30-18：30
参加者：53名
講演・ワークショップ「学校・地域でできる文化言語の多様な子どもの支援」
（同志社大学　日本語・日本文化教育センター・准教授　櫻井千穂氏）
報告書URL：https://www.nara-edu.ac.jp/CIES/assets/report/2018_symposium_compressed.pdf

［2019年度］2019年12月15日（日）13：30-16：30
参加者：65名（本学学生47名、学内教員５名、学外（一般、院生）：13名）
話題提供①「小学校の外国語教育の現場から」
（奈良市立都祁小学校・教頭　岸下哲史氏，奈良市立椿井小学校・教諭　大形憲治氏）
話題提供②「国際バカロレアと中等教育の現場から」
（大阪市立水都国際中学校/高等学校・国際バカロレア・コーディネーター　熊谷優一氏）
話題提供③「外国人児童生徒等教育の現場から」　（四日市市教育委員会・指導主事　重内庸司氏）
講演「学校教育におけるグローバル人材育成を担う教員に何が必要か？」
（本学教職大学院・教授　吉村雅仁氏）
報告書URL：https://www.nara-edu.ac.jp/CIES/assets/report/2019_symposium.pdf

○主な調査研究と成果の公開
・本学既存の教育学部科目と留学生向け科目、本学附属校（附属小学校、附属中学校）等での異文化理解にかかる教育（国際理解教育など）の連動等によって、本学学生のグローバル意識の醸成を試み、それらの実践の成果を学外に発信した。（主要なもののみ）
和泉元千春・岩坂泰子（2016）「教員養成大学におけるグローバル化に連動した国内学生と留学生共修による言語文化教育」『奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要』２号
和泉元千春（2019）「教員研修留学生と国内学生の協働を取り入れた言語学習の実践―教員研修留学生プログラムにおける中学校交流の準備を例として―」『奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要』５号　ほか

・ストラスブール大学教職大学院教授アンドレア・ヤング氏（バイリンガル教育、多言語複言語教育）を訪問し情報収集を行った。（2014年８月25-26日）

2.2 2020～2022年度　国際交流留学センター主催シンポジウム・ミニレクチャー

本学の国際交流戦略「グローバルな視野を備えた教員の養成」に寄与するため「文化多様性教育の実践的、理論的研究」の一環として、以下のシンポジウム・ミニレクチャーを主催しました。

［2020年度］2021年１月25日　17：30-19：00

参加者：本学学生、教職員、奈良女子大学学生　計39名

話題提供①「日本語指導が必要な子どもたちとは？～奈良市における現状と取り組み～」

（奈良市教育委員会日本語指導コーディネーター　植田央子氏）

話題提供②「どうする!?外国ルーツの生徒への学校での支援」

（奈良市教育委員会学校教育課指導主事　中西利彦氏）

※教職科目「教職実践演習2020」ステージ３対象

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催

［2021年度］2022年１月26日（水）18：00-20：00　オンライン開催

参加者：33名

教師のための多様性理解シリーズ（１）ミニレクチャー イスラームについて知ろう―日本の学校教育におけるムスリム―

テーマ・講師

①「イスラームとは？」（イスラームという宗教の基礎）

講師：小村明子：奈良教育大学 特任講師

②「学校教育においてムスリムたちが直面する課題」（具体的な６つの事例と教員としてできること）

講師：佐藤裕一：サウジアラビア王国大使館附属アラブイスラーム学院 教員（宗教法人日本ムスリム協会理事）

［2022年度］2022年８月22日（月）18：00-20：00　ハイブリッド開催

参加者：32名

教師のための多様性理解シリーズ（２）ミニレクチャー SOGIについて知ろう 学校教育における性の多様性

テーマ・講師

①「「ありのままの自分」で生きるために、「ありのままの自分」をつらぬくために」（性の多様性の基礎知識と当事者として生きる教員の軌跡）

講師：倉嶋 麻理奈（特定非営利活動法人チーム紀伊水理事長、和歌山市内中学校教員）

②「二重のマイノリティーとして生きる」（日本そして中国社会において）

講師：李 洋（奈良教育大学教職大学院修了生）

Ⅲ　運営委員会・教員

国際交流留学センター運営委員会　※氏名は五十音順で記載

氏名	所属	任期
和泉元　千春	教育連携講座	2014年度～2022年度
奥原　牧	附属中学校	2019年度～2022年度
尾本　潤治	附属中学校	2014年度～2016年度
加藤　久雄	国語教育講座	2014年度～2015年度
門田　守	英語教育講座	2014年度～2015年度
小村　明子	国際交流留学センター	2021年度～2022年度
近藤　裕	数学教育講座	2014年度～2022年度
渋谷　真樹	学校教育講座	2014年度～2019年度
頓宮　勝	国際交流留学センター	2014年度～2020年度
松田　孝史	附属中学校	2017年度～2018年度
吉村　雅仁	教育連携講座	2014年度～2022年度
米倉　陽子	英語教育講座	2016年度～2022年度
劉　麟玉	音楽教育講座	2014年度～2022年度

教員

教　　授　頓宮　勝　　2014年度～2015年度　センター長
教　　授　渋谷　真樹　2016年度～2019年度　センター長
教　　授　吉村　雅仁　2020年度～2022年度　センター長
准 教 授　和泉元　千春
特任講師　小村　明子
教　　授　劉 麟玉

奈良教育大学 国際交流留学センター主催 シンポジウム
【平成27年度学長裁量経費プロジェクト】
教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える

第1回
言語文化教育における グローバル人材育成

□と　　き：2015年12月12日（土）13:00～17:00
□と こ ろ：奈良教育大学 大講義室
□参加対象：本学学生・教職員、教育関係者、一般の方
□参 加 費：無料

学校教育現場における多文化化や外国語教育・異文化理解教育の変化といった社会的背景を受けて、教員養成大学における「グローバル人材」のあり方とその養成が教員養成大学にとって重要な課題となっています。そこで奈良教育大学では、シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材を考える」を2回シリーズで開催いたします。

第１回は細川英雄氏をお迎えし、「言語と文化のハイブリッド性」「異文化・異言語の壁」をキーワードに言語文化教育における「グローバル人材育成」についてお話しいただきます。

プログラム

講演

「グローバル人材」になる
―言語文化教育の個と社会の立場から―
細川 英雄氏（早稲田大学名誉教授 言語文化教育研究所八ヶ岳アカデメイア主宰）

実践報告①

奈良教育大学における留学生教育と連動した言語文化教育の実践
本学国際交流留学センター・准教授　和泉元 千春
本学英語教育講座・特任講師　岩坂 泰子

実践報告②

奈良教育大学附属小学校「言語・文化」の実践
本学附属小学校教諭　林 綾
本学英語教育講座・特任講師　岩坂 泰子

ディスカッション

講師プロフィール

細川 英雄氏（ほそかわ ひでお）

1949年東京都生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得、博士（教育学）。早稲田大学名誉教授。現在、言語文化教育研究所八ヶ岳アカデメイア主宰。研究分野は言語文化教育学、日本語教育。学習者主体の言語教育理論を展開し、言語活動主体としての言語話者のあり方について「ことばの市民」という概念を提案している。著書は『日本語教育は何をめざすか』（明石書店）、『研究活動デザイン』（東京図書）、『「ことばの市民」になる―言語文化教育学の思想と実践』（ココ出版）など多数。

［お問い合わせ先］
奈良教育大学 国際交流留学センター

［参加申し込み方法］
12月8日（火）までに、お名前・御所属を明記のうえ、
下記アドレス、またはお電話かFAXにて、お申し込み下さい。
E-mail　　kokusai_ryugaku@nara-edu.ac.jp
電話/FAX　0742-27-9177

42

奈良教育大学 国際交流留学センター主催 シンポジウム【平成27年度学長裁量経費プロジェクト】

教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える

第2回
グローバル人材に求められる異文化間能力
ー教員養成から学校教育へー

□と　　き：2016年3月19日(土)13:00-17:00
□ところ：奈良教育大学 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール
□参加対象：本学学生・教職員、教育関係者、一般の方
□参加費：無料

学校教育現場における多文化化や外国語教育・異文化理解教育の変化といった社会的背景を受けて、教員養成大学における「グローバル人材」のあり方とその養成が教員養成大学にとって重要な課題となっています。そこで奈良教育大学では、シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材を考える」を2回シリーズで開催いたします

第2回は佐藤郡衛氏をお迎えし、グローバル時代における教員養成の課題について、教師に求められる「異文化間能力」を育成するという視点からお話しいただきます。

プログラム

講演

グローバル時代の教員養成の課題
ー「異文化間能力」育成の視点からー
佐藤 郡衛氏(目白大学 学長)

実践報告①

ESDの視点に基づいた道徳性育成の授業実践
本学附属中学校教諭　小嶋 佑伺郎

実践報告②

「異文化間能力」を育む教員養成
ー博物館における校外学習をめぐってー
本学学校教育講座・教授　渋谷 真樹

ディスカッション

講師プロフィール

佐藤 郡衛氏(さとう ぐんえい)

目白大学学長
東京大学大学院教育学研究科単位取得後退学 博士(教育学)
異文化間教育学会理事長、東京学芸大学理事・副学長、外務省海外交流審議会委員等を歴任
『国際理解教育ー多文化共生社会の学校づくりー』『異文化間教育ー文化間移動と子どもの教育ー』など著書多数。

［お問い合わせ先］
奈良教育大学 国際交流留学センター
［参加申し込み方法］
3月15日(火)までに、お名前・御所属を明記のうえ、
下記アドレス、またはお電話かFAXにて、お申し込み下さい。
E-mail　kokusai_ryugaku@nara-edu.ac.jp
電話/FAX　0742-27-9177
［後援］奈良県教育委員会、奈良市教育委員会(申請中)

74

奈良教育大学 国際交流留学センター主催 シンポジウム
（平成28年度学長裁量経費プロジェクト）

教員養成大学における グローバル人材育成を考える

学校教育現場における多文化化や外国語教育・異文化理解教育の変化といった社会的背景を受けて、教員養成大学における「グローバル人材」のあり方とその養成が教員養成大学にとって重要な課題となっています。そこで奈良教育大学では、昨年度に引き続き、シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材を考える」を2回シリーズで開催いたします。

第1回

□ 日　　時／ 2017年1月7日（土）13:30~17:00
□ 会　　場／ 奈良教育大学 大講義室
□ 参加対象／ 本学学生・教職員・一般の方
□ プログラム

実践報告①
奈良市における日本語指導が必要な児童生徒の現状
奈良市教育委員会 学校教育課教育推進係 日本語指導コーディネーター　吉村 瑞希

実践報告②
子どもたちの世界を広げる附属小学校における「言語文化」の教育実践
奈良教育大学学附属小学校教諭　林 綾
奈良教育大学　和泉元 千春・岩坂 泰子

講演
「多文化教員」に求められる資質・能力
―多様な言語文化背景の子どもたちの学びの場をデザインするために―
東京学芸大学　齋藤 ひろみ

講師紹介　齋藤 ひろみ（さいとう ひろみ）
東京学芸大学教育学部日本語教育学分野 教授
著書に「外国人児童生徒のための支援ガイドブック～子どもたちのライフコースによりそって」（凡人社 2011）、「文化間移動をする子どもたちの学び－教育コミュニティの創造に向けて」（ひつじ書房 2009）、「外国人児童生徒の学びを創る授業実践－「ことばと教科の力」を育む浜松の取り組み」（くろしお出版　2015）、「異文化間に学ぶ「ひと」の教育」（明石書店 2016）などがある

第2回

□ 日　　時／ 2017年2月18日（土）13:30~17:00
□ 会　　場／ 奈良教育大学 大講義室
□ 参加対象／ 本学学生・教職員・一般の方
□ プログラム

講演
新しい教育課程と学びのイノベーション
―コンピテンシーを育む学びのデザインと教師の育成―
国立教育政策研究所　松尾 知明

実践報告①
グローバル時代の市民性を育てる教員養成
―教員志望学生と留学生の交流授業から―
東京学芸大学教育学部日本語教育学分野 准教授　南浦 涼介

実践報告②
地球市民意識の形成と道徳教育
―ボーダー（境界）を考えることから他者とのつながりを実感する実践を通して―
奈良教育大学学附属中学校教諭　小嶋 祐伺郎

講師紹介　松尾 知明（まつお ともあき）
国立教育政策研究所・初等中等教育研究部・総括研究官
著書に「アメリカの現代教育革命」（東信堂,2010）、「アメリカ多文化教育の再構築」（明石書店 2007）、「多文化共生のためのテキストブック」（明石書店　2011）、「多文化教育がわかる事典」（明石書店　2013）、「多文化教育をデザインする」（勁草書房 2013）、「教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる授業デザイン」（学文社 2014）、「21世紀型スキルとは何か－コンピテンシーに基づく教育改革の国際比較」（明石書店 2015）などがある

［お問い合わせ先］奈良教育大学 国際交流留学センター
［参加申し込み方法］お名前・御住所・御所属を明記の上、下記アドレスまたはお電話かFAXにてお申し込みください。
E-mail／kokusai_ryugaku@nara-edu.ac.jp　電話・FAX／0742-27-9177
［申し込み締め切り］第1回 1月3日（火）　第2回 2月14日（火）
［後援］奈良県教育委員会、奈良市教育委員会（申請中）

奈良教育大学 国際交流留学センター主催 シンポジウム

平成29年度学長裁量経費プロジェクト

教員養成大学における グローバル人材育成を考える

学校教育現場における多文化化や外国語教育・異文化理解教育の変化といった社会的背景を受けて、教員養成大学における「グローバル人材」のあり方とその養成に関する検討が教員養成大学にとって重要な課題となっています。そこで奈良教育大学では、昨年度に引き続き、シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材を考える」を開催いたします。
今年度は多文化社会における「ことば」をテーマに講演とワークショップを行います。

□ 日　　時／ 2017年12月9日（土）13:30～17:00（受付開始13:00）

□ 会　　場／ 奈良教育大学 大会議室（本部管理棟2階）

□ 参加対象／ 本学学生・教職員・一般の方　　参加料 無料

プログラム

［第一部］講演

「やさしい日本語」と学校教育

京都外国語大学　森 篤嗣

「やさしい日本語」とは，語彙や文法項目を制限し，多くの非母語話者が理解できるように工夫した日本語です。「やさしい日本語」が目指すのは，外国人だけに日本語習得を押しつけない，寄り添いあう地域社会像であり，「日本語母語話者と非母語話者の歩み寄り」です。講演の前半では，こうした「やさしい日本語」の理念や背景についてお話しします。ところで，「やさしい日本語」の理念そのものは，特別に新しい概念というわけではありません。「わかりやすく伝える」ということは，長年，学校教育や国語教育で取り組まれてきたことなのです。講演の後半では昭和27年使用開始以降の1,285冊の小学校教科書を調査した結果を例にしながら考えます。

講師紹介　森 篤嗣（もり あつし）

京都外国語大学外国語学部日本語学科教授
専門分野は日本語学、国語科教育、日本語教育。著書は『授業を変えるコトバとワザ―小学校教師のコミュニケーション実践』（2013年、くろしお出版）、『にほんごこれだけ1&2』（2010/2011年、ココ出版、共編著）、『日本語教育文法のための多様なアプローチ』（2011年、ひつじ書房、共編著）、『「やさしい日本語」は何を目指すか：　多文化共生社会を実現するために』（2013年、ココ出版、共編著）など多数。

［第二部］ワークショップ

インタビュー詩を創ろう

ファシリテーター／横田和子（目白大学）
和泉元千春（本学国際交流留学センター）

「インタビュー詩」は，他者との相互インタビューを通し，対話と協働によって詩を作っていく活動です。他者理解や人の話を聴くこと，表現することのレッスンも兼ねています。本ワークショップでは，留学生を含む文化や背景の異なる人同士の対話を通して，他者との「あいだ」を味わい，ことばの力を感じる体験をしてみましょう。

［お問い合わせ先］奈良教育大学 国際交流留学センター

［参加申し込み方法］お名前・ご住所・ご所属を明記の上、下記アドレスまたはお電話かFAXにてお申し込みください。
E-mail／kokusai_ryugaku@nara-edu.ac.jp　　電話・FAX／0742-27-9177

［申し込み締め切り］12月5日（火）

［後援］奈良県教育委員会、奈良市教育委員会（申請中）

教員養成大学における グローバル人材育成を考える

奈良教育大学　国際交流留学センター主催　シンポジウム

平成３０年度学長裁量経費プロジェクト

学校教育現場における多文化化や外国語教育・異文化理解教育の変化といった社会的背景を受けて、教員養成大学における「グローバル人材」のあり方とその育成に関する検討が教員養成大学にとって重要な課題となっています。そこで奈良教育大学では、昨年度に引き続き、シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材を考える」を開催いたします。

日　　時 / 2019年1月24日（木）
16：30～18：30　（受付開始16：10）

会　　場 / 奈良教育大学
次世代教員養成センター２号館
多目的ホール

参加対象 / 本学学生・教職員・一般の方

参加費：無料
定　員：40名

◆プログラム◆

講演・ワークショップ

「学校・地域でできる文化言語の多様な子どもの支援」

講師：櫻井千穂氏（同志社大学　日本語・日本文化教育センター・准教授）

日本国内の学校現場にも様々な文化背景をもつ子どもが増えています。
この子どもたちのことばの力を伸ばし、心の発達を促すには
どのような支援が必要でしょうか。
バイリンガル教育の理論をふまえた上で、国内の先進的な教育実践を紹介し
「明日からできること」を一緒に考えたいと思います。

[お問い合わせ先]　奈良教育大学　国際交流留学センター
[参加申込み方法]　お名前・ご住所・ご所属を明記の上、下記アドレスまたは
お電話かFAXにてお申し込み下さい。
E-mail / kokusai_ryugaku@nara-edu.ac.jp　　電話・FAX / 0742-27-9177
[申し込み締め切り]　1月18日（金）
[後援]　奈良県教育委員会、奈良市教育委員会

教員養成大学における グローバル人材育成を考える

奈良教育大学　国際交流留学センター主催　シンポジウム

令和元年度学長裁量経費プロジェクト

学校教育現場における多文化化や外国語教育・異文化理解教育の変化といった社会的背景を受けて、教員養成大学における「グローバル人材」のあり方とその育成に関する検討が教員養成大学にとって重要な課題となっています。そこで奈良教育大学では、昨年度に引き続き、シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材を考える」を開催いたします。

日　　時 / 2019年12月15日(日)
13:30～16:30　(受付開始13:10)

会　　場 / 奈良教育大学
大会議室(管理棟2F)

参加対象 / 本学学生
本学教職員(附属校園含む)
一般の方

参加費:無料
定　員:50名

◆テーマ◆

教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える

「学校教育におけるグローバル人材育成を担う教員に何が必要か?」

◆プログラム◆

話題提供①「小学校の外国語教育の現場から」
　話題提供者:岸下哲史氏(都祁小学校教頭)・大形憲治氏(椿井小学校教諭)

話題提供②「国際バカロレアと中等教育の現場から」
　話題提供者:熊谷優一氏(大阪市立水都国際中学校・高等学校
　国際バカロレア・コーディネーター)

話題提供③「外国人児童生徒等教育の現場から」
　話題提供者:重内庸司氏(四日市市教育委員会指導主事)

講演「学校教育におけるグローバル人材育成を担う教員に何が必 要か?」
　講師:吉村雅仁氏(本学教職大学院教授)

[お問い合わせ先]　奈良教育大学　国際交流留学センター
[参加申込み方法]　お名前・ご住所・ご所属を明記の上、下記アドレスまたはお電話かFAXにてお申し込み下さい。
E-mail : kokusai_ryugaku@nara-edu.ac.jp　電話・FAX / 0742-27-9177
[申し込み締め切り]　12月　10日（火）
[後援]　奈良県教育委員会、奈良市教育委員会

奈良教育大学　国際交流留学センター主催　シンポジウム

文化的言語的に多様な子どもたちへの支援を考える

日　　時 / 2021 年 1 月 25 日（月）
17:30 ～ 19:00

会　　場 / オンライン開催
（Microsoft Teams 利用）

参加対象 / 本学学生・教職員
（学内関係者以外は受け付けておりません）

※本シンポジウムは「教職実践演習 2020」ステージ 3
の対象となっております。

① 植田央子氏（奈良市教育委員会
日本語指導コーディネーター）

「日本語指導が必要な子どもたちとは？
～奈良市における現状と取り組み～」

奈良市の外国人児童生徒の現状と市の取り組みを
お話しいただきます

② 中西利彦氏（奈良市教育委員会
学校教育課指導主事）

「どうする!?外国ルーツの生徒への学校での支援」

中学校での中国ルーツの生徒に対する生活指導や
教科（国語）指導の経験についてお話いただきます

〔問い合わせ先〕奈良教育大学　国際交流留学センター
〔申し込み方法〕国際交流留学センター（kokusai_ryugaku@nara-edu.ac.jp）あてに
以下の情報をお知らせください。
氏名　/　専修名　/　回生
お申し込み後、Teams への入室方法をご連絡します。
※申し込み締め切り：1 月 21 日（木）

奈良教育大学 国際交流留学センター主催

教師のための多様性理解シリーズ（1）　ミニレクチャー

イスラームについて知ろう

日本の学校教育におけるムスリム

２０２２年1月２６日（水）１８時００分～２０時００分

オンライン開催

　コロナ禍におけるオリンピック・パラリンピックで話題になった『多様性』は、必ずしも身体的特徴や障がいに関することだけではありません。
　特に学校教育における多様性を考える際には、人種、国籍、言語、宗教、年齢、ジェンダーなど個人・集団間で違いを生み出す可能性のあるあらゆる要素が含まれてきます。
　今回の講演会は、個人や集団の価値観や行動様式に大きな違いをもたらす宗教、とりわけ日本の教育ではあまり触れられることのないイスラームに焦点をあて、その分野の専門家の話を聞く機会を提供いたします。特に教育関係者にとっては実践のための貴重な情報が得られるかもしれません。オンラインで行いますので、お気軽にご参加ください。

テーマ・講師

①「イスラームとは？」（イスラームという宗教の基礎）
　講師：小村明子：奈良教育大学　特任講師

②「学校教育においてムスリムたちが直面する課題」
　（具体的な6つの事例と教員としてできること）
　講師：佐藤裕一：サウジアラビア王国大使館附属アラブイスラーム学院　教員
　（宗教法人日本ムスリム協会理事）

参加対象　本学学生・教職員・学校教員ならびに学校教育関係者

参加方法　お名前、ご所属、メールアドレスを、1月20日までに以下の申込み先にお知らせください。
お申し込みいただいた方にZoomの参加用URLを送付いたします。

申込先：kokusai_ryugaku@nara-edu.ac.jp（国際交流留学センター）

後援：奈良県教育委員会　奈良市教育委員会

奈良教育大学 国際交流留学センター主催

教師のための多様性理解シリーズ（2） ミニレクチャー

SOGIについて知ろう

学校教育における性の多様性

２０２２年８月２２日（月）１８時００分～２０時００分

ハイブリッド開催・参加費無料

今回の講演会は、性的指向と性自認（SOGI=Sexual Orientation & Gender Identity）を取り上げます。近年日本の学校においても、LGBT等の用語で、性の多様性についてある程度知られるようになりましたが、性的少数派とされる人たちの話を直接聞く機会はあまり多いとはいえません。今回は、性的少数派としてのご自身の経験とともに性の多様性について積極的に発信されてきた2人の講師を招きます。そのお一人には、学校教員であり一人の当事者としての立場から、もうお一人には、日本および中国社会での国際的な経験からお話しをしていただきます。ハイブリッドで行いますので、奮ってご参加ください。

テーマ・講師

① 「「ありのままの自分」で生きるために、「ありのままの自分」をつらぬくために」（性の多様性の基礎知識と当事者として生きる教員の軌跡）

講師：倉嶋 麻理奈（特定非営利活動法人チーム紀伊水理事長、和歌山市内中学校教員）

② 「二重のマイノリティーとして生きる」（日本そして中国社会において）

講師：李 洋（奈良教育大学教職大学院修了生）

対面開催場所 奈良教育大学１０２講義室

参加対象 奈良教育大学、奈良女子大学の学生・教職員、学校教員ならびに学校教育関係者

参加方法 お名前、ご所属、メールアドレス、対面/非対面希望（対面用の部屋の準備のため）を、8月15日までに以下の申込み先にお知らせください。なお、Zoomの参加用URLは、対面/非対面希望に関わらず送付いたします。

申込先:kokusai_ryugaku@nara-edu.ac.jp（奈良教育大学国際交流留学センター）

後援：奈良県教育委員会　奈良市教育委員会

奈良教育大学 国際交流留学センター活動報告書

発行日　2023年 3 月31日
発　行　奈良教育大学 国際交流留学センター
〒630-8528　奈良市高畑町
国立大学法人　奈良国立大学機構内